

**令和2年度
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書**

**令和3年3月
和歌山市**

はじめに

和歌山市では、市民一人一人が互いに人権を尊重し、職場、家庭、地域社会等のあらゆる分野において、男女がともに責任を分かち合いながら、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現をめざし、平成29年度に「第4次和歌山市男女共生推進行動計画」を策定し、計画に基づき各種施策を推進してまいりました。

また、平成30年6月には男女共同参画の推進に関し基本理念を定め、市並びに市民及び事業者の役割を明らかにするとともに、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進するため「和歌山市男女共同参画推進条例」を施行しました。

このたび、本市がこれまで取り組んできた男女共同参画に関する施策の成果を検証するとともに、市民の皆様の男女共同参画に関する意識の変化や動向を把握するため、「市民意識調査」を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

今回の調査結果は、新たに第5次行動計画を策定するための基礎資料とし、市行政のあらゆる分野で男女共同参画の視点に立った幅広い取組を進めてまいります。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本市の男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年（2021年）3月

和歌山市長 尾花 正 啓

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は市民のさまざまな男女共同参画に関する意識の現状を把握し、今後の施策方針の決定、次期行動計画策定への基礎資料として活用する。

2 調査内容

◆ 回答者について

- (1) 男女共同参画について
- (2) 女性活躍について
- (3) DV（配偶者等からの暴力）について
- (4) 用語の認知度と今後について

3 調査方法

- ◆調査区域 和歌山市全域
- ◆調査対象 20歳以上の和歌山市民
- ◆対象者の抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ◆調査方法 郵送による配布・回収
- ◆調査期間 令和2年10月6日（火）～同10月31日（土）
- ◆調査機関 和歌山市男女共生推進課

4 調査票の回収結果

- ◆調査票発送数 3,000人
- ◆回収数 1,215人（平成28年度実施時 1,124人）
- ◆回収率 40.5%（平成28年度実施時 37.5%）

5 集計結果についての留意点

- ◆図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ◆複数回答（一人の回答者が複数の選択肢を回答する）形式の設問においては、各選択肢の回答率の合計は、原則として100%を超える。
- ◆図中の「n」とは、分類別の該当回答者数を示し、比率は「n」を100%として表示している。※「n」が調査母数の場合は表示しない。

Ⅱ 調査結果の要約

1 男女共同参画について（P8～）

- ・男女の地位の平等については、家庭生活、職場、学校教育、地域活動、政治、法律や制度、社会通念・慣習・しきたり、社会全体のすべての項目で、「男性が優遇されている」と思う割合は、「女性が優遇されている」と思う割合より高くなっている。
- ・男女の性別役割分担意識では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、男女とも「そう思わない」の割合が高く、前回調査（平成28年度）と比較しても「そう思う」割合は低くなっている。
- ・ワーク・ライフ・バランスについては、理想は「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」の割合が最も高くなっているが、現実では「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が最も高くなっている。
- ・子どもの育て方については、「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」の割合が最も高くなっている。
- ・社会活動、地域活動への参加については、「現在、参加している」のは「自治会・町内会の活動」の割合が最も高くなっている。
- ・参加するときの問題としては、「時間がない（仕事・家事・育児・介護で忙しい）」、「どんな活動があるのか分からない」の割合が高くなっている。
- ・男性が家事等に参加していくために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」、「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が高くなっている。
- ・参加したことがある防災活動については、「防災訓練」の割合が最も高くなっている。
- ・避難所などにおいて性別に配慮して取り組む必要があることについては、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」、「性別に配慮した備蓄品の備え」の割合が高くなっている。

2 女性活躍について（P37～）

- ・結婚・出産を中心とした女性の職業のもち方について、理想は「結婚や出産にかかわりなく、職業をもつ」の割合が最も高くなっているが、現実では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」の割合が最も高くなっている。
- ・女性が職業をもち続けていくことの問題としては、「家事や育児・介護との両立は難しい」の割合が最も高くなっている。
- ・就労における性別による差については、男性の方が優遇されていると思う項目で、「管理職への登用」の割合が最も高くなっている。
- ・男女が対等に働くために必要なこととしては、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が最も高くなっている。
- ・今後女性が増えるとよいと思う役職や公職については、「国会議員、地方議会議員」、「知事や市町村長」、「企業の管理職」の割合が高くなっている。

3 DV（配偶者等からの暴力）について（P49～）

- ・配偶者や交際相手から暴力行為を受けたときの相談先としては、「家族」、「友人」の割合が高いが、「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」の割合が最も高くなっている。
- ・「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答した理由としては、「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高く、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」、「相談しても無駄だと思った」の割合も高くなっている。
- ・配偶者や交際相手から暴力を受けたときに必要な支援としては、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」、「親身になって、相談に応じてくれるところ」の割合が高くなっている。
- ・DV防止のための必要な取組としては、「法律の罰則を強化する」の割合が最も高くなっている。

4 用語の認知度と今後について（P62～）

- ・男女共同参画に関する用語について、「ストーカー規制法」や「DV防止法」は認知度が高く、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」や「面前DV」は認知度が低くなっている。
- ・男女共同参画に関する講座で興味のあるテーマについては、「防災」、「こころとからだの健康」の割合が高くなっている。
- ・男女共同参画を推進するための個人の取組については、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」、「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」の割合が高くなっている。

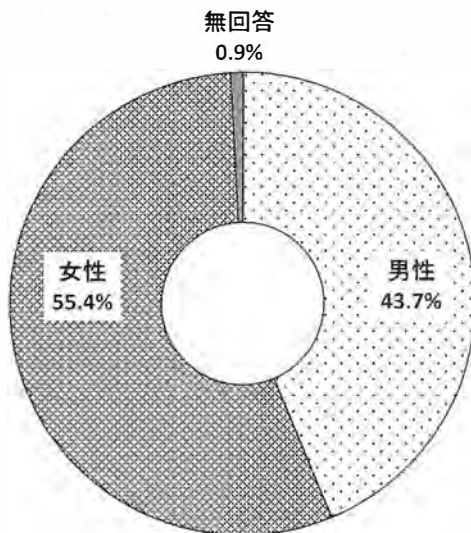
Ⅲ 調査結果

◆ 回答者について

問1 性別について（※自認する性で構いません）

1 男性

2 女性



回答者の男女別構成比は、「女性」が55.4%、「男性」が43.7%と女性の回答が11.7ポイント多くなっている。

問2 年齢について

1 20～29歳

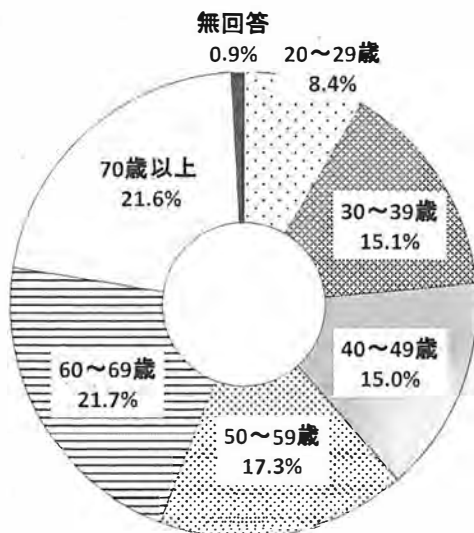
2 30～39歳

3 40～49歳

4 50～59歳

5 60～69歳

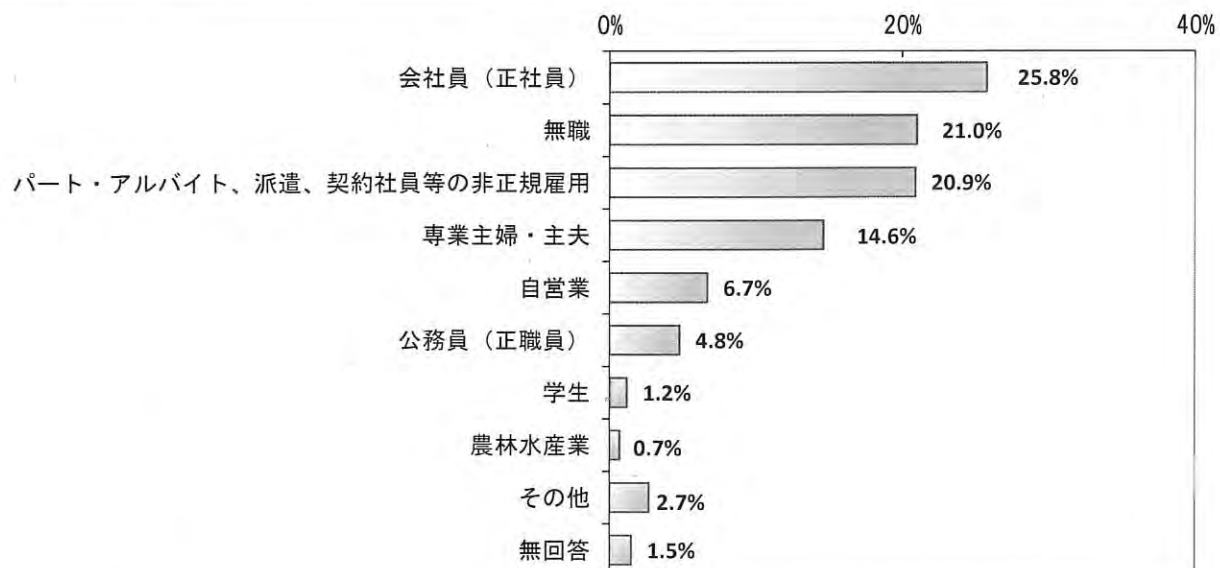
6 70歳以上



回答者の年齢別構成比は、「60歳代」が21.7%と最も多く、次いで「70歳以上」(21.6%)、「50歳代」(17.3%)の順となっている。

問3 現在の職業について

- 1 会社員（正社員） 2 自営業 3 農林水産業 4 公務員（正職員）
 5 パート・アルバイト、派遣、契約社員等の非正規雇用 6 専業主婦・主夫
 7 学生 8 無職 9 その他（ ）



回答者の職業は、「会社員」が25.8%と最も多く、次いで「無職」（21.0%）、「パート・アルバイト、派遣、契約社員等の非正規雇用」（20.9%）の順となっている。

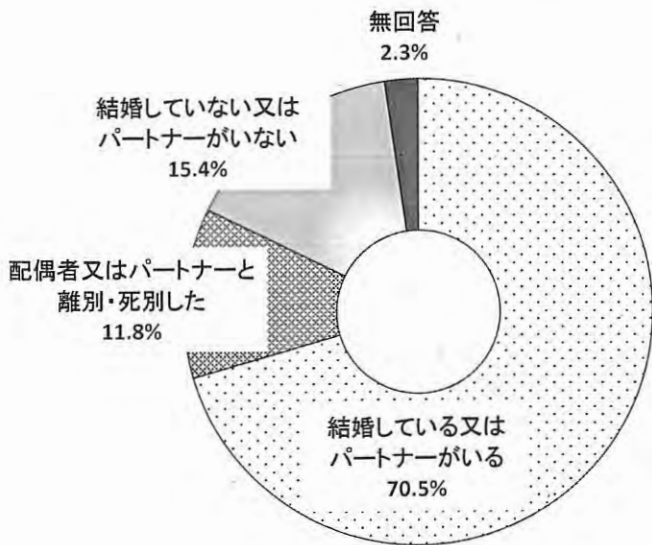
○回答者の属性について

回答者の属性一覧表（問1から問3の結果を集計）

区分		総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
総数		1215	102	184	182	210	264	262	11
性別	男性	531	42	74	70	83	128	134	0
	女性	673	60	110	112	127	136	125	3
	無回答	11	0	0	0	0	0	3	8
職業別	会社員（正社員）	314	49	72	70	73	42	7	1
	自営業	82	2	7	14	15	25	19	0
	農林水産業	9	1	2	1	1	2	2	0
	公務員（正職員）	58	6	21	12	16	3	0	0
	パート・アルバイト、派遣、契約社員等の非正規雇用	254	16	38	64	58	58	20	0
	専業主婦・主夫	177	5	33	13	28	55	42	1
	学生	15	15	0	0	0	0	0	0
	無職	255	5	4	3	10	71	162	0
	その他	33	2	6	4	9	7	5	0
	無回答	18	1	1	1	0	1	5	9

問4 結婚について ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方

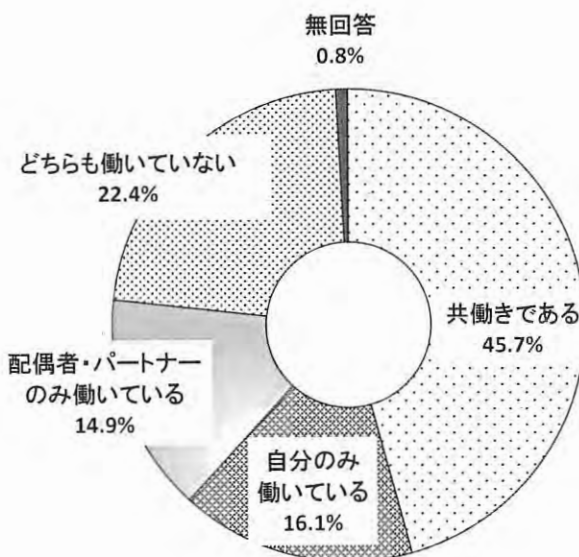
- 1 結婚している又は*パートナーがいる
 2 配偶者又はパートナーと離別・死別した
 3 結婚していない又はパートナーがいない



「結婚している又はパートナーがいる」は70.5%、「配偶者又はパートナーと離別・死別した」は11.8%、「結婚していない又はパートナーがいない」は15.4%となっている。

問4-1 就労について

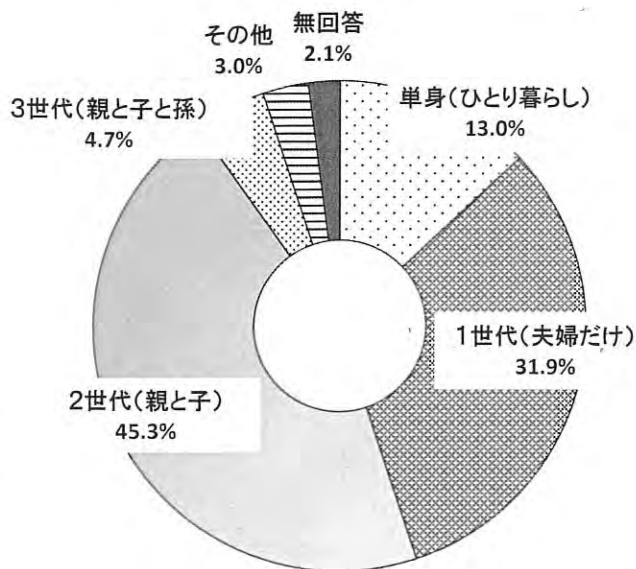
- 問4で「1」と回答された方のみお答えください。2人とも働いていますか。
- 1 共働きである
 2 自分のみ働いている
 3 配偶者・パートナーのみ働いている
 4 どちらも働いていない



「結婚している又はパートナーがいる」と回答した人のうち、「共働きである」が45.7%で最も多く、次いで「どちらも働いていない」(22.4%)、「自分のみ働いている」(16.1%)、「配偶者・パートナーのみ働いている」(14.9%)、の順となっている。

問5 現在共に生活している家族について

1 単身（ひとり暮らし）	2 1世代（夫婦だけ）
3 2世代（親と子）	4 3世代（親と子と孫）
5 その他（	）



回答者が共に生活している家族は、「2世代（親と子）」が45.3%と最も多く、次いで「1世代（夫婦だけ）」（31.9%）、「単身（ひとり暮らし）」（13.0%）、「3世代（親と子と孫）」（4.7%）の順となっている。

1 男女共同参画について

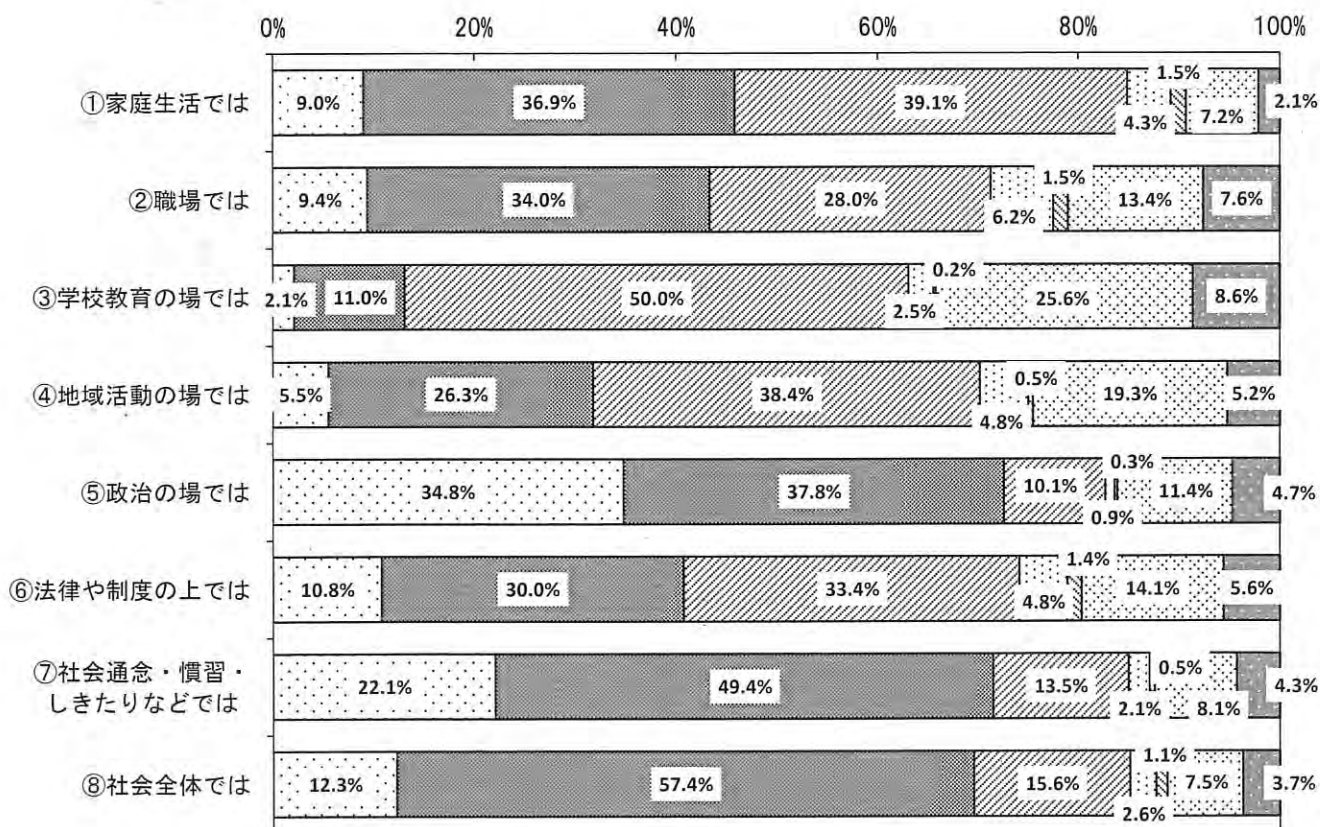
問6 男女の地位の平等意識

次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①家庭生活では
- ②職場では
- ③学校教育の場では
- ④地域活動の場では
- ⑤政治の場では
- ⑥法律や制度の上では
- ⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは
- ⑧社会全体では

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



男女の地位について、いずれの項目も「男性が優遇されている」割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は、「女性が優遇されている」割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）より高くなっている。

「平等である」割合は、「学校教育の場では」と「地域活動の場では」において「男性が優遇されている」割合より高くなっている。

○性別・年齢別表

			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
①家庭生活では	男性・年齢別	20～29歳	4.8	14.3	64.3	4.8	2.4	7.1	2.4
		30～39歳	4.1	21.6	52.7	10.8	5.4	5.4	0.0
		40～49歳	7.1	15.7	55.7	5.7	1.4	14.3	0.0
		50～59歳	4.8	28.9	45.8	4.8	3.6	10.8	1.2
		60～69歳	4.7	35.2	44.5	3.9	2.3	7.0	2.3
		70歳以上	7.5	38.1	44.8	2.2	0.7	4.5	2.2
	女性・年齢別	20～29歳	3.3	43.3	38.3	6.7	1.7	5.0	1.7
		30～39歳	12.7	35.5	39.1	3.6	1.8	6.4	0.9
		40～49歳	12.5	42.0	34.8	4.5	0.9	5.4	0.0
		50～59歳	12.6	44.9	30.7	3.9	0.0	7.9	0.0
		60～69歳	11.8	51.5	26.5	3.7	0.0	5.9	0.7
		70歳以上	13.6	43.2	24.8	2.4	0.8	9.6	5.6
②職場では	男性・年齢別	20～29歳	4.8	26.2	26.2	23.8	4.8	11.9	2.4
		30～39歳	4.1	27.0	35.1	21.6	1.4	10.8	0.0
		40～49歳	7.1	30.0	47.1	7.1	1.4	5.7	1.4
		50～59歳	7.2	32.5	44.6	6.0	1.2	7.2	1.2
		60～69歳	7.0	40.6	24.2	7.0	2.3	10.9	7.8
		70歳以上	8.2	34.3	22.4	0.7	1.5	16.4	16.4
	女性・年齢別	20～29歳	11.7	33.3	36.7	10.0	0.0	8.3	0.0
		30～39歳	8.2	35.5	30.9	9.1	2.7	12.7	0.9
		40～49歳	13.4	32.1	35.7	2.7	1.8	13.4	0.9
		50～59歳	9.4	35.4	35.4	3.9	0.8	12.6	2.4
		60～69歳	12.5	44.9	13.2	2.9	1.5	17.6	7.4
		70歳以上	14.4	26.4	9.6	0.8	0.0	24.0	24.8
③学校教育の場では	男性・年齢別	20～29歳	0.0	4.8	59.5	14.3	4.8	14.3	2.4
		30～39歳	4.1	1.4	63.5	4.1	0.0	25.7	1.4
		40～49歳	1.4	12.9	55.7	1.4	0.0	25.7	2.9
		50～59歳	1.2	13.3	54.2	1.2	0.0	26.5	3.6
		60～69歳	2.3	7.0	55.5	3.9	0.8	24.2	6.3
		70歳以上	0.7	7.5	44.0	0.7	0.0	27.6	19.4
	女性・年齢別	20～29歳	3.3	6.7	66.7	1.7	0.0	16.7	5.0
		30～39歳	3.6	9.1	52.7	6.4	0.0	28.2	0.0
		40～49歳	0.9	15.2	59.8	0.0	0.0	22.3	1.8
		50～59歳	0.8	14.2	49.6	3.1	0.0	28.3	3.9
		60～69歳	1.5	21.3	41.9	0.0	0.0	25.7	9.6
		70歳以上	4.8	10.4	28.8	0.8	0.0	32.0	23.2

○性別・年齢別表

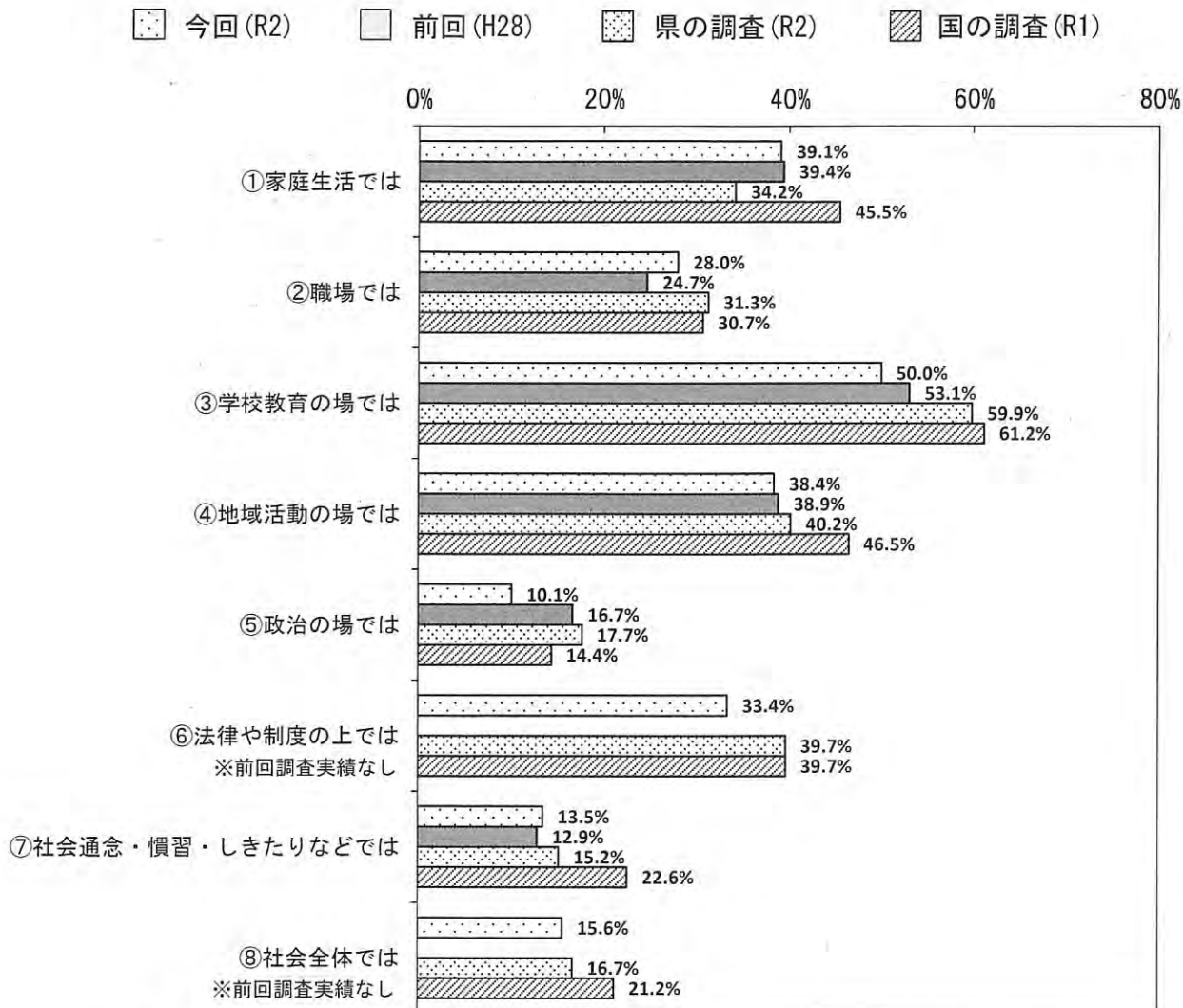
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
④ 地域活動の場では	男性・年齢別	20～29歳	0.0	14.3	38.1	11.9	2.4	31.0	2.4
		30～39歳	4.1	13.5	48.6	2.7	1.4	29.7	0.0
		40～49歳	5.7	15.7	41.4	7.1	1.4	27.1	1.4
		50～59歳	4.8	24.1	42.2	6.0	0.0	20.5	2.4
		60～69歳	5.5	25.0	46.1	5.5	0.8	14.8	2.3
		70歳以上	2.2	24.6	44.0	4.5	0.7	13.4	10.4
	女性・年齢別	20～29歳	5.0	28.3	41.7	3.3	0.0	18.3	3.3
		30～39歳	7.3	24.5	36.4	6.4	0.0	25.5	0.0
		40～49歳	8.0	30.4	36.6	4.5	0.0	20.5	0.0
		50～59歳	3.9	30.7	38.6	1.6	0.8	22.8	1.6
		60～69歳	7.4	37.5	33.8	5.9	0.0	11.8	3.7
		70歳以上	8.8	30.4	24.8	3.2	0.0	14.4	18.4
⑤ 政治の場では	男性・年齢別	20～29歳	14.3	35.7	31.0	2.4	4.8	9.5	2.4
		30～39歳	25.7	36.5	17.6	0.0	0.0	20.3	0.0
		40～49歳	32.9	41.4	14.3	2.9	0.0	7.1	1.4
		50～59歳	36.1	33.7	14.5	2.4	1.2	10.8	1.2
		60～69歳	28.9	43.8	14.1	0.8	0.8	10.2	1.6
		70歳以上	26.1	39.6	15.7	0.0	0.0	9.7	9.0
	女性・年齢別	20～29歳	41.7	41.7	6.7	0.0	0.0	6.7	3.3
		30～39歳	48.2	30.0	5.5	1.8	0.0	14.5	0.0
		40～49歳	41.1	40.2	5.4	0.0	0.0	12.5	0.9
		50～59歳	44.1	37.8	7.1	0.0	0.0	10.2	0.8
		60～69歳	37.5	46.3	2.9	0.7	0.0	9.6	2.9
		70歳以上	33.6	27.2	5.6	1.6	0.0	15.2	16.8
⑥ 法律や制度の上では	男性・年齢別	20～29歳	2.4	16.7	42.9	14.3	11.9	9.5	2.4
		30～39歳	1.4	24.3	36.5	14.9	5.4	17.6	0.0
		40～49歳	10.0	21.4	48.6	12.9	1.4	4.3	1.4
		50～59歳	9.6	22.9	44.6	7.2	0.0	15.7	0.0
		60～69歳	7.0	28.9	43.8	3.9	3.1	11.7	1.6
		70歳以上	4.5	26.1	47.8	0.7	0.0	10.4	10.4
	女性・年齢別	20～29歳	25.0	26.7	28.3	6.7	1.7	10.0	1.7
		30～39歳	14.5	29.1	27.3	4.5	0.9	22.7	0.9
		40～49歳	15.2	39.3	28.6	2.7	0.0	12.5	1.8
		50～59歳	18.9	33.9	25.2	1.6	0.0	15.7	4.7
		60～69歳	9.6	44.1	22.8	3.7	0.7	15.4	3.7
		70歳以上	11.2	28.8	22.4	0.8	0.0	17.6	19.2

○性別・年齢別表

			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば優遇されている男性	平等である	どちらかといえば優遇されている女性	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは	男性・年齢別	20～29歳	4.8	35.7	33.3	11.9	7.1	4.8	2.4
		30～39歳	12.2	39.2	21.6	8.1	1.4	17.6	0.0
		40～49歳	20.0	42.9	18.6	7.1	0.0	10.0	1.4
		50～59歳	18.1	55.4	14.5	2.4	0.0	9.6	0.0
		60～69歳	20.3	57.0	12.5	0.0	0.8	8.6	0.8
		70歳以上	11.9	49.3	23.1	0.0	0.0	6.0	9.7
	女性・年齢別	20～29歳	23.3	55.0	13.3	0.0	0.0	6.7	1.7
		30～39歳	30.9	48.2	10.9	1.8	0.0	8.2	0.0
		40～49歳	34.8	50.9	4.5	0.9	0.0	8.0	0.9
		50～59歳	31.5	50.4	8.7	0.0	0.0	7.1	2.4
		60～69歳	26.5	55.1	8.1	2.2	0.7	5.9	1.5
		70歳以上	18.4	44.8	12.0	1.6	0.0	8.8	14.4
⑧ 社会全体では	男性・年齢別	20～29歳	2.4	33.3	33.3	11.9	9.5	4.8	4.8
		30～39歳	1.4	50.0	24.3	10.8	1.4	12.2	0.0
		40～49歳	4.3	60.0	15.7	10.0	2.9	5.7	1.4
		50～59歳	6.0	60.2	22.9	2.4	0.0	8.4	0.0
		60～69歳	12.5	59.4	17.2	0.8	1.6	7.0	1.6
		70歳以上	9.0	52.2	26.1	0.0	0.7	4.5	7.5
	女性・年齢別	20～29歳	18.3	48.3	23.3	0.0	0.0	8.3	1.7
		30～39歳	16.4	62.7	10.9	0.9	0.9	8.2	0.0
		40～49歳	20.5	65.2	4.5	1.8	0.0	7.1	0.9
		50～59歳	15.7	66.1	7.9	0.8	0.8	7.1	1.6
		60～69歳	14.7	64.0	11.0	1.5	0.0	8.1	0.7
		70歳以上	15.2	50.4	10.4	1.6	0.8	9.6	12.0

「非常に優遇されている」と「どちらかといえば優遇されている」を合算した場合、
「家庭生活」では、男性の70歳代を除くすべての年代で「平等である」割合が最も高いが、女性ではすべての年代で「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。
「職場」では、男性の30歳代から50歳代で「平等である」割合が最も高く、それ以外の年代では「男性が優遇されている」割合が最も高くなっている。
「学校教育の場」では、女性の70歳以上を除くすべての年代で「平等である」割合が最も高くなっている。
「地域活動の場」では、男性のすべての年代で「平等である」割合が最も高くなっているが、女性の40歳代、60歳代、70歳以上は「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。
「法律や制度の上」では、男性のすべての年代で「平等である」割合が最も高いが、女性のすべての年代で「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。
「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体」では、男女のすべての年代で「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。

＜男女の地位について「平等である」の割合の前回調査、県、国との比較＞



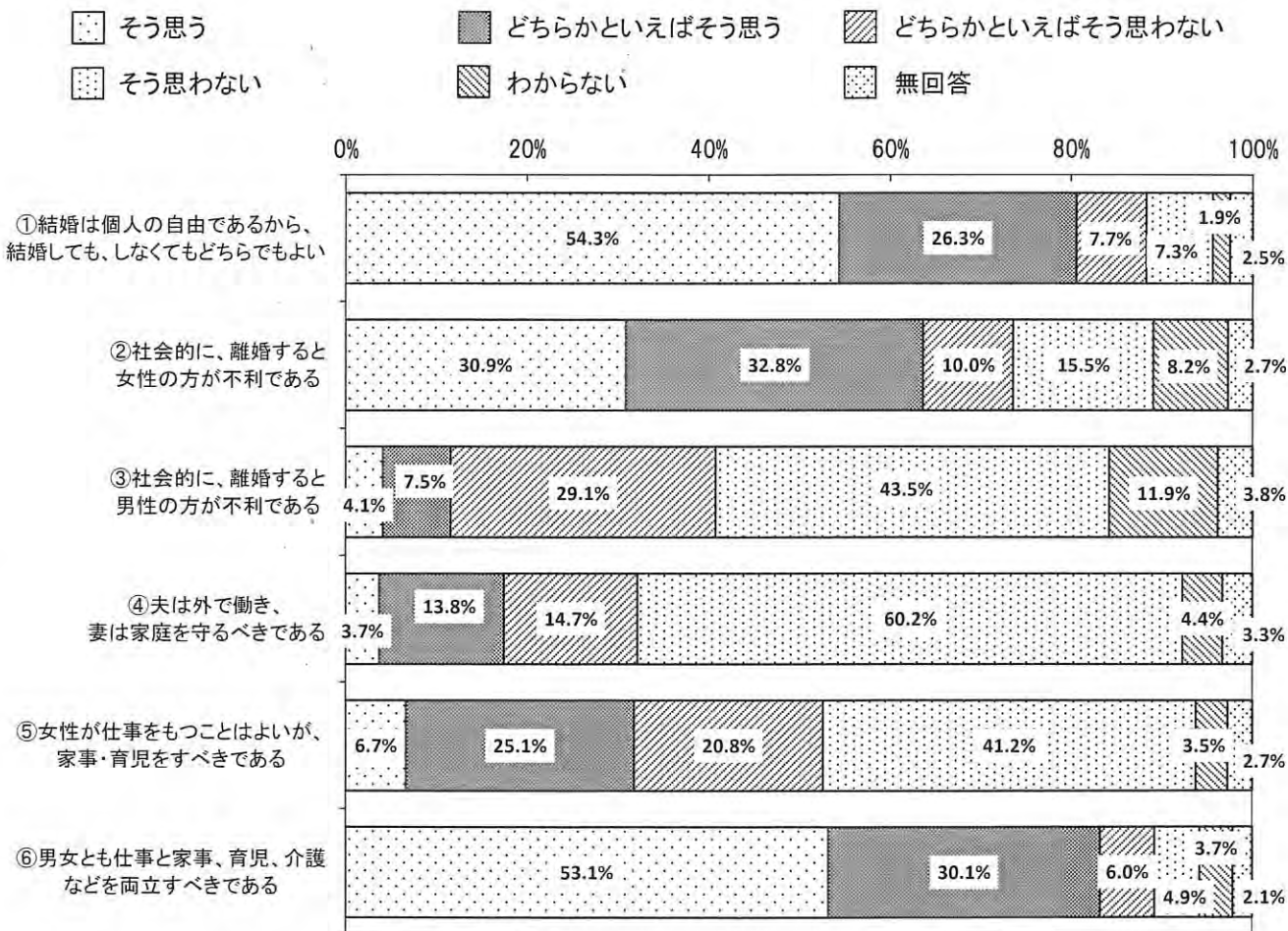
「職場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」の項目は、和歌山市が平成 28 年度に実施した調査より今回のほうが上回っている。

問7 性別役割分担意識

「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

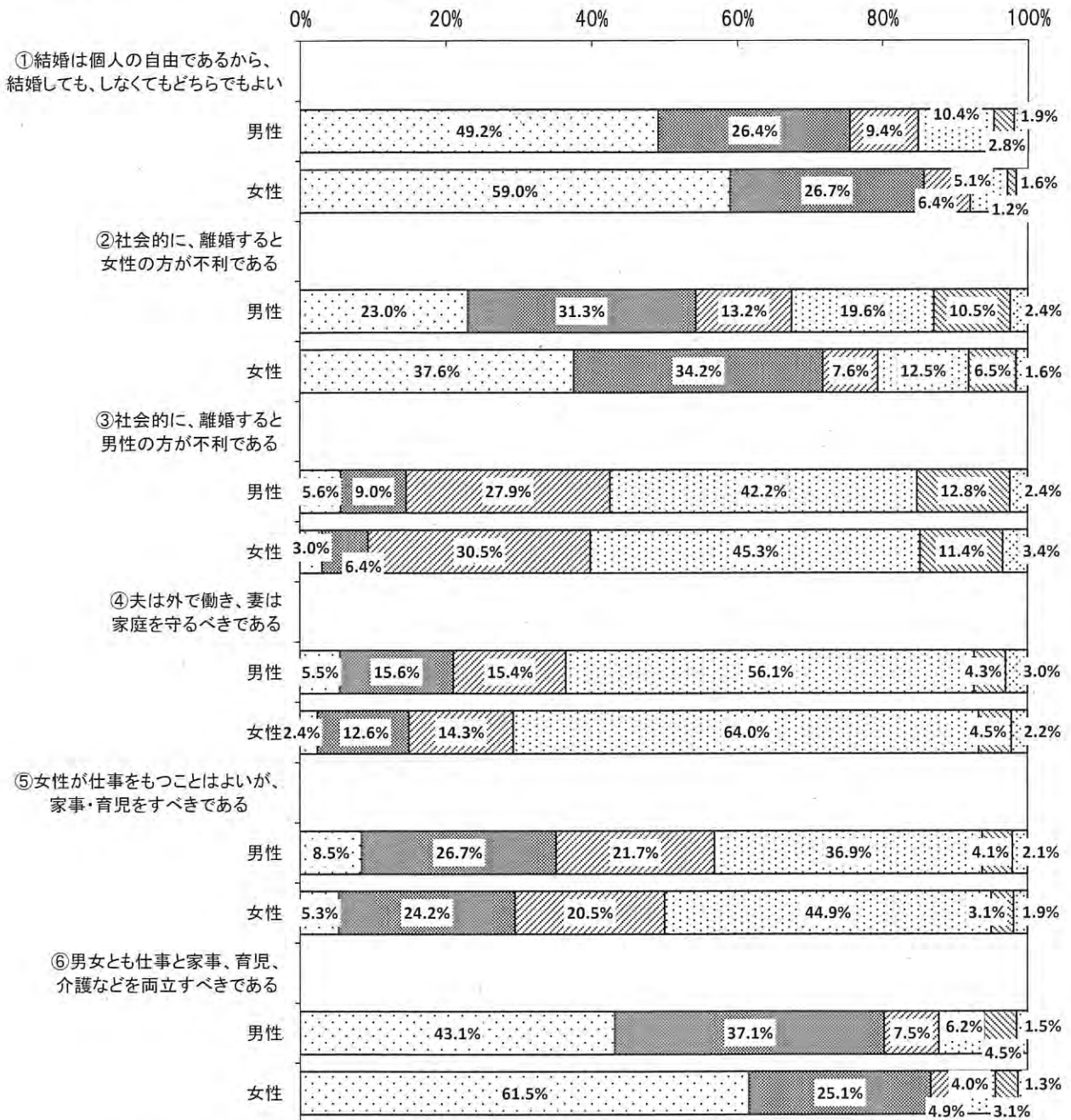
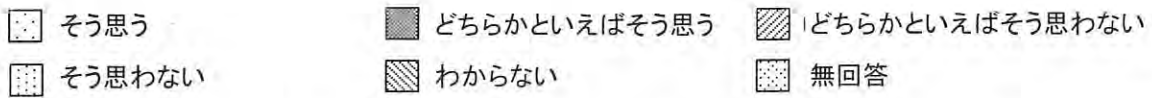
- ①結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい
- ②社会的に、離婚すると女性の方が不利である
- ③社会的に、離婚すると男性の方が不利である
- ④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
- ⑤女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである
- ⑥男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである



結婚や家庭についての考え方の項目でそう思う割合(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計)にみると、「男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである」が83.2%と最も高く、次いで「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい」(80.6%)、「社会的に、離婚すると女性の方が不利である」(63.7%)の順となっている。

そう思わない割合(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の計)にみると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が74.9%と最も高く、次いで「社会的に、離婚すると男性の方が不利である」(72.6%)、「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をするべきである」(62.0%)の順となっている。

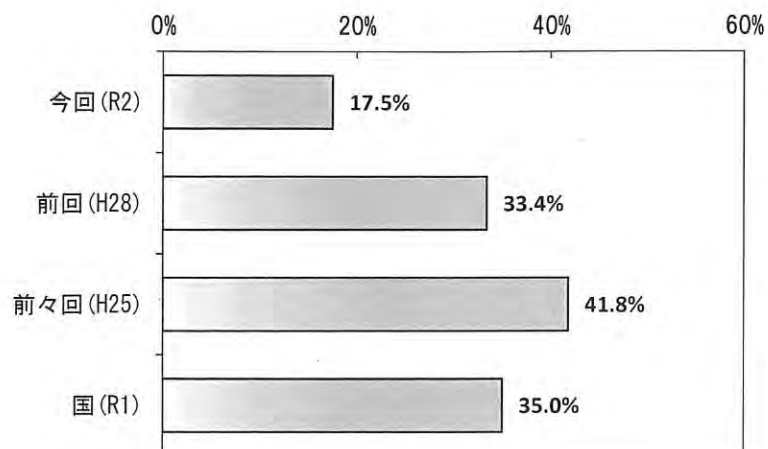
○性別



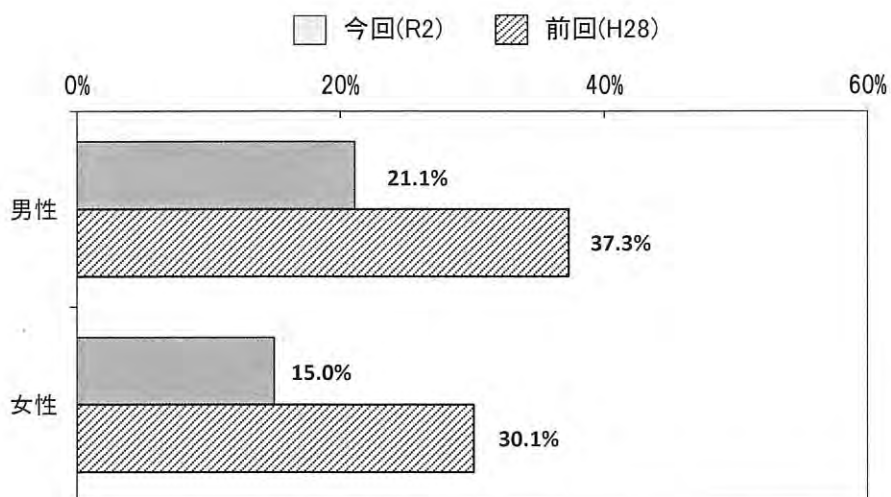
性別にみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」の項目で、そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）と回答した割合は女性（85.7%）が男性（75.6%）より 10.1 ポイント高くなっている。さらに「社会的に、離婚すると女性の方が不利である」の項目についても、そう思う割合は女性（71.8%）が男性（54.3%）より 17.5 ポイント高くなっている。

「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである」の項目において、そう思うと回答した割合は、男性（35.2%）が女性（29.5%）より 5.7 ポイント上回っている。また、男女ともに「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の項目で、そう思うより、そう思わない（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の計）の割合が高くなっている。

<固定的性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合>
 ※前回調査、国との比較



夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであると思う割合について、今回の調査では 17.5% となっており、前々回（H25）、前回（H28）から段階的に下がってきている。令和元年度に実施された国の調査では 35.0% となっている。



性別にみると、男女ともに前回より今回の割合が低くなっている。また、女性より男性の方がそう思う割合が高く、今回は 6.1 ポイント、前回は 7.2 ポイント高くなっている。

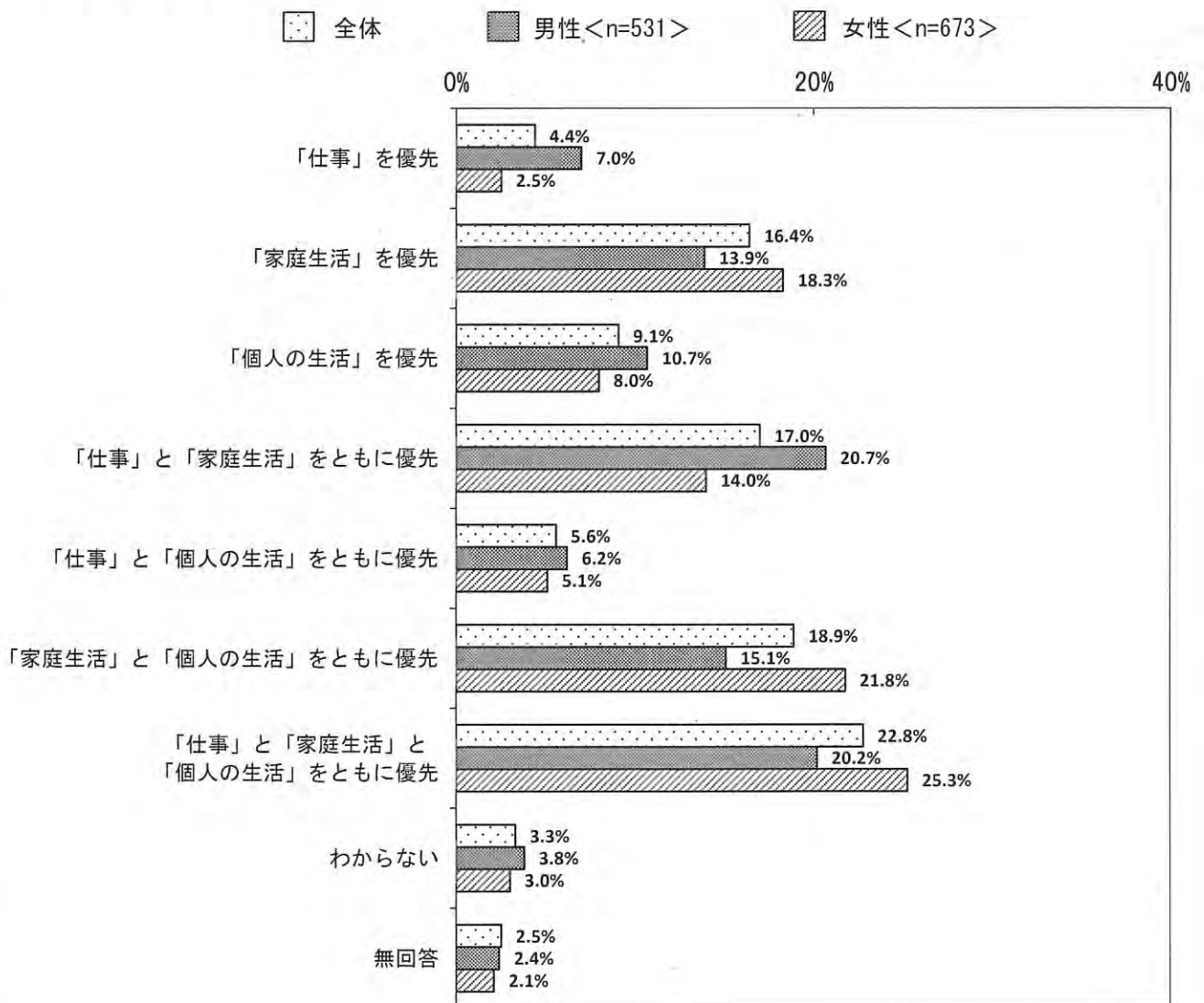
問8 ワーク・ライフ・バランス

生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先したいこと、優先していることはどれですか。

（あてはまる数字に1つだけ○印）

- ①「仕事」を優先
- ②「家庭生活」を優先
- ③「個人の生活」を優先
- ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤「仕事」と「個人の生活」をともに優先
- ⑥「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- ⑦「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- ⑧わからない

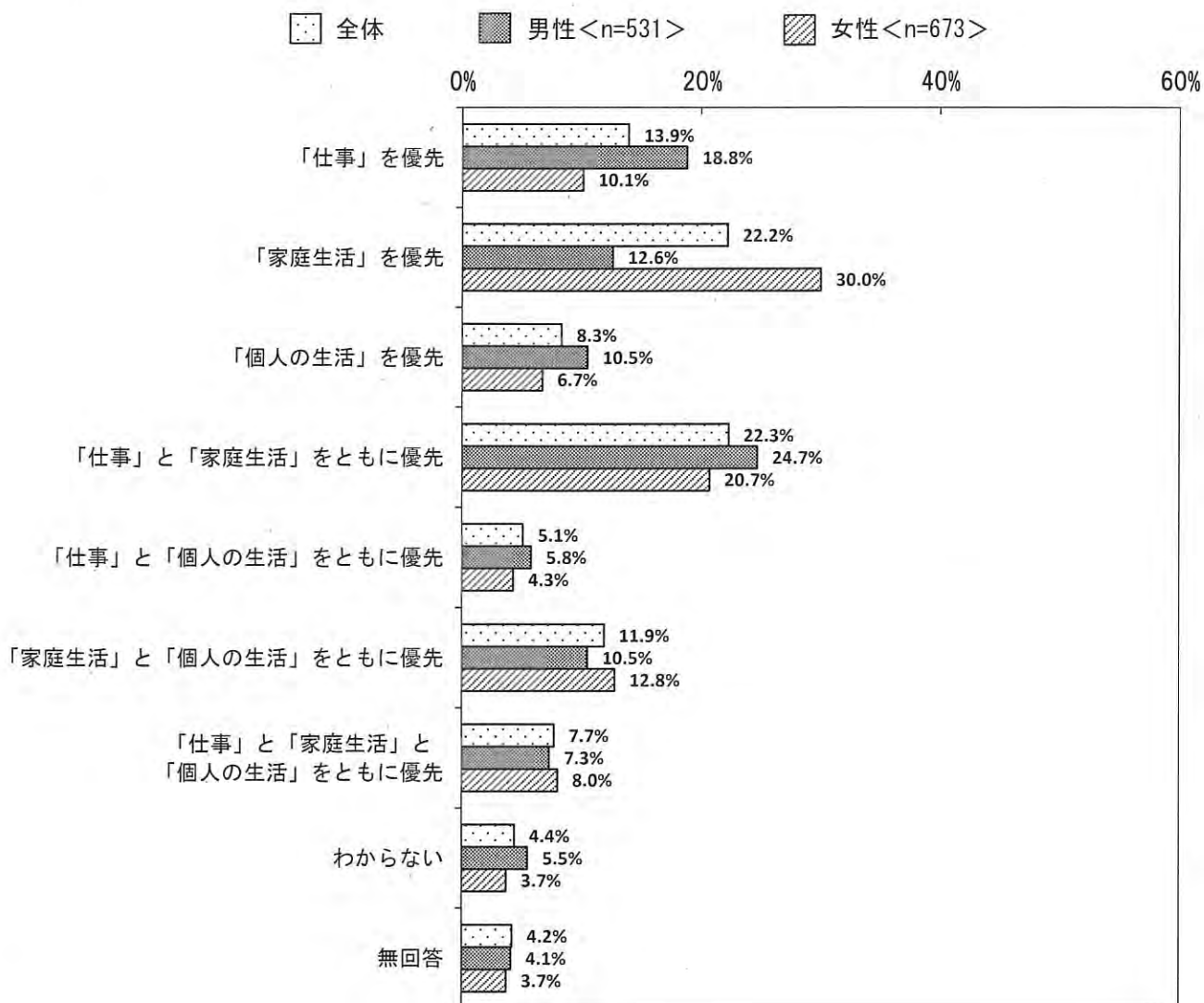
【優先したいこと（理想）】



生活の中で優先したいこと（理想）では「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』をともに優先」（22.8%）の割合が最も高くなっている。

性別にみると、女性は「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』をともに優先」、男性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高くなっている。

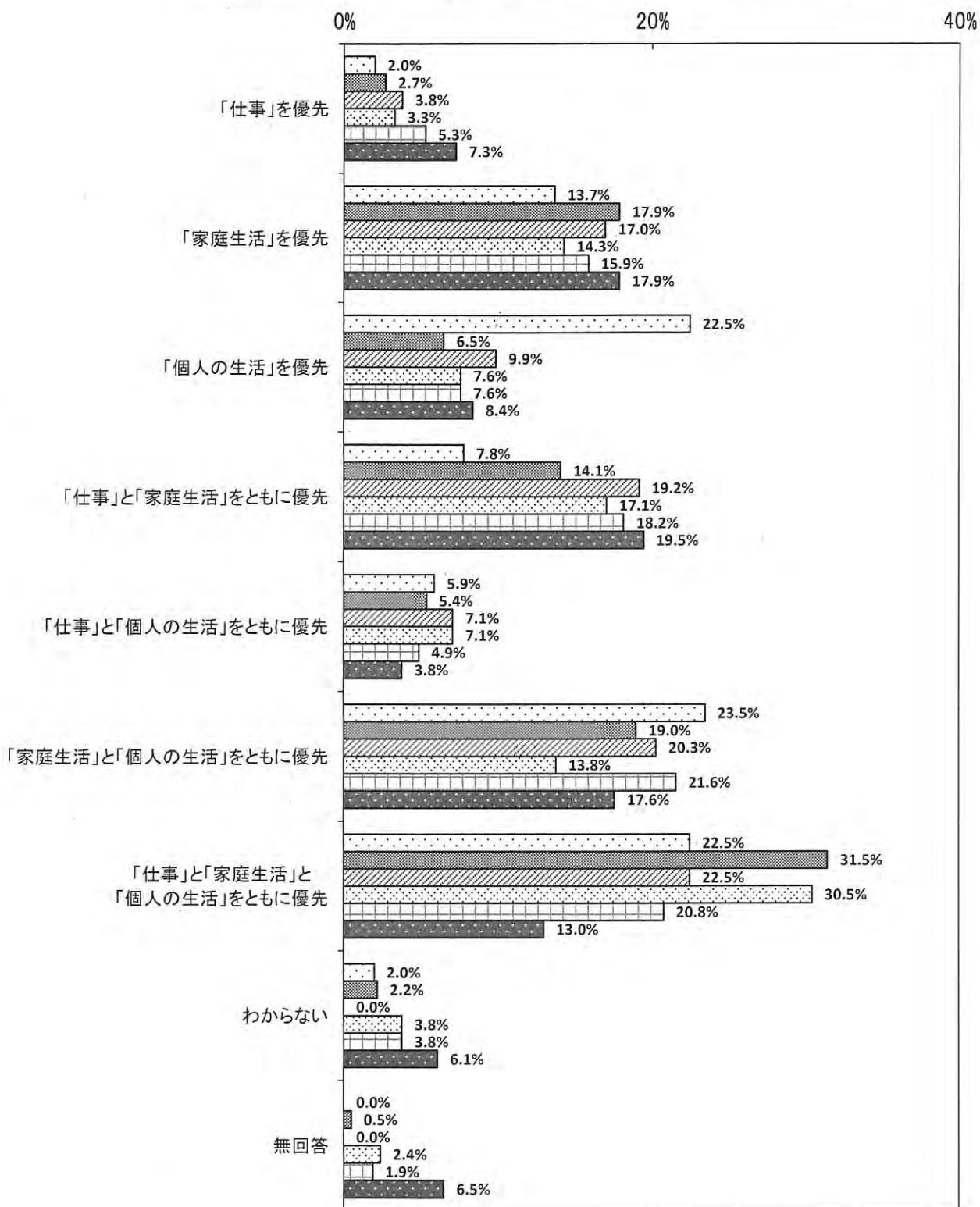
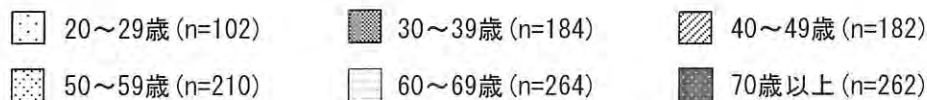
【優先していること（現実）】



生活の中で優先していること（現実）では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（22.3%）の割合が最も高くなっている。

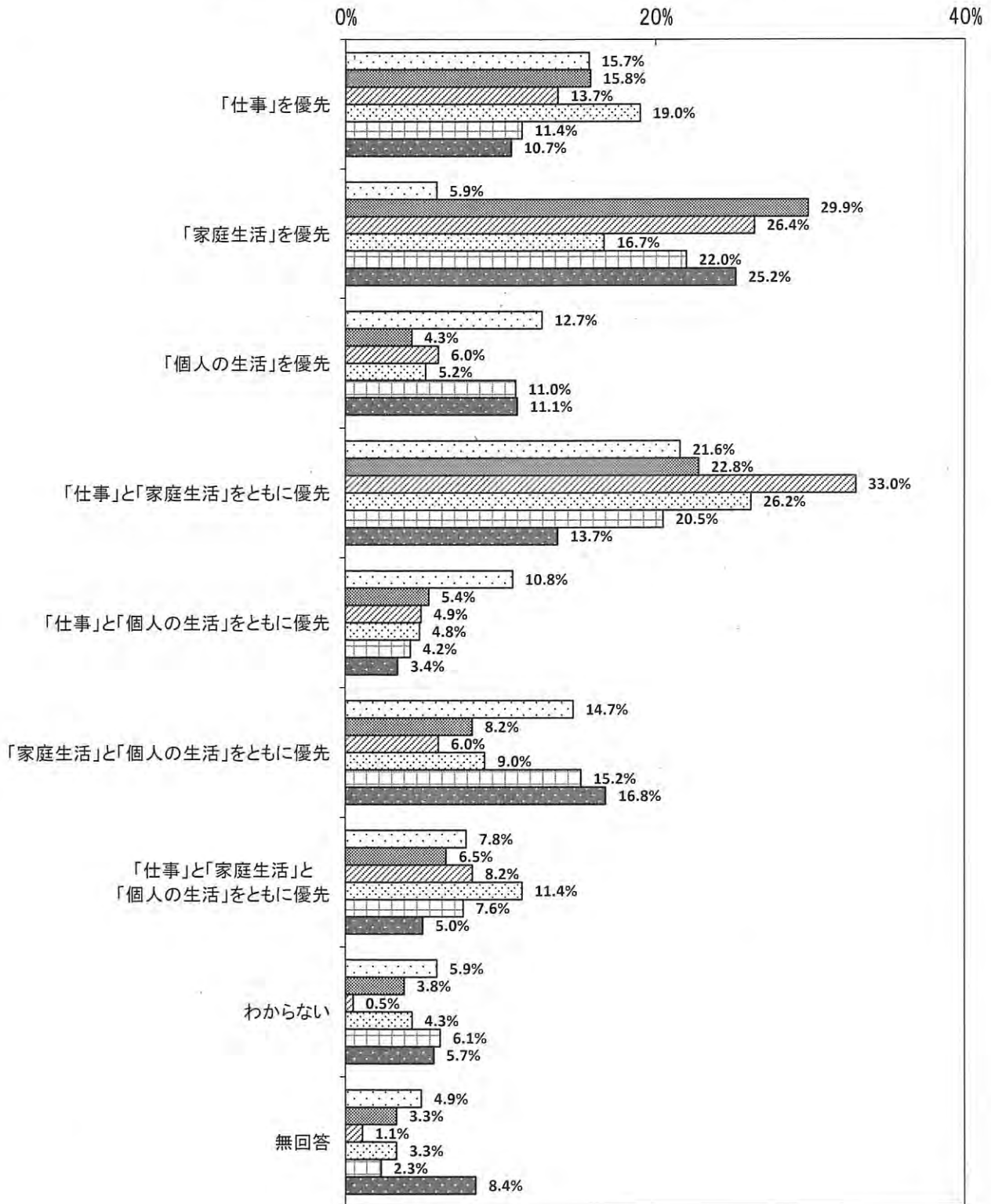
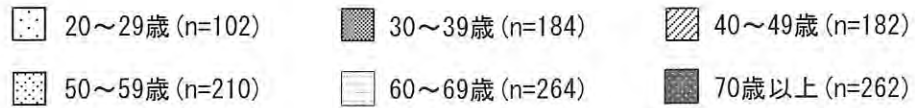
性別にみると、男性は『仕事』と『家庭生活』をともに優先（24.7%）、女性は『家庭生活』を優先（30.0%）の割合が最も高くなっている。

○年齢別 【優先したいこと（理想）】



生活の中で優先したいこと（理想）を年齢別でみると、20歳代と60歳代では「『家庭生活』と『個人の生活』をともに優先」、30歳代から50歳代は「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』をともに優先」、70歳以上では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高くなっている。

○年齢別 【優先していること（現実）】

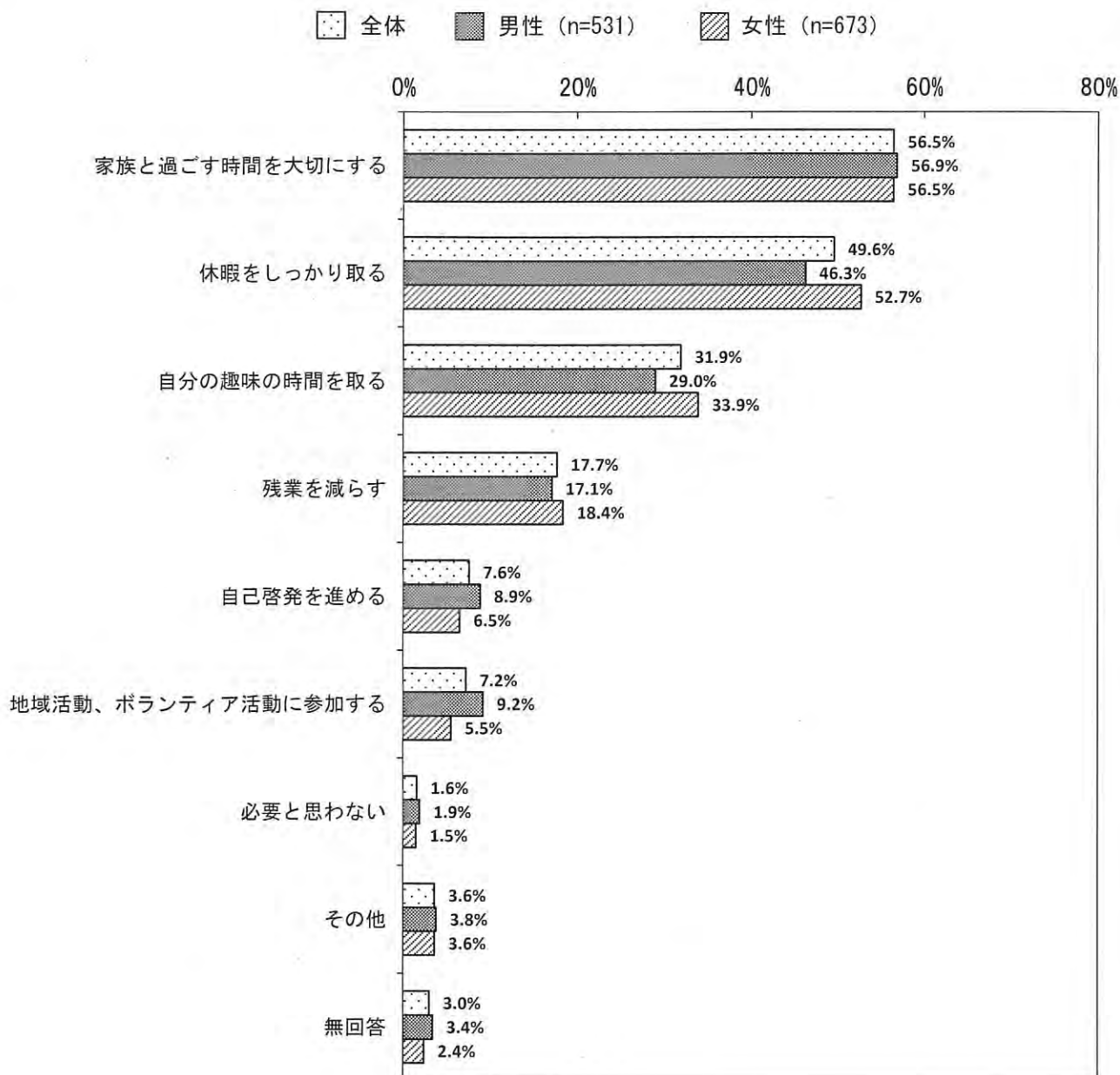


生活の中で優先していること（現実）を年齢別でみると、20歳代、40歳代、50歳代では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、30歳代、60歳代、70歳以上は「『家庭生活』を優先」が最も高くなっている。

問9 ワーク・ライフ・バランスに必要なこと

一般的に「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のバランスをとるためにはどのようなことが必要だと思いますか。（2つまでに○印）

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1 残業を減らす | 2 休暇をしっかりとる |
| 3 家族と過ごす時間を大切にする | 4 自己啓発を進める |
| 5 自分の趣味の時間を取る | 6 地域活動、ボランティア活動に参加する |
| 7 必要と思わない | 8 その他（ ） |



ワーク・ライフ・バランスをとるために必要なこととして「家族と過ごす時間を大切にする」が56.5%と最も高く、次いで「休暇をしっかりとる」(49.6%)、「自分の趣味の時間を取る」(31.9%)の順となっている。

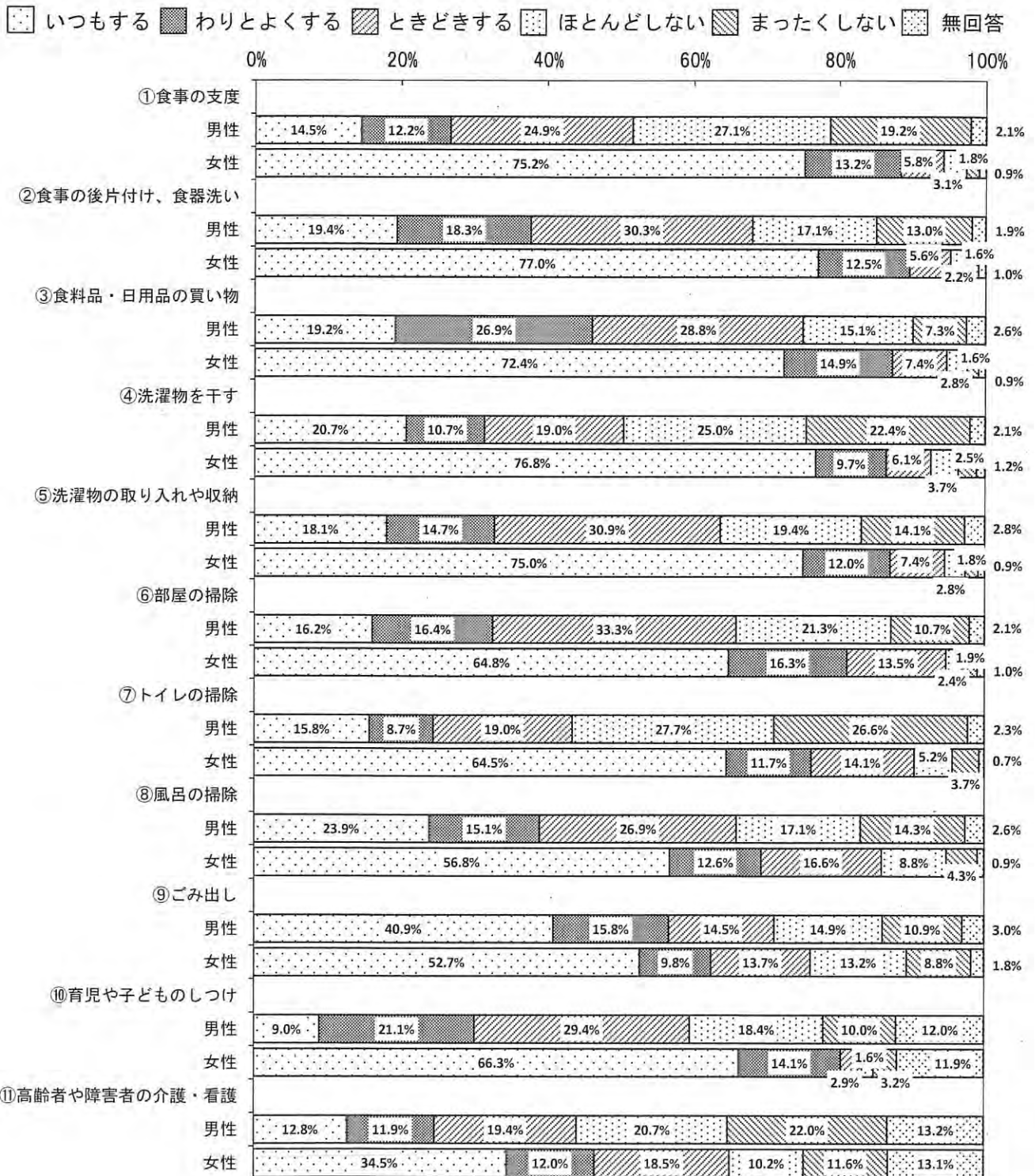
性別にみると、「休暇をしっかりとる」、「自分の趣味の時間を取る」、「残業を減らす」以外の項目は、女性より男性の割合が上回っている。

問 10 家事等について

あなたは次のことについてどの程度していますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ① 食事の支度
- ② 食事の後片付け、食器洗い
- ③ 食料品・日用品の買い物
- ④ 洗濯物を干す
- ⑤ 洗濯物の取り入れや収納
- ⑥ 部屋の掃除
- ⑦ トイレの掃除
- ⑧ 風呂の掃除
- ⑨ ごみ出し
- ⑩ 育児や子どものしつけ
- ⑪ 高齢者や障害者の介護・看護



○性別・年齢別表

			いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
① 食事の支度	男性・年齢別	20～29歳	21.4	11.9	23.8	28.6	11.9	2.4
		30～39歳	10.8	20.3	25.7	24.3	18.9	0.0
		40～49歳	10.0	7.1	30.0	28.6	22.9	1.4
		50～59歳	18.1	8.4	27.7	22.9	20.5	2.4
		60～69歳	14.1	18.0	20.3	30.5	16.4	0.8
		70歳以上	14.9	7.5	24.6	26.9	21.6	4.5
	女性・年齢別	20～29歳	50.0	25.0	15.0	8.3	1.7	0.0
		30～39歳	70.0	15.5	9.1	3.6	1.8	0.0
		40～49歳	75.0	10.7	9.8	4.5	0.0	0.0
		50～59歳	74.8	18.1	3.1	2.4	0.8	0.8
		60～69歳	86.0	8.1	2.2	1.5	0.0	2.2
		70歳以上	80.0	8.8	1.6	1.6	6.4	1.6
② 食事の後片付け・食器洗い	男性・年齢別	20～29歳	23.8	9.5	35.7	14.3	14.3	2.4
		30～39歳	17.6	23.0	36.5	12.2	10.8	0.0
		40～49歳	22.9	18.6	25.7	21.4	11.4	0.0
		50～59歳	25.3	15.7	30.1	12.0	14.5	2.4
		60～69歳	16.4	26.6	28.1	20.3	8.6	0.0
		70歳以上	16.4	11.9	29.9	18.7	17.9	5.2
	女性・年齢別	20～29歳	53.3	16.7	21.7	6.7	1.7	0.0
		30～39歳	67.3	20.9	6.4	3.6	1.8	0.0
		40～49歳	78.6	13.4	6.3	1.8	0.0	0.0
		50～59歳	83.5	11.8	3.1	0.0	0.8	0.8
		60～69歳	85.3	6.6	2.9	2.9	0.0	2.2
		70歳以上	79.2	9.6	2.4	0.8	5.6	2.4
③ 食料品・日用品の買い物	男性・年齢別	20～29歳	26.2	19.0	26.2	16.7	9.5	2.4
		30～39歳	14.9	33.8	25.7	18.9	6.8	0.0
		40～49歳	15.7	21.4	38.6	12.9	10.0	1.4
		50～59歳	21.7	21.7	32.5	15.7	4.8	3.6
		60～69歳	25.0	35.9	20.3	11.7	5.5	1.6
		70歳以上	14.2	23.1	32.1	16.4	9.0	5.2
	女性・年齢別	20～29歳	50.0	21.7	15.0	8.3	5.0	0.0
		30～39歳	69.1	19.1	9.1	2.7	0.0	0.0
		40～49歳	77.7	11.6	4.5	5.4	0.9	0.0
		50～59歳	81.9	10.2	5.5	1.6	0.0	0.8
		60～69歳	80.1	12.5	5.9	0.0	0.0	1.5
		70歳以上	63.2	17.6	8.8	2.4	5.6	2.4
④ 洗濯物を干す	男性・年齢別	20～29歳	31.0	7.1	16.7	23.8	19.0	2.4
		30～39歳	24.3	18.9	17.6	17.6	21.6	0.0
		40～49歳	15.7	11.4	22.9	20.0	28.6	1.4
		50～59歳	21.7	10.8	19.3	25.3	20.5	2.4
		60～69歳	23.4	11.7	19.5	25.8	19.5	0.0
		70歳以上	14.9	6.0	17.9	31.3	24.6	5.2
	女性・年齢別	20～29歳	60.0	13.3	15.0	3.3	8.3	0.0
		30～39歳	67.3	16.4	8.2	6.4	0.9	0.9
		40～49歳	75.0	11.6	9.8	3.6	0.0	0.0
		50～59歳	83.5	8.7	4.7	0.8	1.6	0.8
		60～69歳	86.8	5.1	2.9	2.9	0.7	1.5
		70歳以上	77.6	5.6	1.6	5.6	6.4	3.2

○性別・年齢別表

			いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
⑤洗濯物の取り入れや収納	男性・年齢別	20～29歳	28.6	11.9	28.6	14.3	14.3	2.4
		30～39歳	17.6	16.2	33.8	23.0	9.5	0.0
		40～49歳	15.7	15.7	32.9	14.3	21.4	0.0
		50～59歳	15.7	15.7	26.5	25.3	13.3	3.6
		60～69歳	21.1	18.0	33.6	14.8	11.7	0.8
		70歳以上	14.9	10.4	29.1	22.4	15.7	7.5
	女性・年齢別	20～29歳	61.7	16.7	16.7	3.3	1.7	0.0
		30～39歳	71.8	16.4	7.3	3.6	0.9	0.0
		40～49歳	72.3	13.4	11.6	2.7	0.0	0.0
		50～59歳	77.2	9.4	7.9	3.1	1.6	0.8
		60～69歳	83.8	10.3	1.5	2.2	0.7	1.5
		70歳以上	75.2	8.8	5.6	2.4	5.6	2.4
	⑥部屋の掃除	男性・年齢別	20～29歳	23.8	21.4	31.0	16.7	4.8
30～39歳			13.5	27.0	33.8	17.6	8.1	0.0
40～49歳			18.6	15.7	32.9	18.6	14.3	0.0
50～59歳			13.3	12.0	36.1	22.9	12.0	3.6
60～69歳			18.8	18.0	32.8	21.9	8.6	0.0
70歳以上			13.4	10.4	32.8	24.6	13.4	5.2
女性・年齢別		20～29歳	45.0	23.3	25.0	3.3	3.3	0.0
		30～39歳	63.6	18.2	16.4	0.9	0.9	0.0
		40～49歳	67.0	20.5	6.3	5.4	0.9	0.0
		50～59歳	68.5	12.6	14.2	2.4	0.8	1.6
		60～69歳	69.9	14.7	11.8	0.7	0.7	2.2
		70歳以上	64.0	12.8	13.6	2.4	5.6	1.6
⑦トイレの掃除		男性・年齢別	20～29歳	19.0	7.1	16.7	28.6	26.2
	30～39歳		13.5	18.9	20.3	23.0	24.3	0.0
	40～49歳		20.0	2.9	22.9	24.3	30.0	0.0
	50～59歳		15.7	9.6	25.3	20.5	25.3	3.6
	60～69歳		18.0	10.2	18.0	29.7	24.2	0.0
	70歳以上		11.9	4.5	14.2	34.3	29.1	6.0
	女性・年齢別	20～29歳	40.0	15.0	16.7	15.0	13.3	0.0
		30～39歳	57.3	13.6	18.2	8.2	2.7	0.0
		40～49歳	67.0	12.5	12.5	4.5	3.6	0.0
		50～59歳	70.9	10.2	12.6	4.7	0.8	0.8
		60～69歳	74.3	8.1	12.5	3.7	0.0	1.5
		70歳以上	63.2	12.8	14.4	0.8	7.2	1.6
	⑧風呂の掃除	男性・年齢別	20～29歳	19.0	19.0	26.2	19.0	14.3
30～39歳			27.0	20.3	32.4	9.5	10.8	0.0
40～49歳			34.3	10.0	27.1	14.3	14.3	0.0
50～59歳			18.1	16.9	30.1	18.1	12.0	4.8
60～69歳			29.7	15.6	24.2	20.3	10.2	0.0
70歳以上			16.4	11.9	24.6	18.7	21.6	6.7
女性・年齢別		20～29歳	35.0	16.7	26.7	13.3	8.3	0.0
		30～39歳	53.6	15.5	20.0	8.2	2.7	0.0
		40～49歳	58.0	12.5	16.1	9.8	3.6	0.0
		50～59歳	60.6	8.7	15.7	8.7	5.5	0.8
		60～69歳	59.6	14.0	15.4	8.8	0.7	1.5
		70歳以上	62.4	11.2	11.2	5.6	7.2	2.4

○性別・年齢別表

			いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
⑨ ごみ出し	男性・年齢別	20～29歳	33.3	16.7	7.1	19.0	19.0	4.8
		30～39歳	44.6	23.0	12.2	9.5	10.8	0.0
		40～49歳	47.1	11.4	12.9	15.7	12.9	0.0
		50～59歳	36.1	21.7	15.7	12.0	10.8	3.6
		60～69歳	48.4	16.4	14.1	10.9	9.4	0.8
		70歳以上	33.6	9.7	18.7	21.6	9.0	7.5
	女性・年齢別	20～29歳	31.7	11.7	20.0	13.3	21.7	1.7
		30～39歳	34.5	15.5	19.1	20.0	10.9	0.0
		40～49歳	49.1	9.8	17.9	15.2	8.0	0.0
		50～59歳	60.6	8.7	12.6	14.2	3.1	0.8
		60～69歳	64.7	9.6	8.8	8.1	6.6	2.2
		70歳以上	60.8	5.6	8.8	9.6	9.6	5.6
⑩ 育児や子どものしつけ	男性・年齢別	20～29歳	27.3	18.2	9.1	0.0	18.2	27.3
		30～39歳	23.3	34.9	32.6	4.7	4.7	0.0
		40～49歳	13.0	37.0	28.3	17.4	4.3	0.0
		50～59歳	8.0	28.0	38.0	14.0	6.0	6.0
		60～69歳	5.6	18.3	32.4	25.4	5.6	12.7
		70歳以上	0.0	2.6	23.1	25.6	21.8	26.9
	女性・年齢別	20～29歳	52.9	29.4	11.8	0.0	5.9	0.0
		30～39歳	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
		40～49歳	82.0	10.1	3.4	0.0	0.0	4.5
		50～59歳	68.0	17.3	1.3	2.7	4.0	6.7
		60～69歳	53.6	19.6	3.6	1.8	1.8	19.6
		70歳以上	25.9	8.6	5.2	5.2	12.1	43.1
⑪ 高齢者や障害者の介護・看護	男性・年齢別	20～29歳	25.0	12.5	12.5	0.0	37.5	12.5
		30～39歳	30.0	5.0	20.0	10.0	35.0	0.0
		40～49歳	18.2	4.5	9.1	36.4	27.3	4.5
		50～59歳	13.5	18.9	21.6	18.9	18.9	8.1
		60～69歳	12.1	16.7	25.8	21.2	15.2	9.1
		70歳以上	5.4	8.1	16.2	21.6	23.0	25.7
	女性・年齢別	20～29歳	27.3	18.2	18.2	18.2	18.2	0.0
		30～39歳	28.6	14.3	21.4	17.9	17.9	0.0
		40～49歳	33.3	11.1	22.2	15.6	15.6	2.2
		50～59歳	36.8	11.8	19.1	13.2	14.7	4.4
		60～69歳	42.4	13.6	18.2	7.6	1.5	16.7
		70歳以上	28.6	8.9	12.5	0.0	12.5	37.5

性別にみると、家事等について「いつもする」割合は、いずれの項目も女性が高くなっている。男性の「いつもする」、「わりとよくする」の計では「ごみ出し」以外すべて5割を下回っている。

年齢別でみると、育児や子どものしつけにおいて、男性の30歳代、40歳代で「いつもする」、「わりとよくする」の計で5割を超えている。

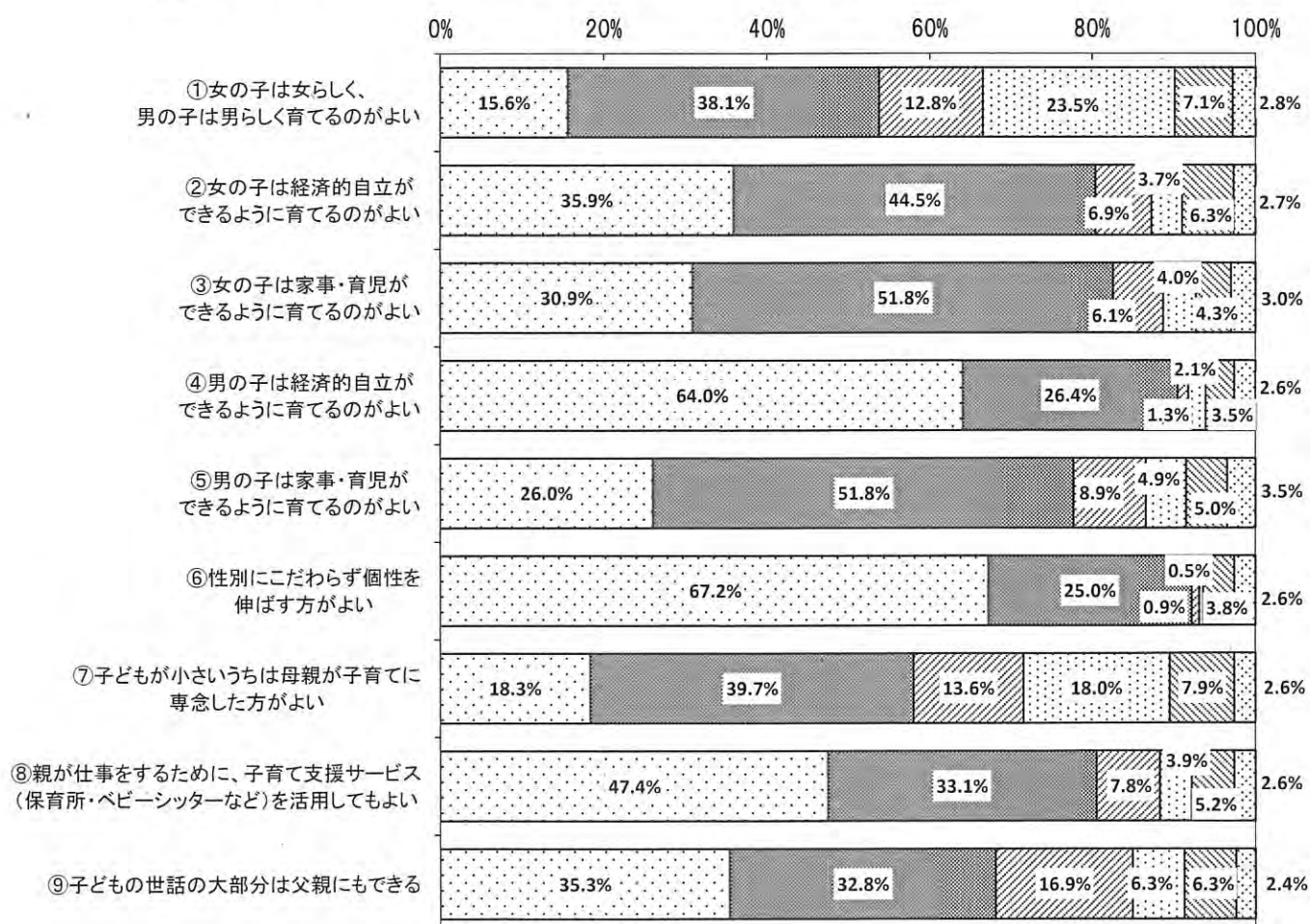
問 11 子どもの育て方

子どもの育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい
- ②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい
- ⑦子どもが小さいうちは母親が子育てに専念した方がよい
- ⑧親が仕事をするために、子育て支援サービス（保育所・ベビーシッターなど）を活用してもよい
- ⑨子どもの世話の大部分は父親にもできる

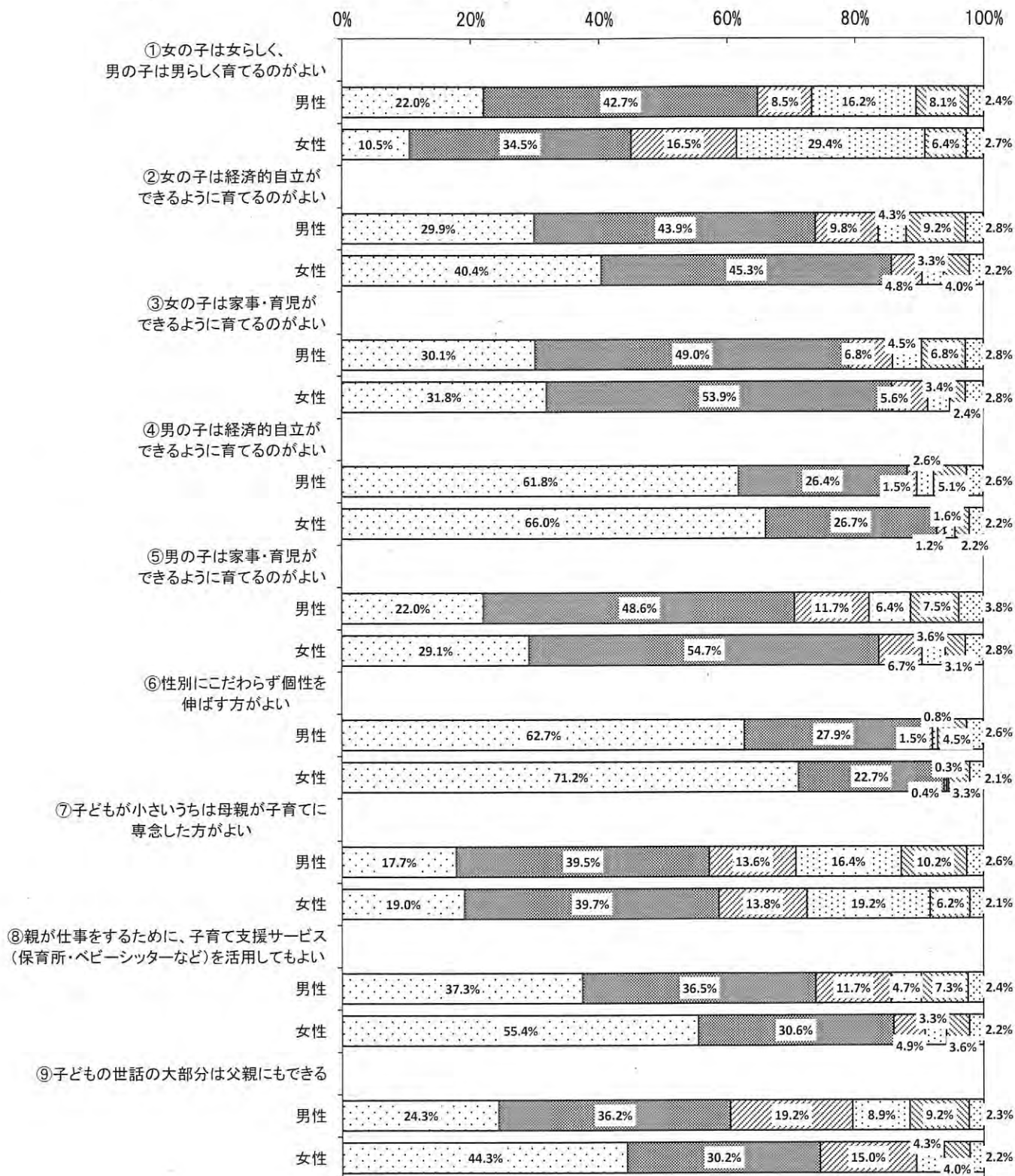
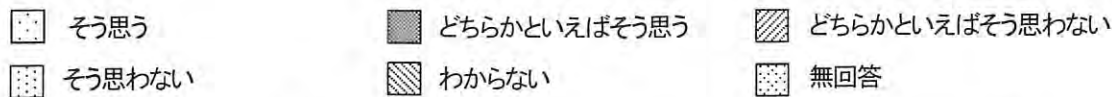
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- ▨ どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- ▩ わからない
- 無回答



子どもの育て方は、「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」と思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）が92.2%と最も高く、次いで「男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい」が90.4%となっている。

そう思わない割合（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の計）では「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」が36.3%と最も高くなっている。

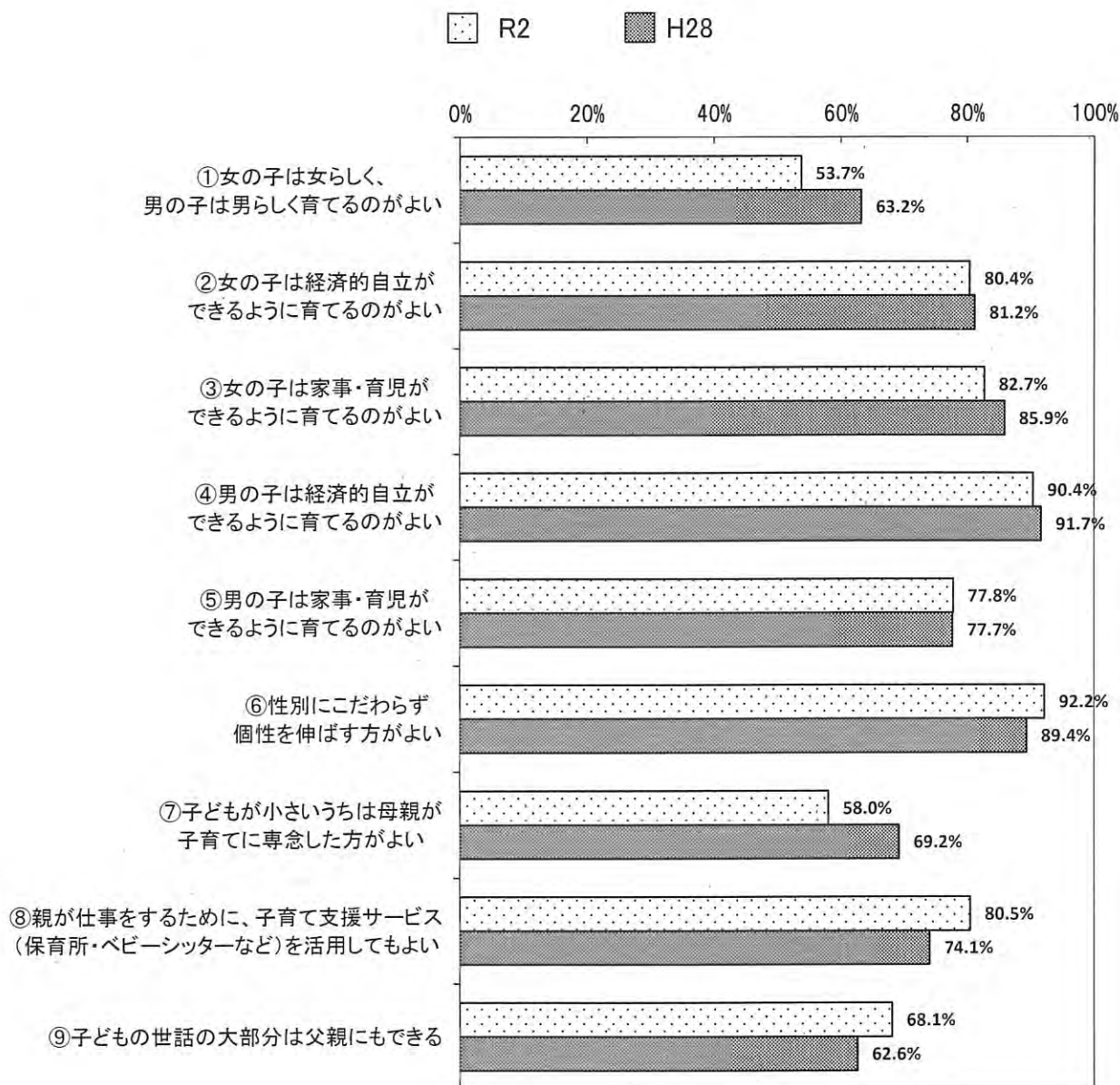
○性別



性別にみると「子どもの世話の大部分は父親にもできる」と思う割合は、男性(60.5%)より女性(74.5%)が14.0ポイント上回っている。「親が仕事をするために、子育て支援サービス(保育所・ベビーシッターなど)を活用してもよい」と思う割合は、男性(73.8%)より女性(86.0%)が12.2ポイント上回っている。

○前回調査との比較

※「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計



子育てに対する考え方において、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」の割合は、前回の調査と比べ今回の調査では9.5ポイント低くなっている。

「子どもが小さいうちは母親が子育てに専念したほうがよい」の割合についても、前回の調査に比べ今回の調査が11.2ポイント低くなっている。

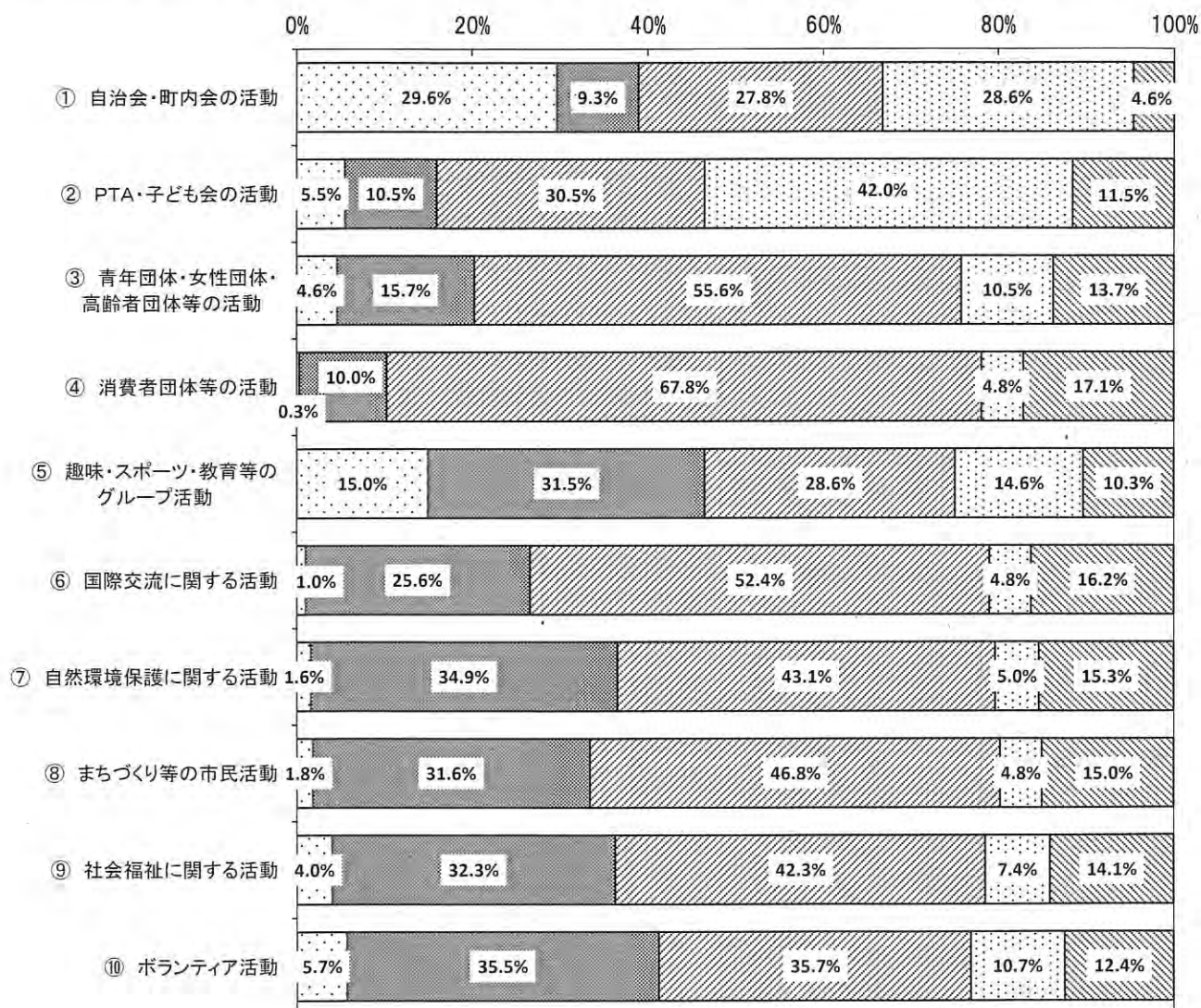
問 12 社会活動、地域活動への参加

社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- | | |
|----------------------|--------------|
| ①自治会・町内会の活動 | ②PTA・子ども会の活動 |
| ③青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動 | ④消費者団体等の活動 |
| ⑤趣味・スポーツ・教育等のグループ活動 | ⑥国際交流に関する活動 |
| ⑦自然環境保護に関する活動 | ⑧まちづくり等の市民活動 |
| ⑨社会福祉に関する活動 | ⑩ボランティア活動 |

現在、参加している
 今後は参加したい
 参加したくない
 以前、参加したことがある
 無回答



社会活動、地域活動への参加について、「現在、参加している」活動として「自治会・町内会の活動」が29.6%と最も高く、「今後は参加したい」活動については「ボランティア活動」が35.5%と最も高くなっている。

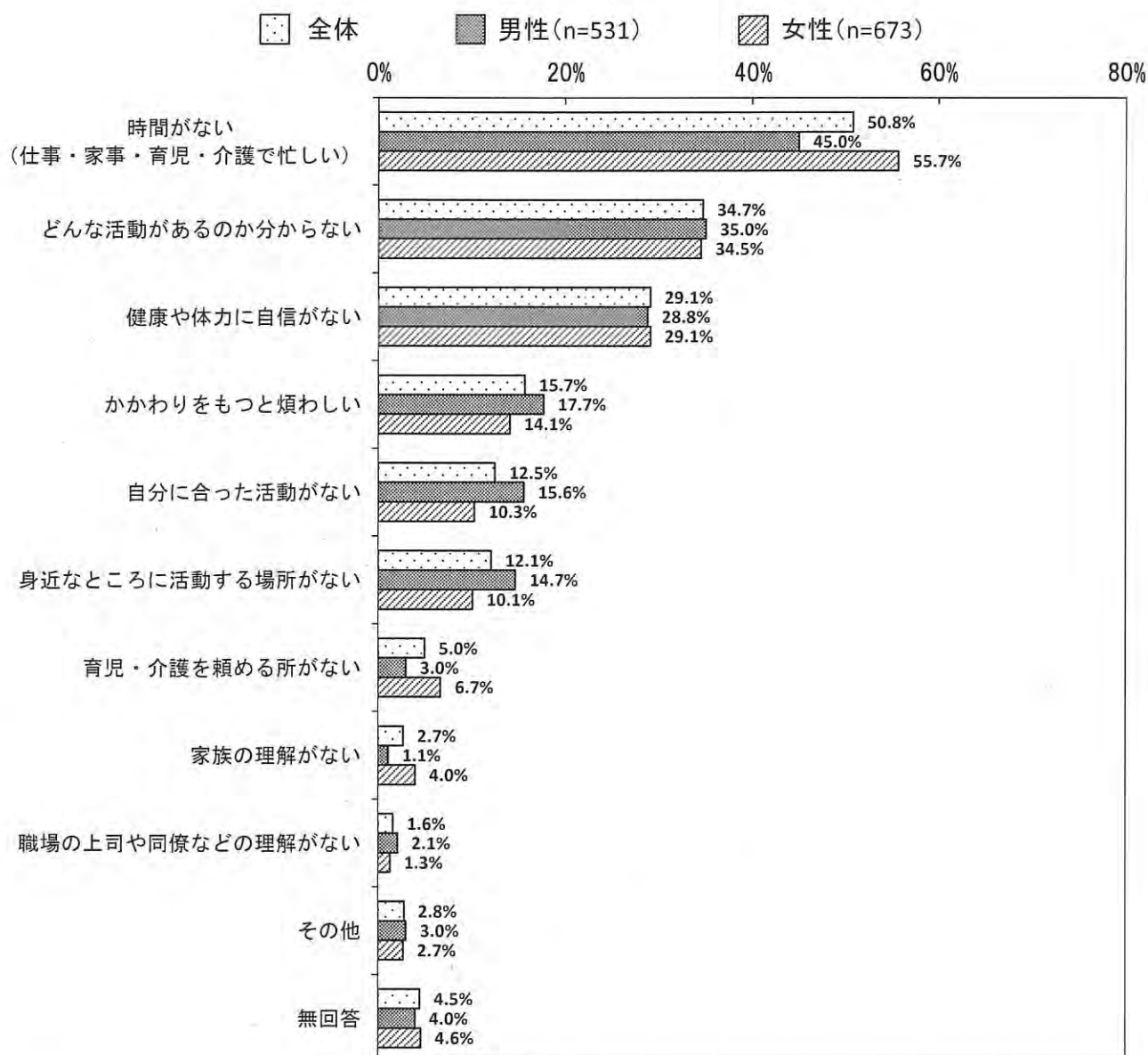
「参加したくない」活動では「消費者団体等の活動」が67.8%、「以前、参加したことがある」活動は「PTA・子ども会の活動」が42.0%と最も高くなっている。

問 13 社会活動、地域活動の参加への問題

社会活動、地域活動に参加しようとする上で、どのようなことが問題になると思いますか。

(2つまでに○印)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 時間がない(仕事・家事・育児・介護で忙しい) | 2 育児・介護を頼める所がない |
| 3 健康や体力に自信がない | 4 家族の理解がない |
| 5 職場の上司や同僚などの理解がない | 6 身近なところに活動する場所がない |
| 7 自分に合った活動がない | 8 どんな活動があるのか分からない |
| 9 かかわりをもつと煩わしい | 10 その他() |



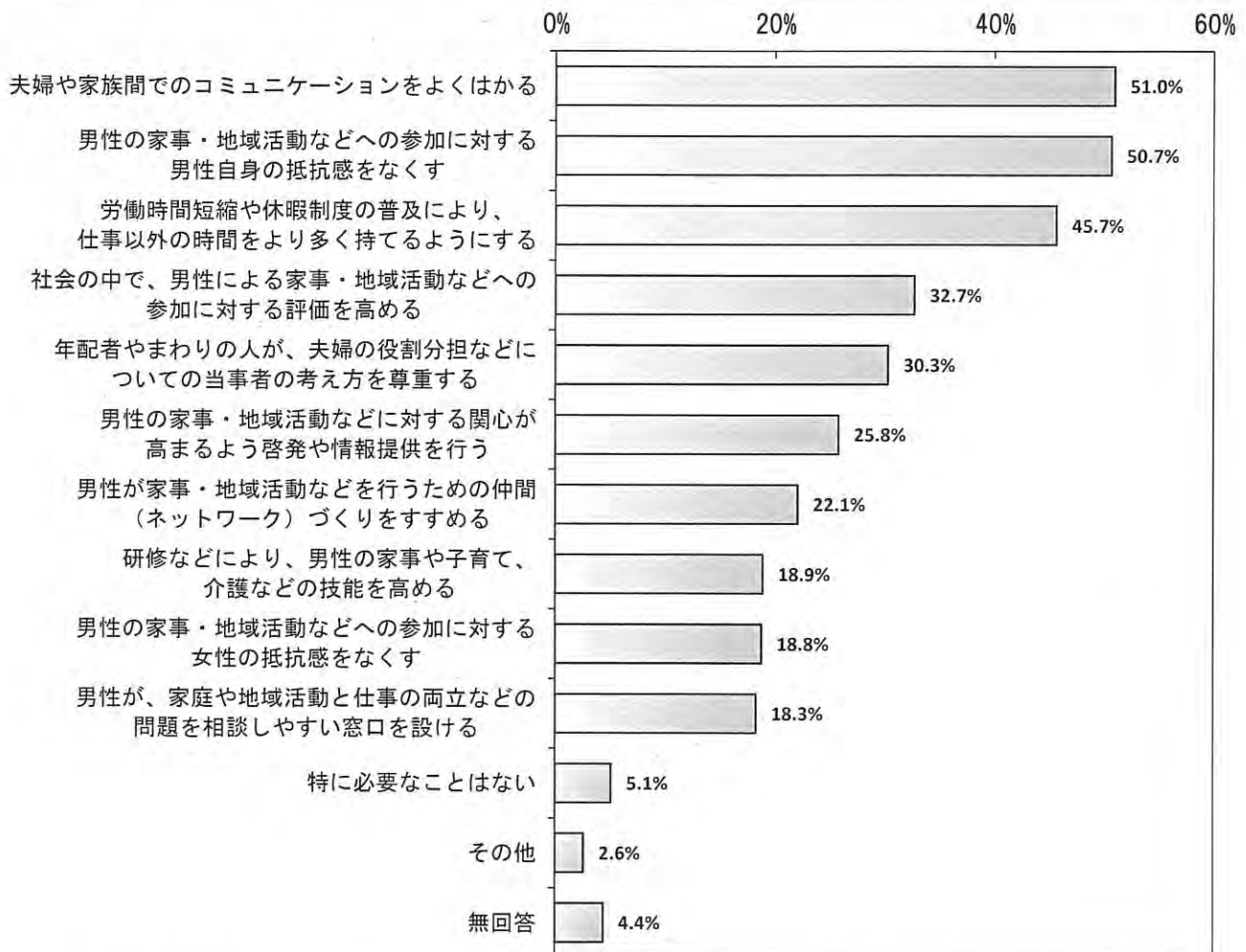
社会活動、地域活動に参加する上で問題となることについて、「時間がない(仕事・家事・育児・介護で忙しい)」の割合が50.8%と最も高く、次いで「どんな活動があるのか分からない」(34.7%)、「健康や体力に自信がない」(29.1%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「時間がない(仕事・家事・育児・介護で忙しい)」の割合が最も高くなっている。「育児・介護を頼める所がない」は男性(3.0%)より女性(6.7%)が3.7ポイント上回り、「自分に合った活動がない」は女性(10.3%)より男性(15.6%)が5.3ポイント上回っている。

問 14 男性の家事等への参加

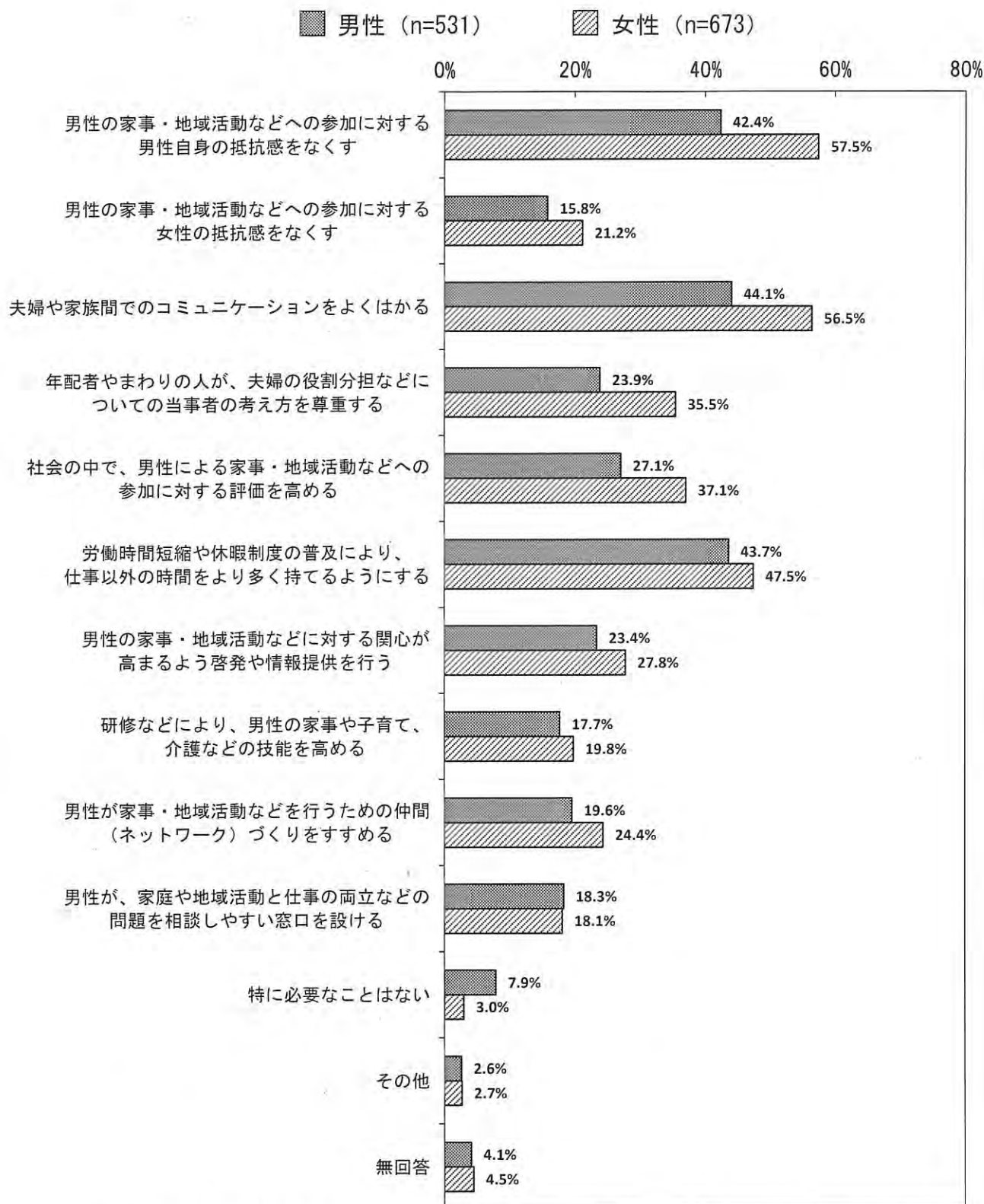
今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事・地域活動などへの参加に対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性による家事・地域活動などへの参加に対する評価を高める
- 6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 男性の家事・地域活動などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う
- 8 研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める
- 9 男性が家事・地域活動などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
- 10 男性が、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題を相談しやすい窓口を設ける
- 11 特に必要なことはない
- 12 その他（ ）



男性が家事等に参加していくために必要なこととして、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が51.0%と最も高く、次いで、「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」(50.7%)、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(45.7%)の順となっている。

○性別



性別にみると、男性は「夫婦や家族間でコミュニケーションをよくはかる」、女性は「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が最も高くなっている。「男性が、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題を相談しやすい窓口を設ける」と「特に必要なことはない」以外の項目は、男性より女性の割合が高くなっている。

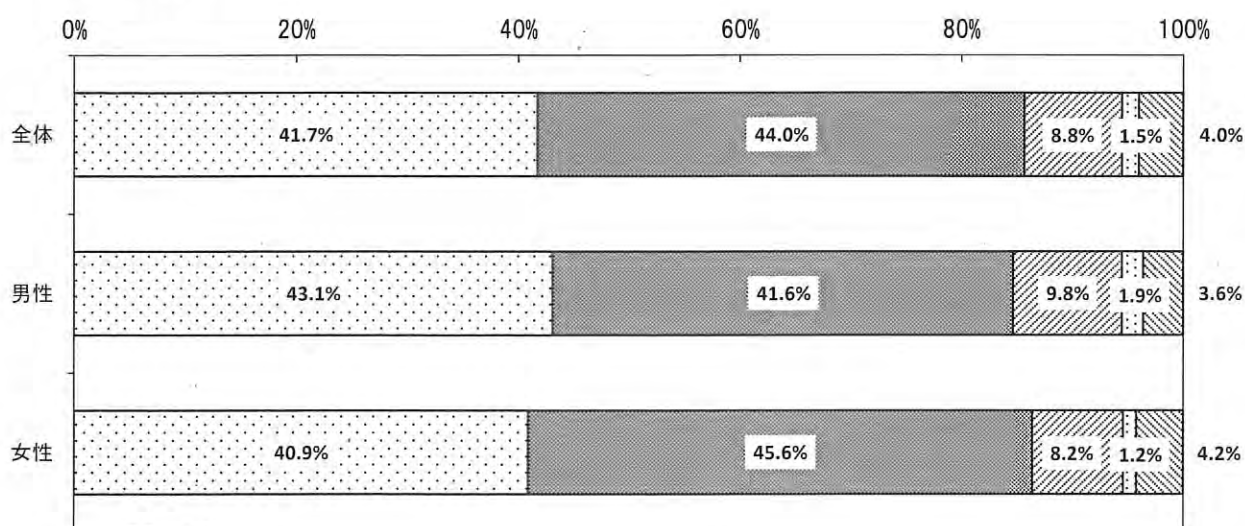
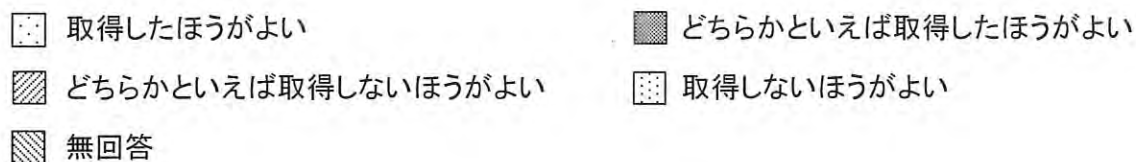
「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合は男性（42.4%）より女性（57.5%）が15.1ポイント上回っている。

問 15 男性の休業や休暇の取得

男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思いますか。

(1つだけ○印)

- 1 取得したほうがよい
- 2 どちらかといえば取得したほうがよい
- 3 どちらかといえば取得しないほうがよい
- 4 取得しないほうがよい

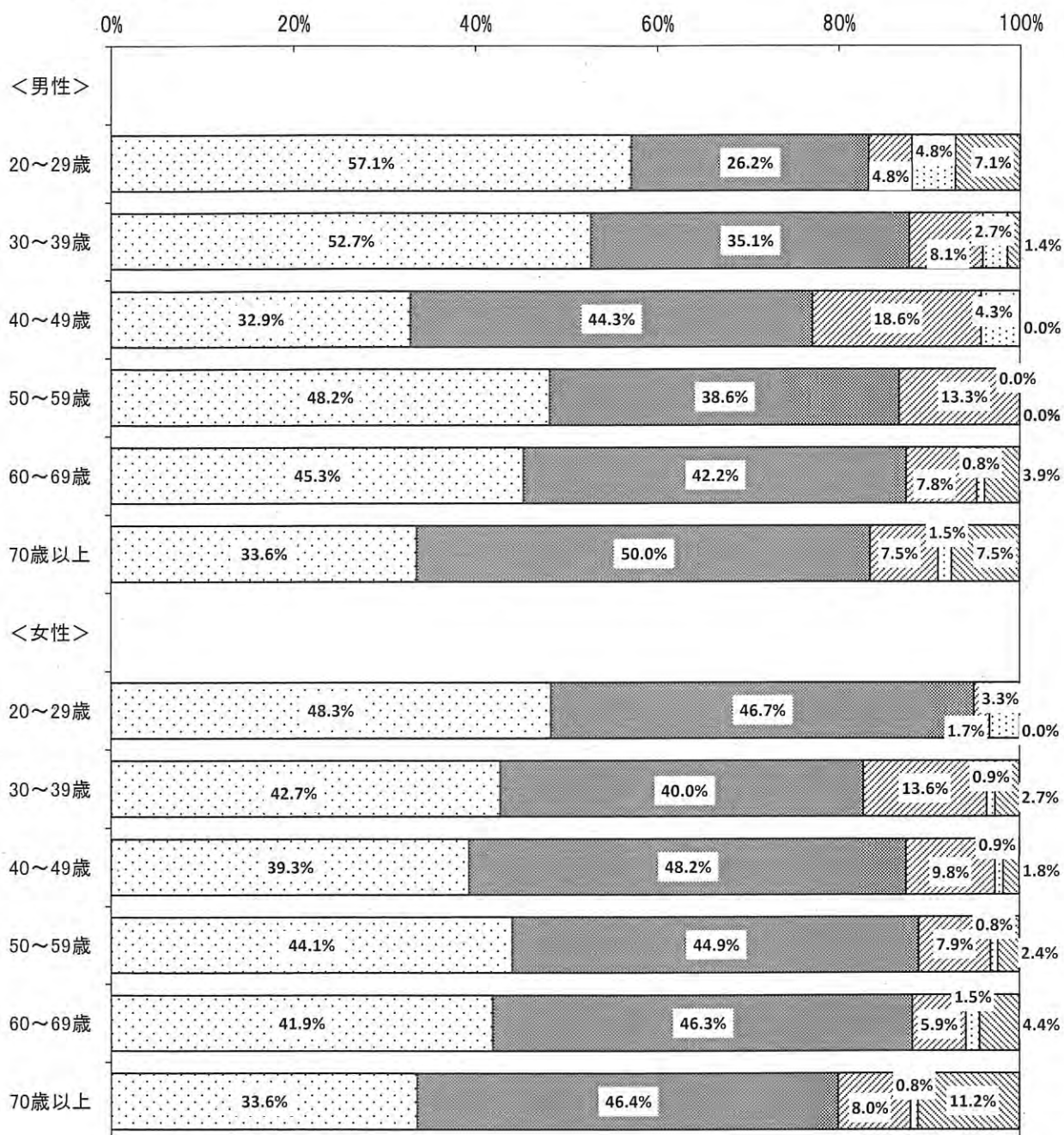


男性の育児休業や介護休業、時短勤務などの取得について「取得したほうがよい」と思う割合（「取得したほうがよい」と「どちらかといえば取得したほうがよい」の計）は全体で8割を超えている。

性別にみると、「取得したほうがよい」と思う割合（「取得したほうがよい」と「どちらかといえば取得したほうがよい」の計）は、男性（84.7%）より女性（86.5%）の割合が1.8ポイント上回っている。

○性別・年齢別

- 取得したほうがよい
- どちらかといえば取得したほうがよい
- どちらかといえば取得しないほうがよい
- 取得しないほうがよい
- 無回答



年齢別にみると、男性の20歳代、30歳代、50歳代、60歳代は「取得したほうがよい」の割合が最も高く、40歳代、70歳以上は「どちらかといえば取得したほうがよい」の割合が最も高くなっている。女性の20歳代、30歳代は「取得したほうがよい」の割合が最も高く、40歳代以上は「どちらかといえば取得したほうがよい」の割合が最も高くなっている。

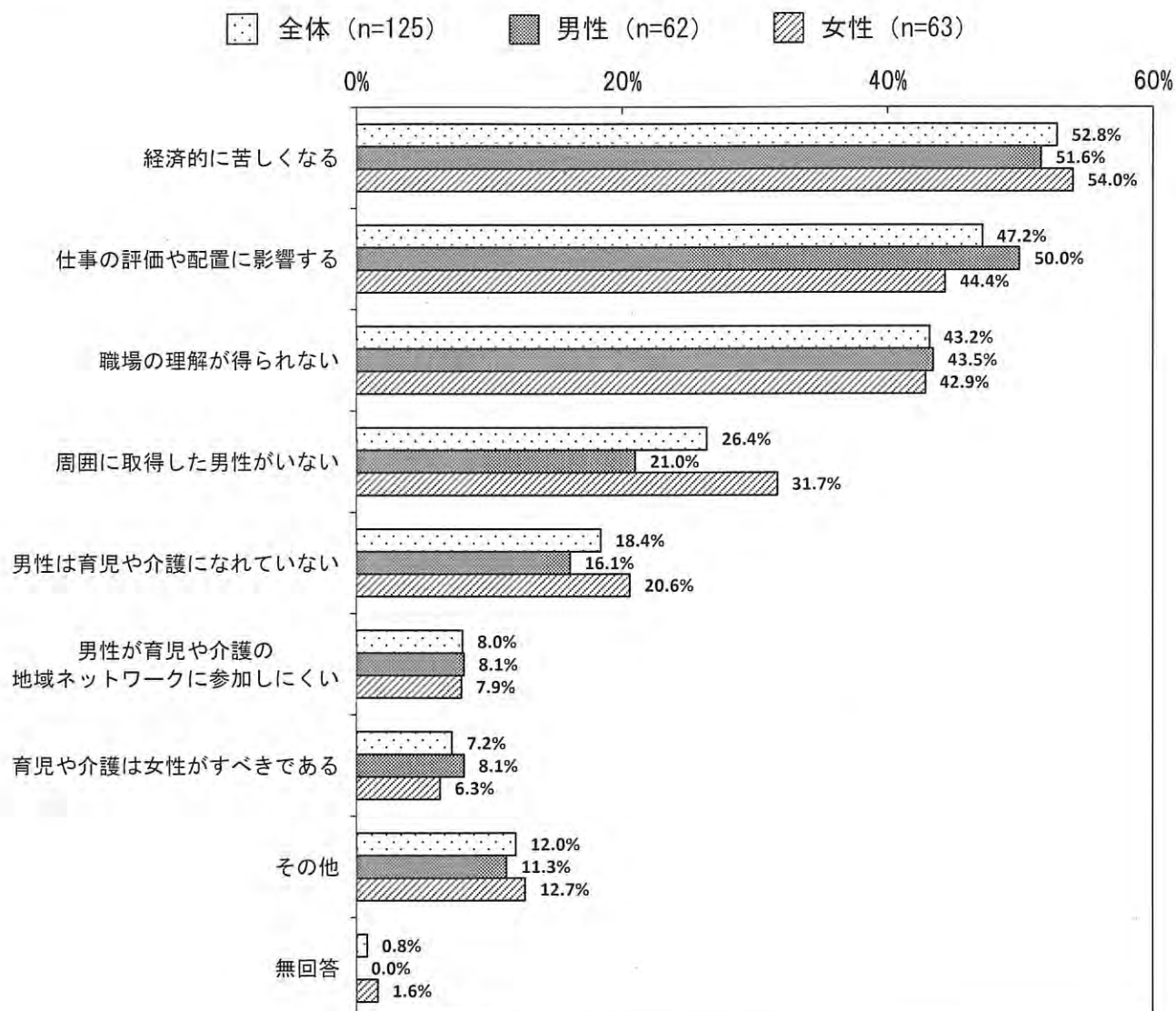
性別、年齢別にかかわらず、「取得したほうがよい」と思う割合（「取得したほうがよい」と「どちらかといえば取得したほうがよい」の計）は70%を超えている。

問 15-1 男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと思う理由

問15で「3」、または「4」と回答された方のみお答えください。

「取得しないほうがよい」と思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 経済的に苦しくなる | 2 職場の理解が得られない |
| 3 仕事の評価や配置に影響する | 4 育児や介護は女性がすべきである |
| 5 男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい | 6 男性は育児や介護になれていない |
| 7 周囲に取得した男性がいない | 8 その他 () |



問 15 で「どちらかといえば取得しないほうがよい」または「取得しないほうがよい」と回答した人の理由として「経済的に苦しくなる」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「仕事の評価や配置に影響する」が 47.2%、「職場の理解が得られない」が 43.2%となっている。

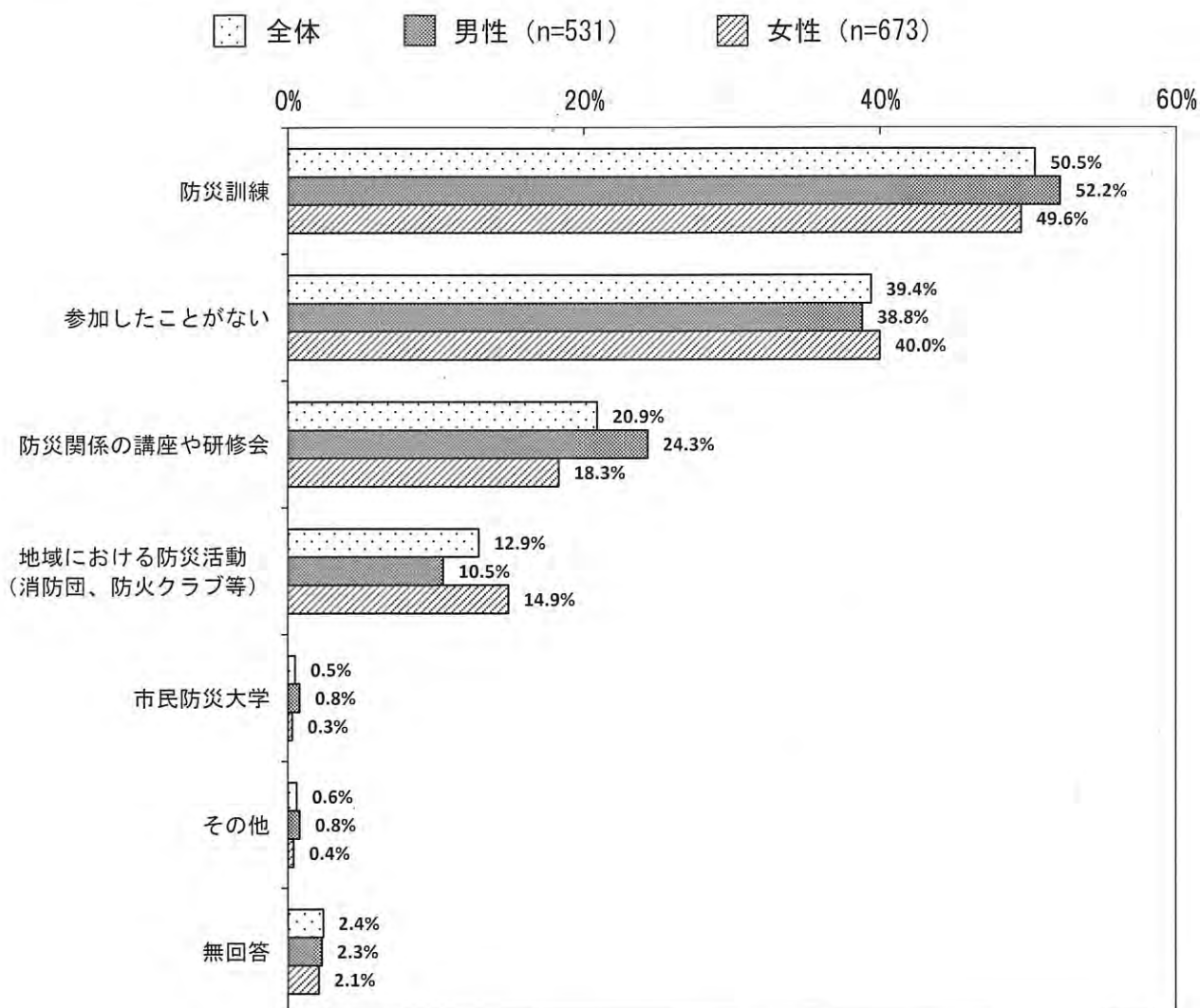
性別にみると、男性、女性ともに「経済的に苦しくなる」の割合が最も高くなっている。「男性は育児や介護になれていない」の割合は、男性が 16.1%で女性の 20.6%より、4.5ポイント低くなっている。

問 16 防災活動への参加

これまでに参加したことがある防災活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 防災訓練
- 2 防災関係の講座や研修会
- 3 地域における防災活動（消防団、防火クラブ等）
- 4 市民防災大学
- 5 参加したことがない
- 6 その他（ ）



参加したことがある防災活動については、「防災訓練」の割合が50.5%と最も高く、次いで「防災関係の講座や研修会」(20.9%)の順となっている。

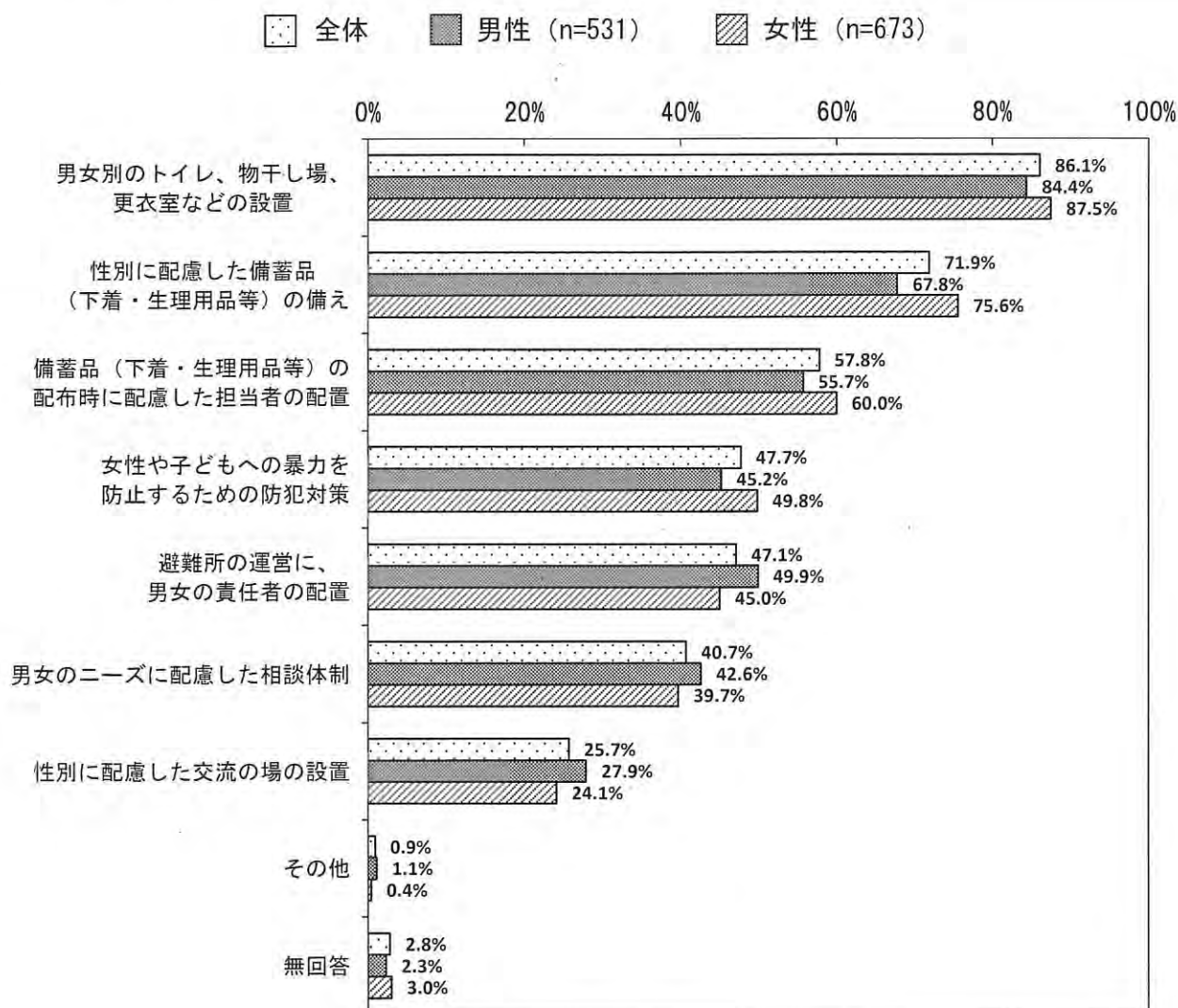
性別にみると、「防災訓練」は女性(49.6%)より男性(52.2%)の割合が高く、「地域における防災活動(消防団、防火クラブ等)」は男性(10.5%)より女性(14.9%)の割合が高くなっている。

「参加したことがない」は男性(38.8%)より女性(40.0%)の割合が高くなっている。

問 17 避難所や防災・災害対策における性別の違いによる配慮

避難所や防災・災害対策において、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 避難所の運営に、男女の責任者の配置
- 2 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置
- 3 性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品等）の備え
- 4 備蓄品（下着・生理用品等）の配布時に配慮した担当者の配置
- 5 性別に配慮した交流の場の設置
- 6 男女のニーズに配慮した相談体制
- 7 女性や子どもへの暴力を防止するための防犯対策
- 8 その他（ ）



避難所などにおける性別の違いへの配慮では「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」の割合が86.1%と最も高く、次いで「性別に配慮した備蓄品の備え」(71.9%)、「備蓄品の配布時に配慮した担当者の配置」(57.8%)の順となっている。

性別にみると、「避難所の運営に、男女の責任者の配置」と「男女のニーズに配慮した相談体制」、「性別に配慮した交流の場の設置」は女性より男性の割合が高く、それ以外の項目では男性より女性の割合が高くなっている。

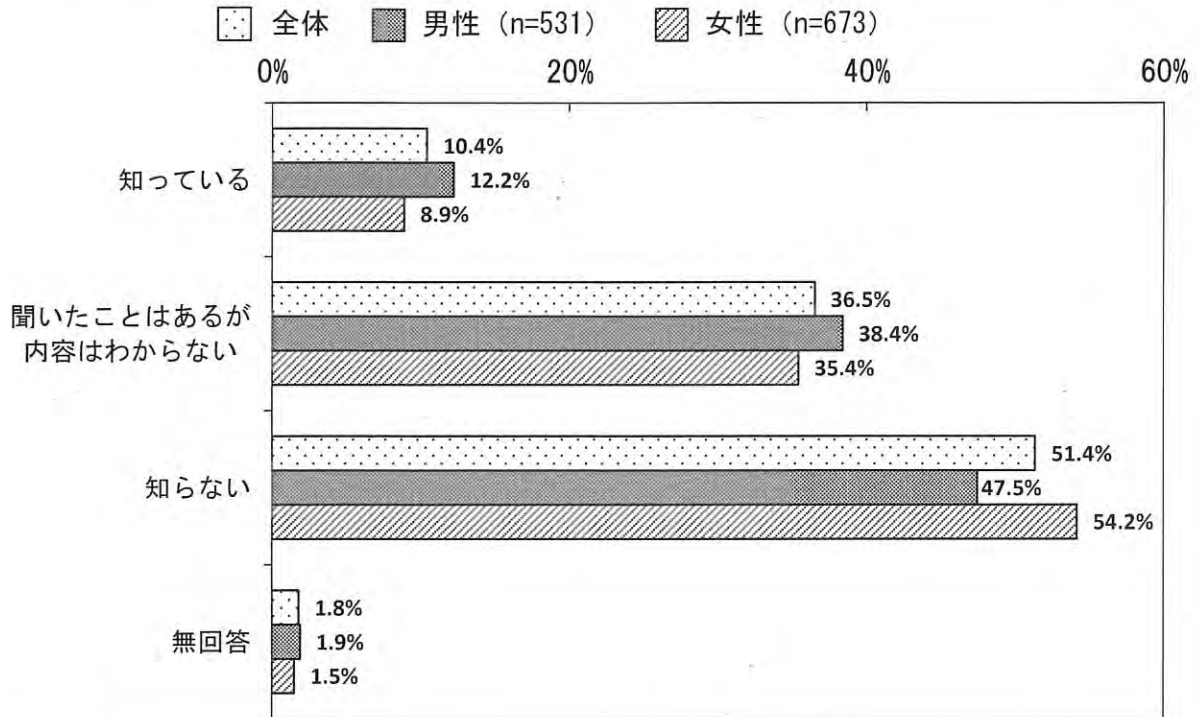
2 女性活躍について

問 18 女性活躍推進法の認知度

女性活躍推進法について、知っていますか。

(1つだけに○印)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 3 知らない



女性活躍推進法について「知らない」と回答した割合が51.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容はわからない」が36.5%となっている。

性別にみると、「知らない」と回答した女性の割合は50%を超えている。

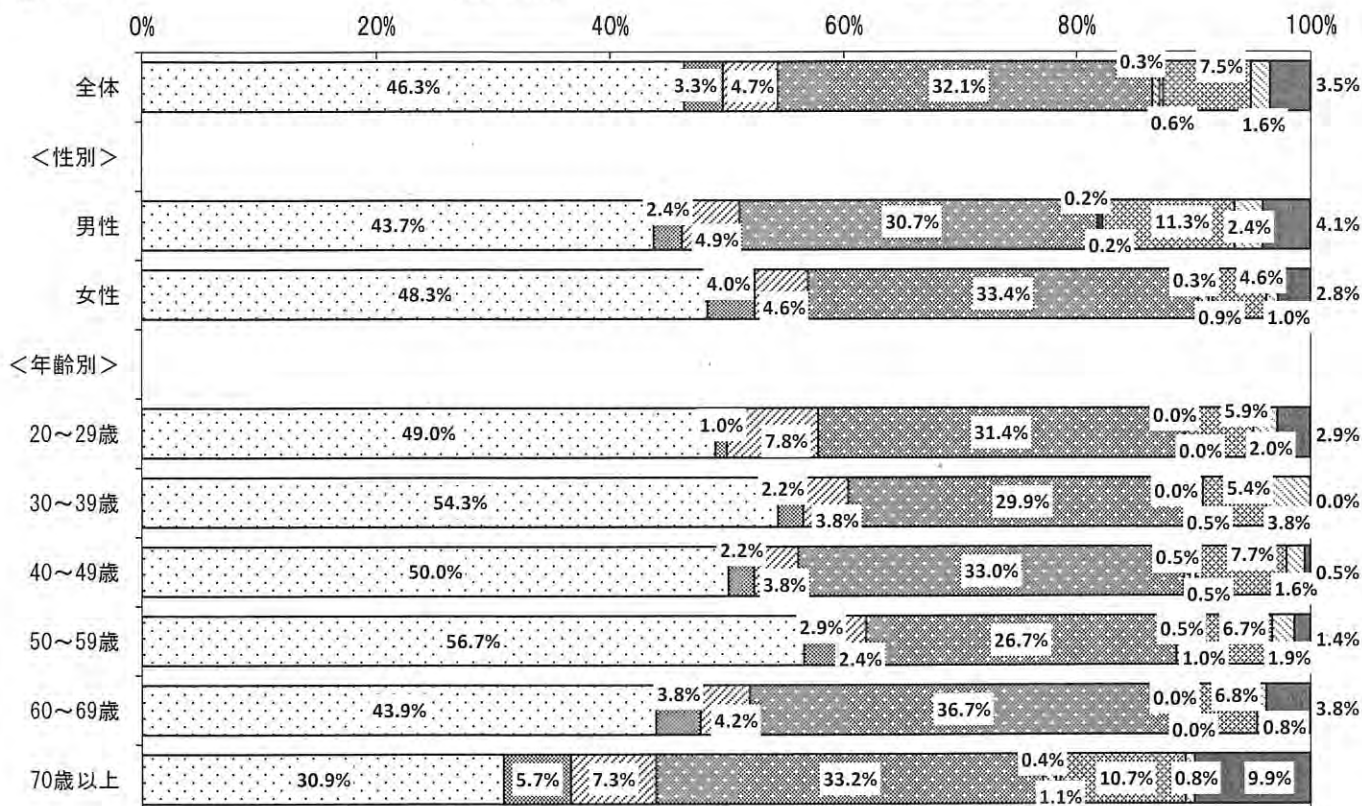
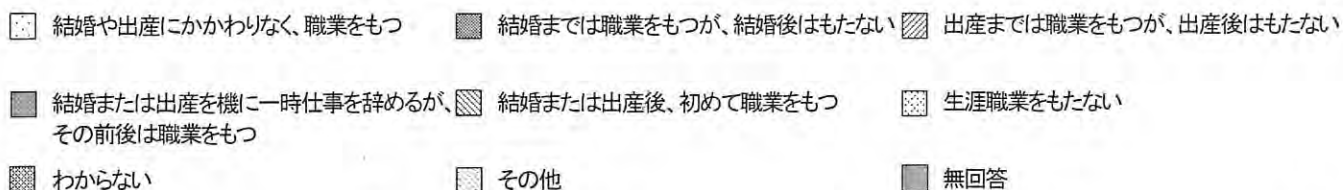
「知っている」と回答した割合は女性(8.9%)より男性(12.2%)が高くなっている。

問 19 女性の職業の持ち方

次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の職業の持ち方について、あなたほどの考えに近いですか。※未婚の方は結婚したと仮定した上で、お答えください。

- 1 結婚や出産にかかわらず、職業をもつ
- 2 結婚までは職業をもつが、結婚後はもたない
- 3 出産までは職業をもつが、出産後はもたない
- 4 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ
- 5 結婚または出産後、初めて職業をもつ
- 6 生涯職業をもたない
- 7 わからない
- 8 その他（ ）

(1) 理想の(理想としていた)職業の持ち方



理想の職業の持ち方として、全体では、「結婚や出産にかかわらず、職業をもつ」が46.3%と最も高く、次いで「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」が32.1%となっており、この2項目で全体の78.4%を占めている。

性別にみると、「結婚や出産にかかわらず、職業をもつ」の割合は男性(43.7%)より女性(48.3%)が4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代から60歳代は「結婚や出産にかかわらず、職業をもつ」の割合が最も高く、70歳以上は「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」の割合が最も高くなっている。

(2) 実際になりそうな（現実そうになっている）職業の持ち方

- 結婚や出産にかかわらず、職業をもつ

 結婚までは職業をもつが、結婚後はもたない

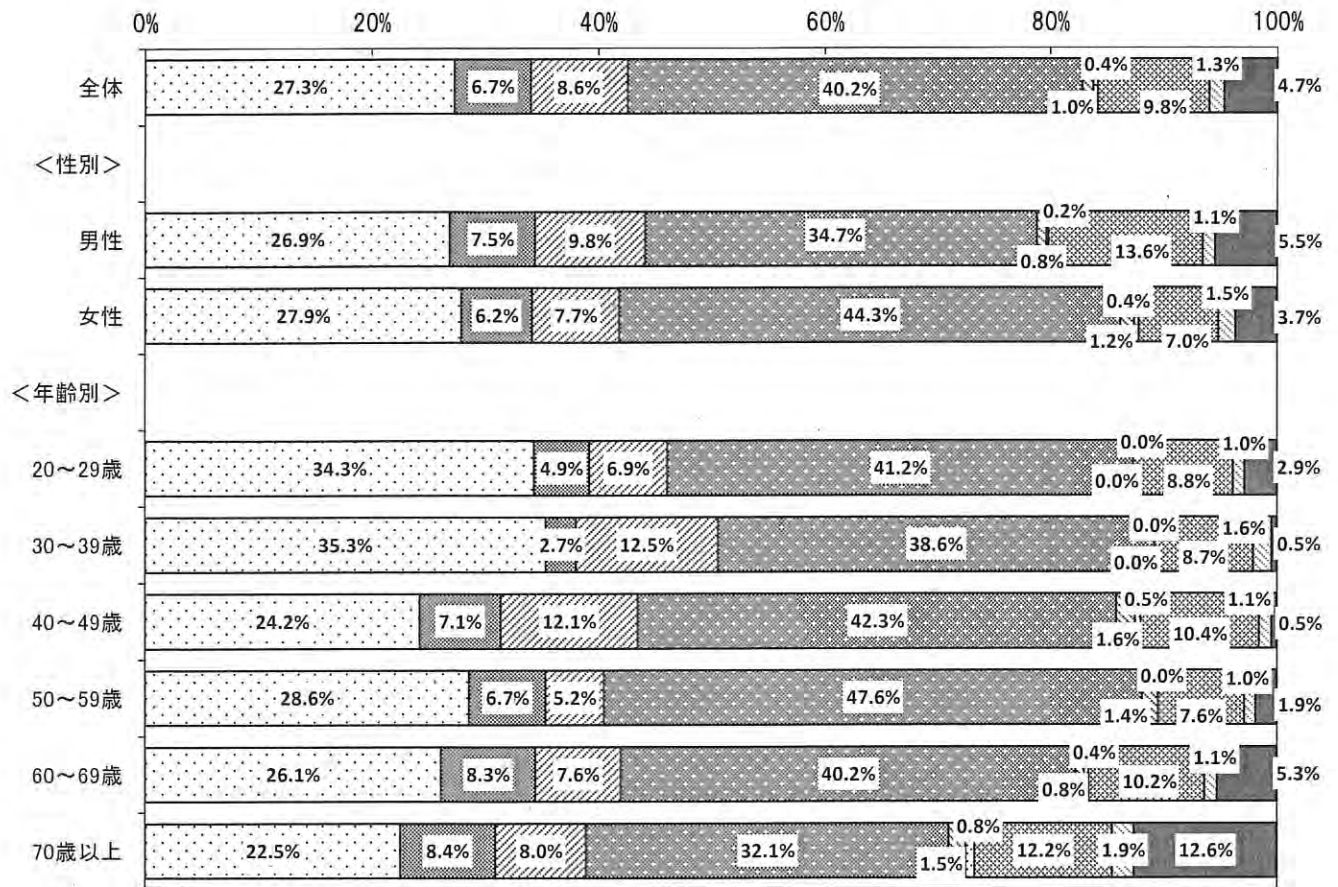
 出産までは職業をもつが、出産後はもたない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ

 結婚または出産後、初めて職業をもつ

 生涯職業をもたない
- わからない

 その他

 無回答



現実では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」が40.2%で最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、職業をもつ」(27.3%)となっている。

年齢別にみると、すべての年代で「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」の割合が最も高くなっている。

「出産まで職業はもつが、出産後はもたない」の割合は、30歳代、40歳代で10%を超えている。

理想での回答は「結婚や出産にかかわらず、職業をもつ」の割合が高くなっているが、現実では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ」の割合が高くなっている。

問 20 女性が職業をもち続けていくことの問題

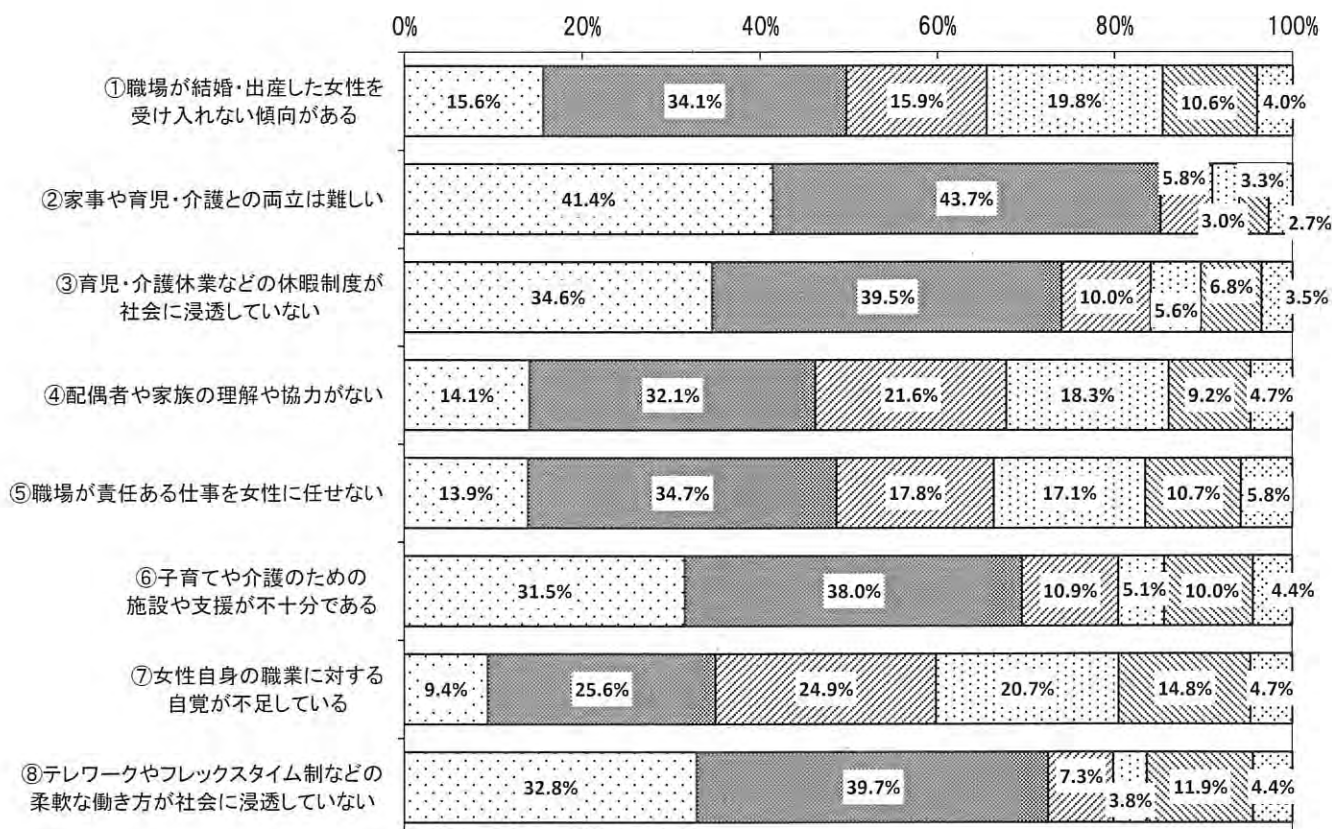
女性が職業をもち続けていく上で、どのようなことが問題になると思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

- ①職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある
- ②家事や育児・介護との両立は難しい
- ③育児・介護休業などの休暇制度が社会に浸透していない
- ④配偶者や家族の理解や協力がない
- ⑤職場が責任ある仕事を女性に任せない
- ⑥子育てや介護のための施設や支援が不十分である
- ⑦女性自身の職業に対する自覚が不足している
- ⑧テレワークやフレックスタイム制など柔軟な働き方が社会に浸透していない

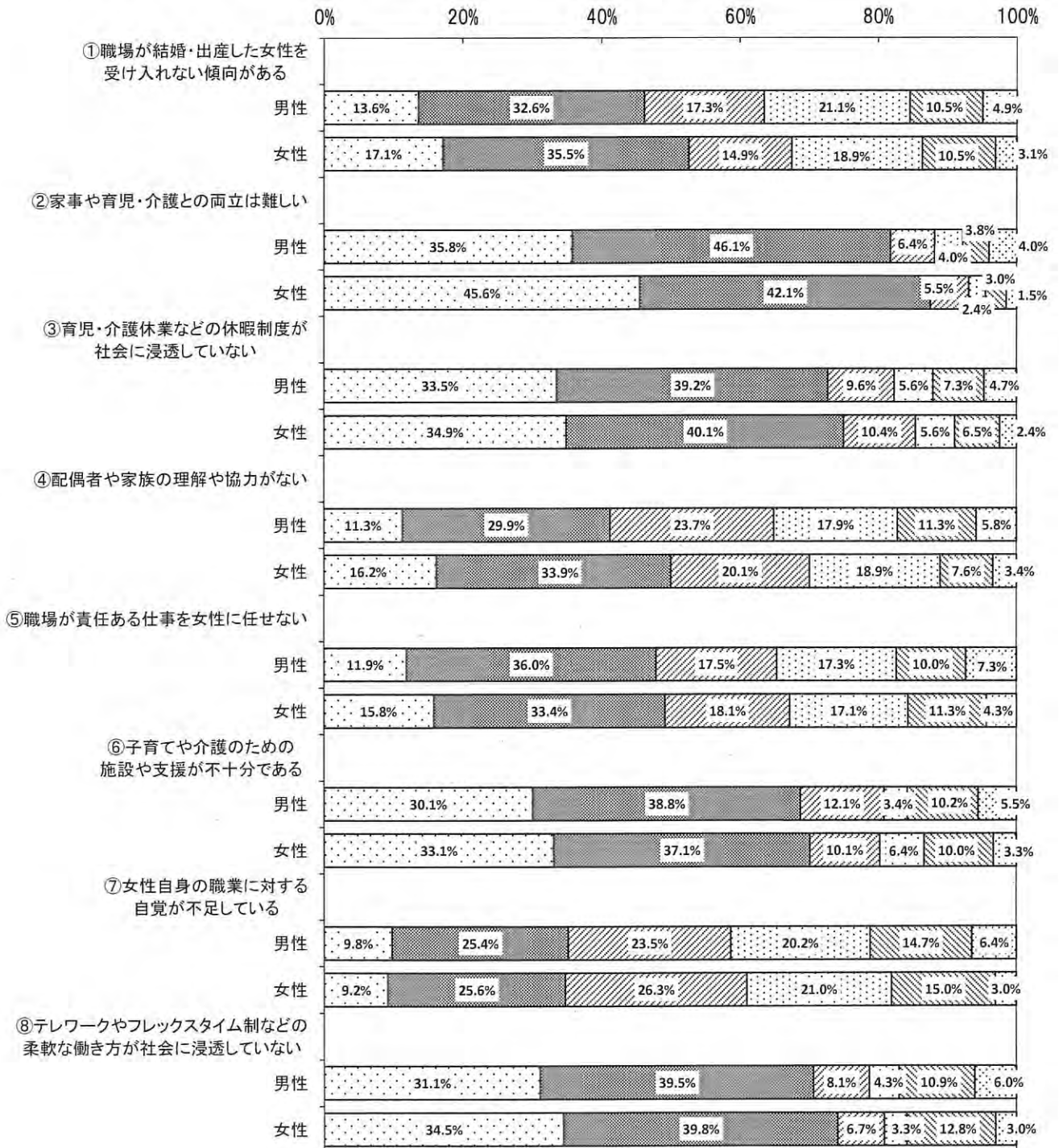
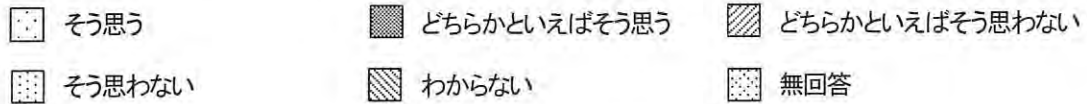
そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない

そう思わない
 わからない
 無回答



女性が職業を持ち続けていくことの問題として「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）が85.1%と最も高く、次いで「育児・介護休業などの休暇制度が社会に浸透していない」（74.1%）、「テレワークやフレックスタイム制などの柔軟な働き方が社会に浸透していない」（72.5%）の順となっている。

○性別



性別にみると、男女ともに「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）が最も高く、次いで「育児・介護休業などの休暇制度が社会に浸透していない」の順となっている。

「配偶者や家族の理解や協力が無い」と思う割合では、男性（41.2%）より女性（50.1%）が8.9ポイント上回っている。

問 21 就労における性別による差

就労について、性別による差があると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

①募集・採用

②賃金

③仕事の内容

④昇進・昇格

⑤管理職への登用

⑥人事評価（業績評価・能力評価など）

⑦会議などの意思決定の場への参加

⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい

☐ 男性の方が非常に優遇されている

■ どちらかといえば男性の方が優遇されている

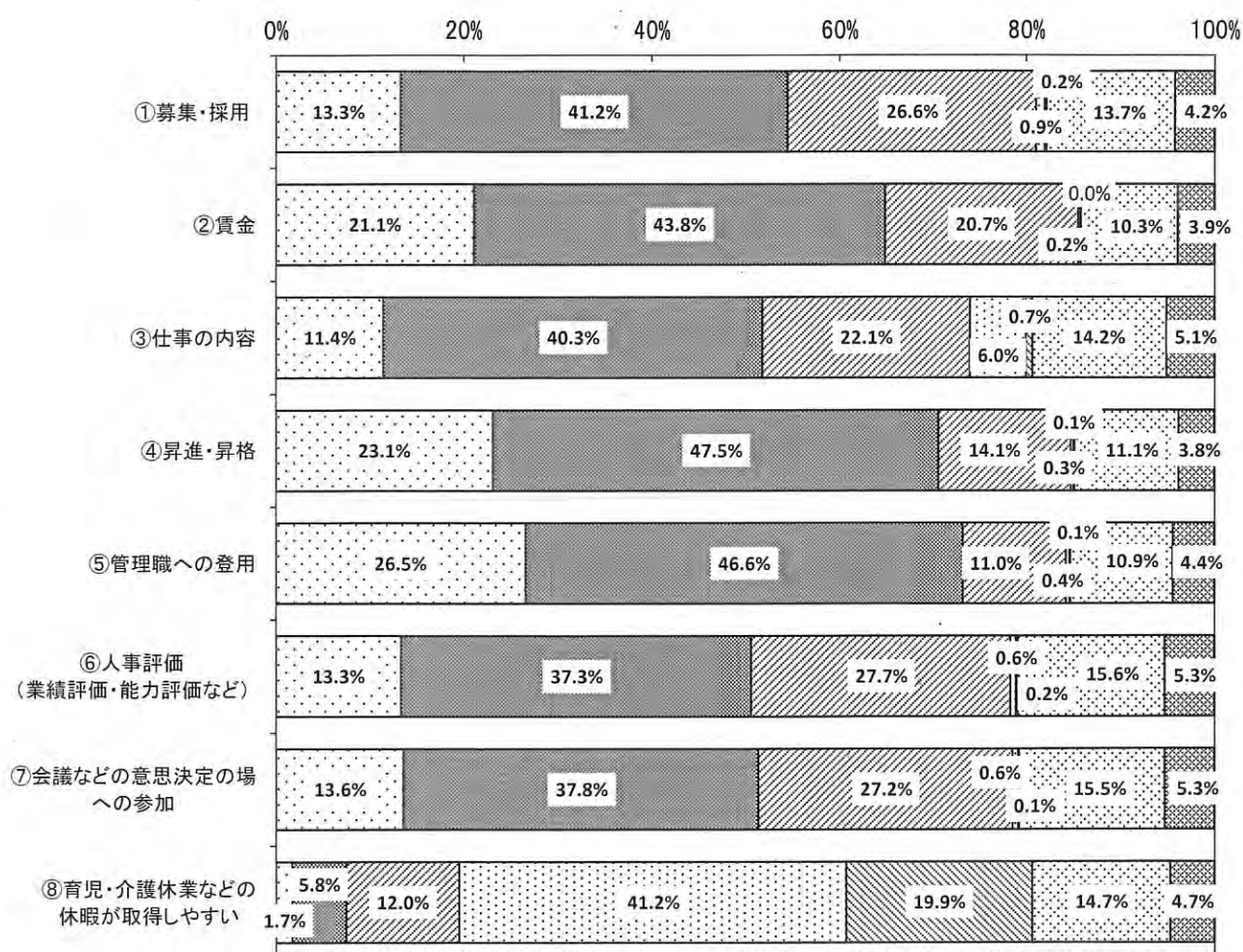
▨ 平等である

▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている

▧ 女性の方が非常に優遇されている

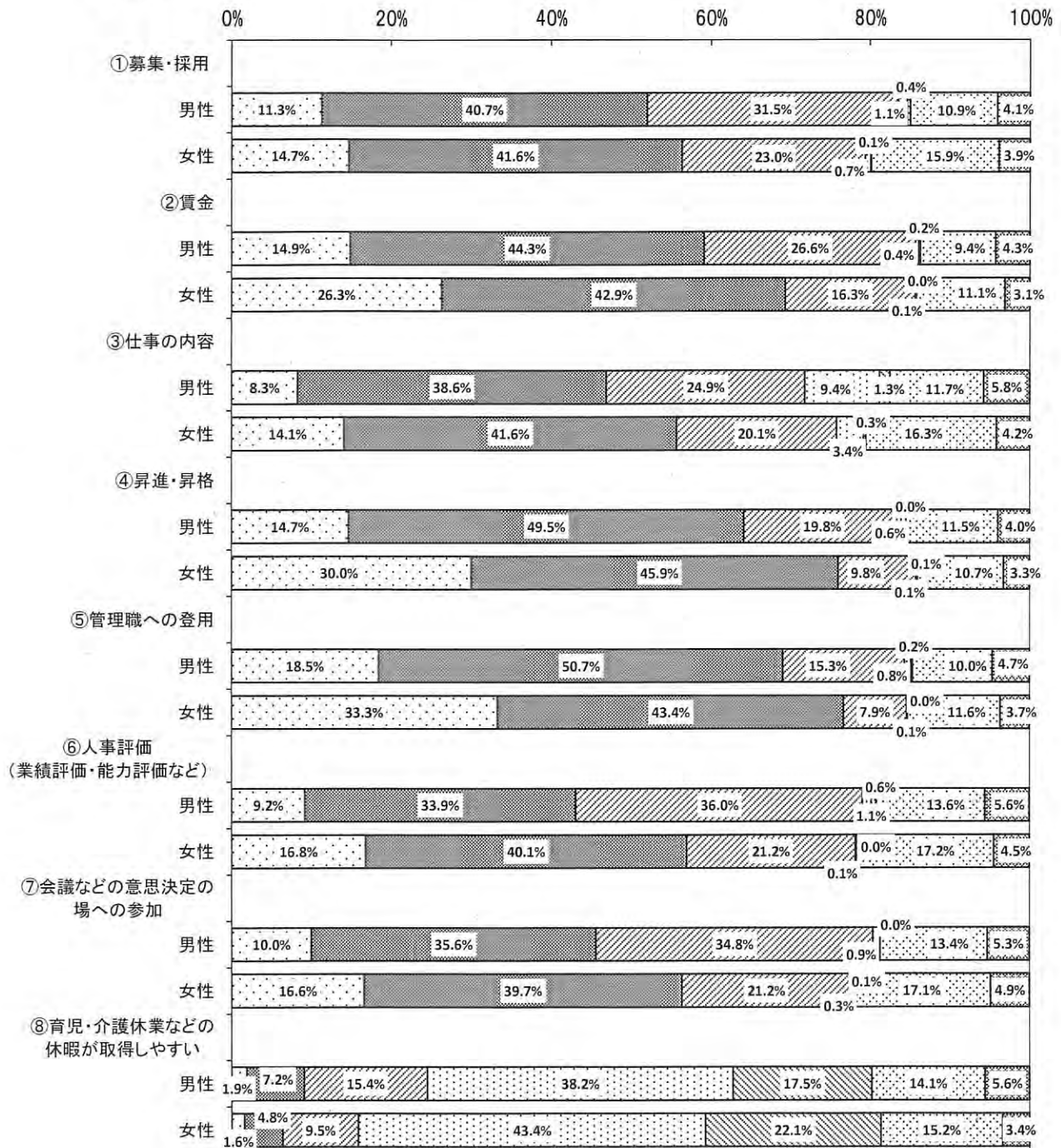
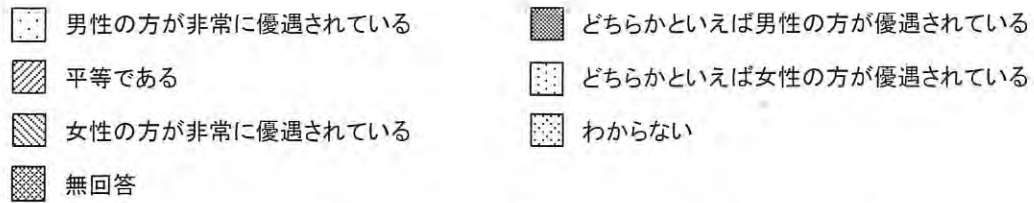
□ わからない

■ 無回答



就労における性別の差について「男性の方が優遇されている」と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は「管理職への登用」が73.1%と最も高く、「女性の方が優遇されている」と思う割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）は「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」が61.1%と最も高くなっている。「平等である」と思う割合は「人事評価」が27.7%と最も高くなっている。

○性別

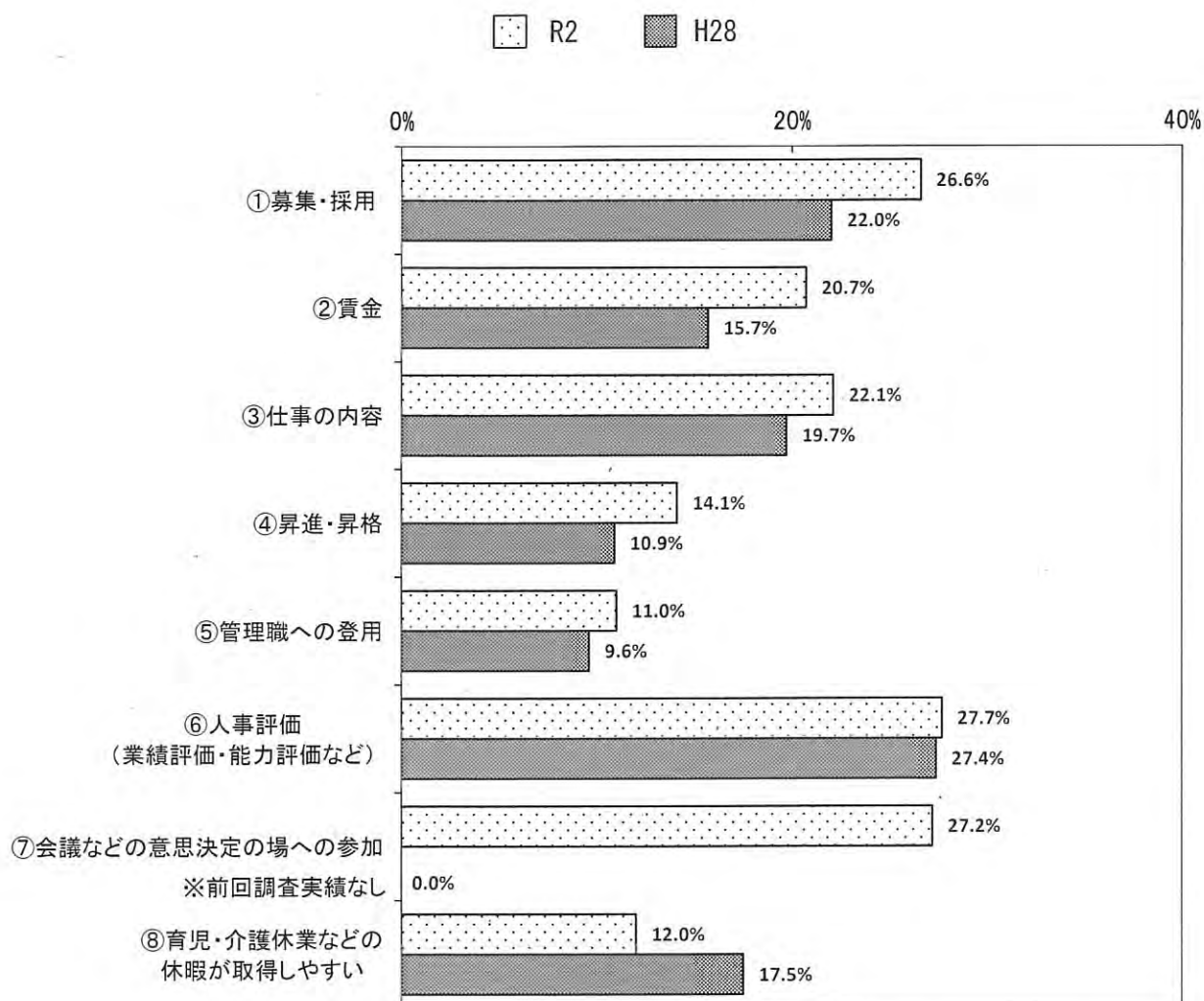


性別にみると、男女ともに「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」は「女性の方が優遇されている」割合が高くなっている。

「平等である」と思う割合は、いずれの項目も女性より男性のほうが高くなっている。

男性が「男性の方が優遇されている」と思う割合で最も高い項目は、「管理職への登用」で、69.2%となっている。

○前回調査との比較
 ※平等であると回答した割合



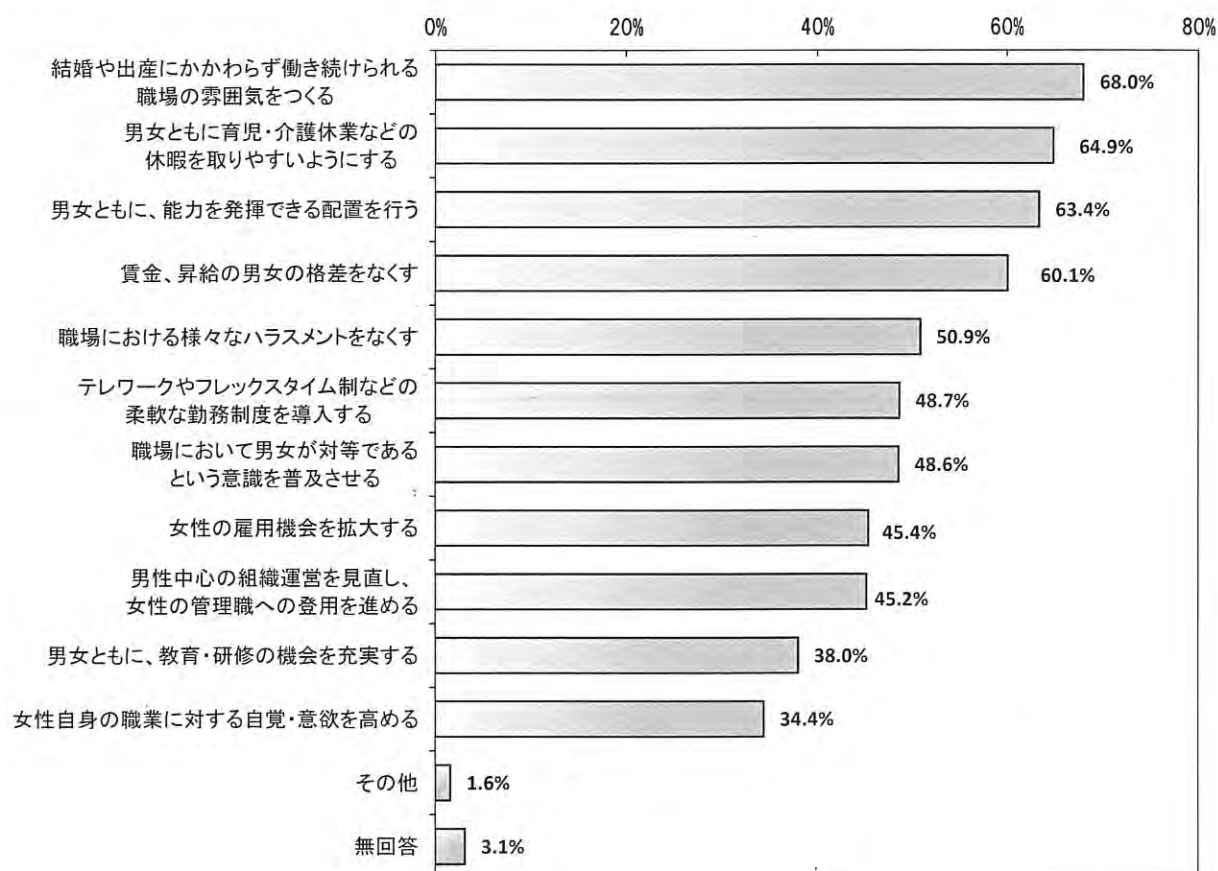
就労における性別による差について、「平等である」と回答した割合は、「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」を除き、すべての項目で前回の調査より今回の調査が上回っている。「賃金」では、前回の調査に比べ今回の調査が5.0ポイント上回っている。

問 22 男女の雇用均等に必要なこと

男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

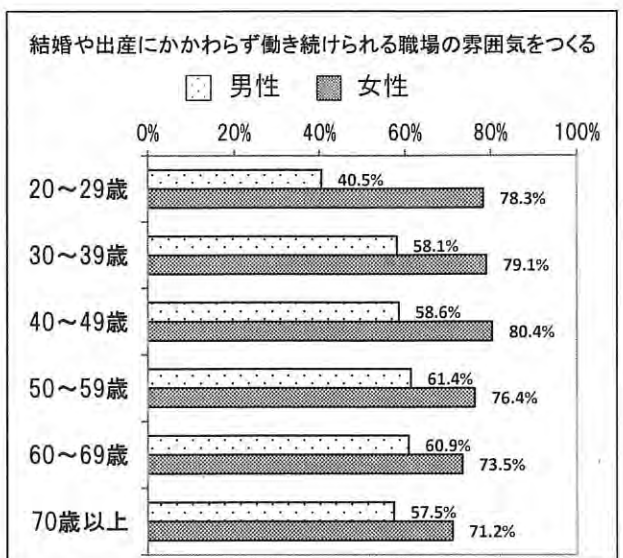
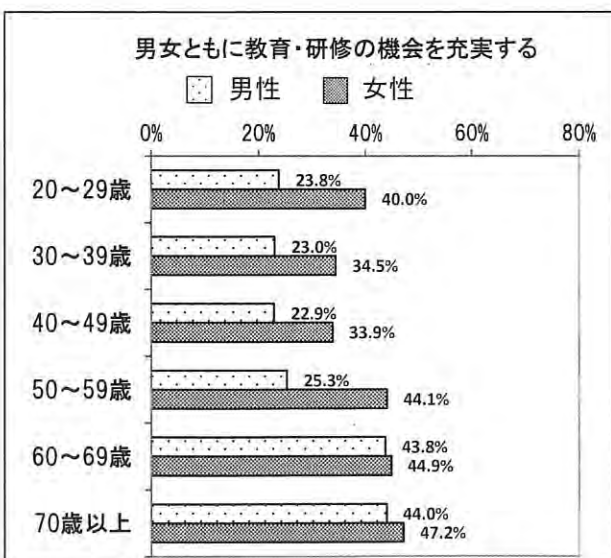
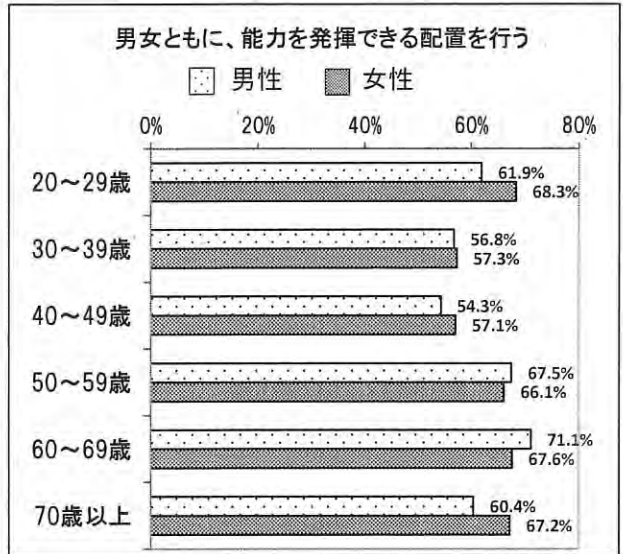
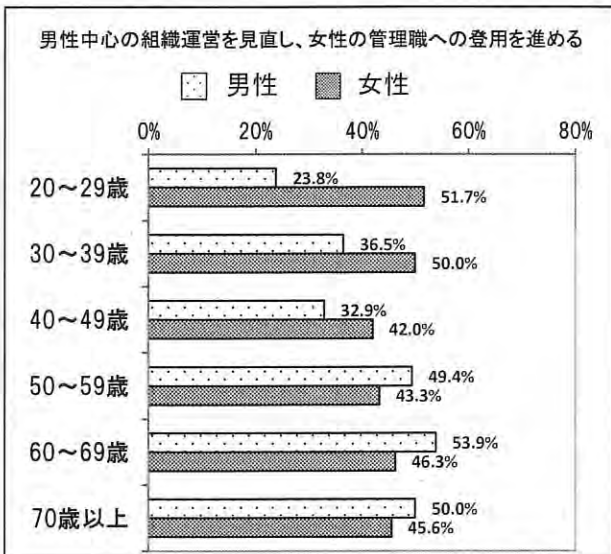
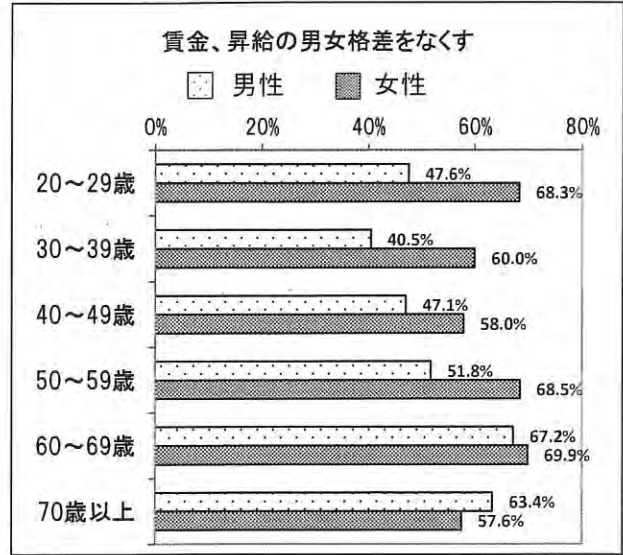
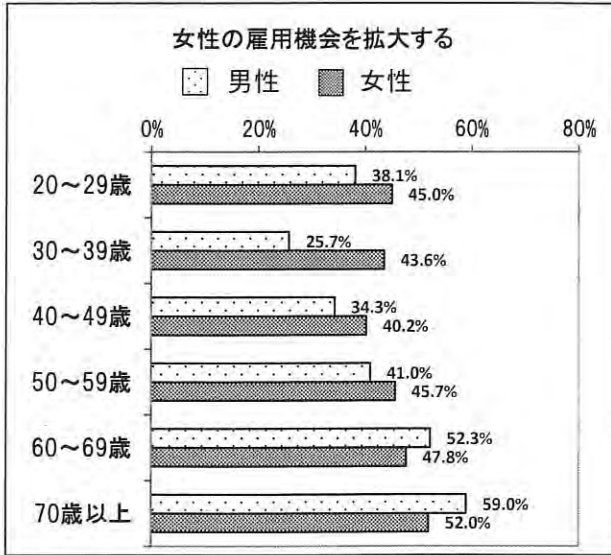
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 女性の雇用機会を拡大する
- 2 賃金、昇給の男女の格差をなくす
- 3 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
- 4 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
- 5 男女ともに、教育・研修の機会を充実する
- 6 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる
- 7 テレワークやフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度を導入する
- 8 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする
- 9 職場における様々なハラスメントをなくす
- 10 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
- 11 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
- 12 その他 ()

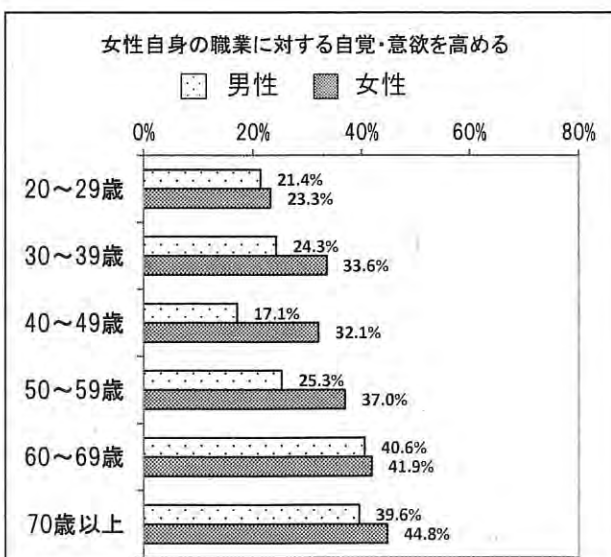
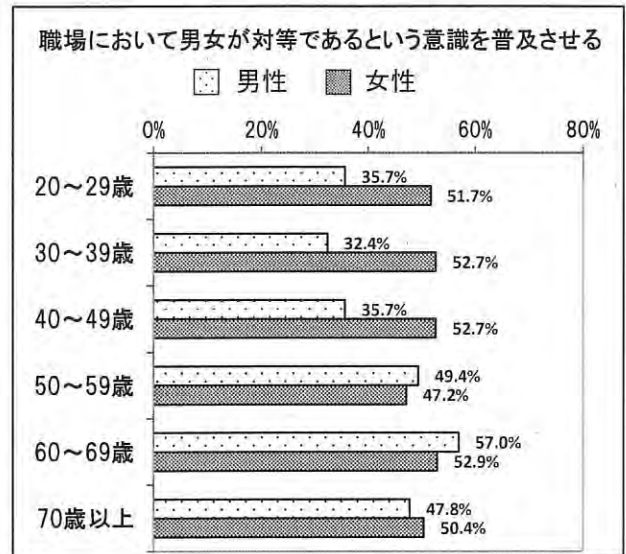
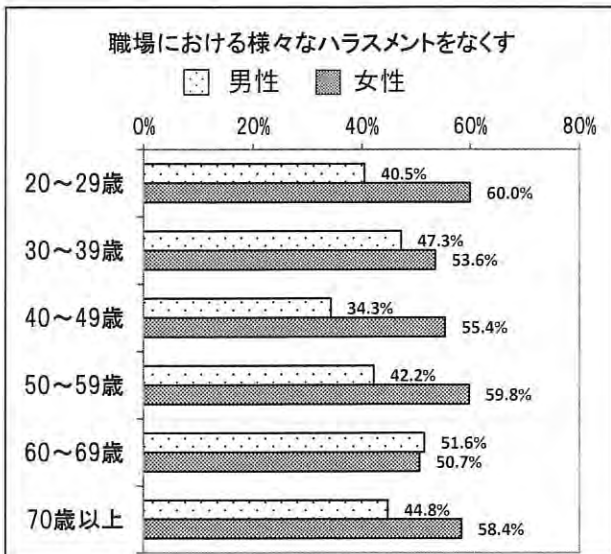
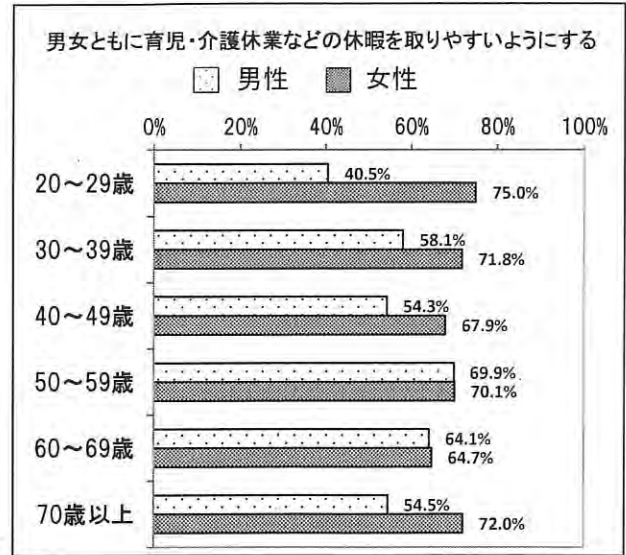
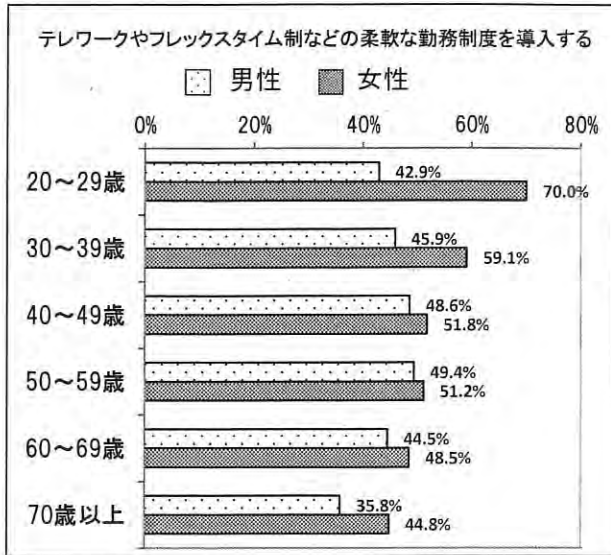


男女が対等に働くために必要なこととして「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が68.0%と最も高く、次いで「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」(64.9%)、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」(63.4%)の順となっている。

○性別・年齢別



○性別・年齢別



性別、年齢別にみると、男性の20歳代、60歳代では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」、30歳代と40歳代では「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」、50歳代では「男女ともに育児・介護などの休暇を取りやすいようにする」、70歳以上では「賃金、昇給の男女格差をなくす」の割合が最も高くなっている。

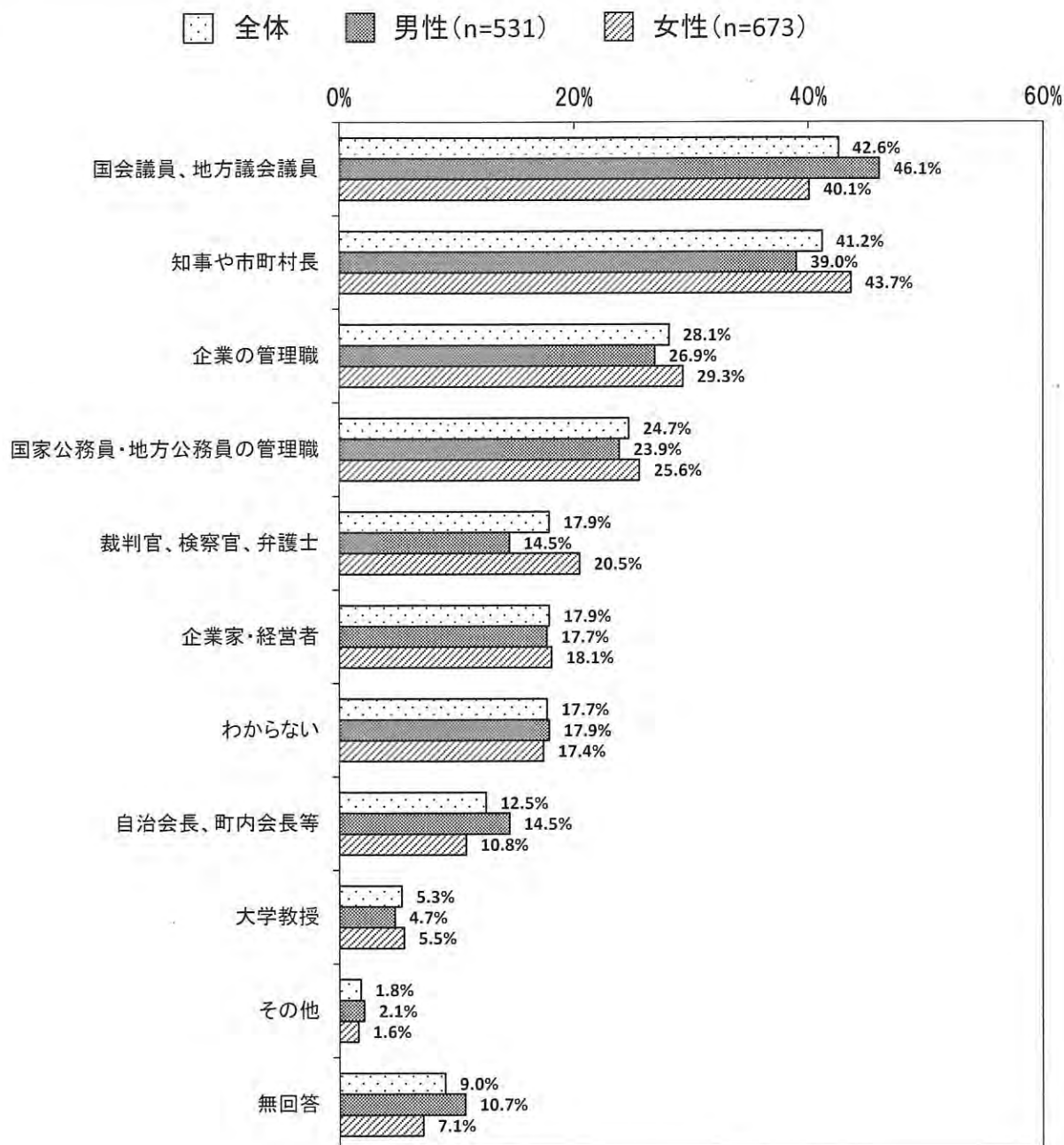
女性の20歳代から60歳代では「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」、70歳以上では「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」の割合が最も高くなっている。

問 23 役職、公職における女性の登用

役職、公職において今後女性が増えるほうがよいと思うものはどれですか。

(あてはまるもの3つまでに○印)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 知事や市町村長 | 2 国会議員、地方議会議員 |
| 3 国家公務員・地方公務員の管理職 | 4 裁判官、検察官、弁護士 |
| 5 大学教授 | 6 企業の管理職 |
| 7 企業家・経営者 | 8 自治会長、町内会長等 |
| 9 わからない | 10 その他 () |



今後女性が増えるとよいと思う役職や公職について、全体では、「国会議員、地方議会議員」の割合が42.6%で最も高くなっている。次いで「知事や市町村長」(41.2%)、「企業の管理職」(28.1%)の順になっている。

性別にみると、男性では「国会議員、地方議会議員」が、女性では「知事や市町村長」の割合が最も高くなっている。

3 DV（配偶者等からの暴力）について

問 24 配偶者等からの暴力と認識される行為

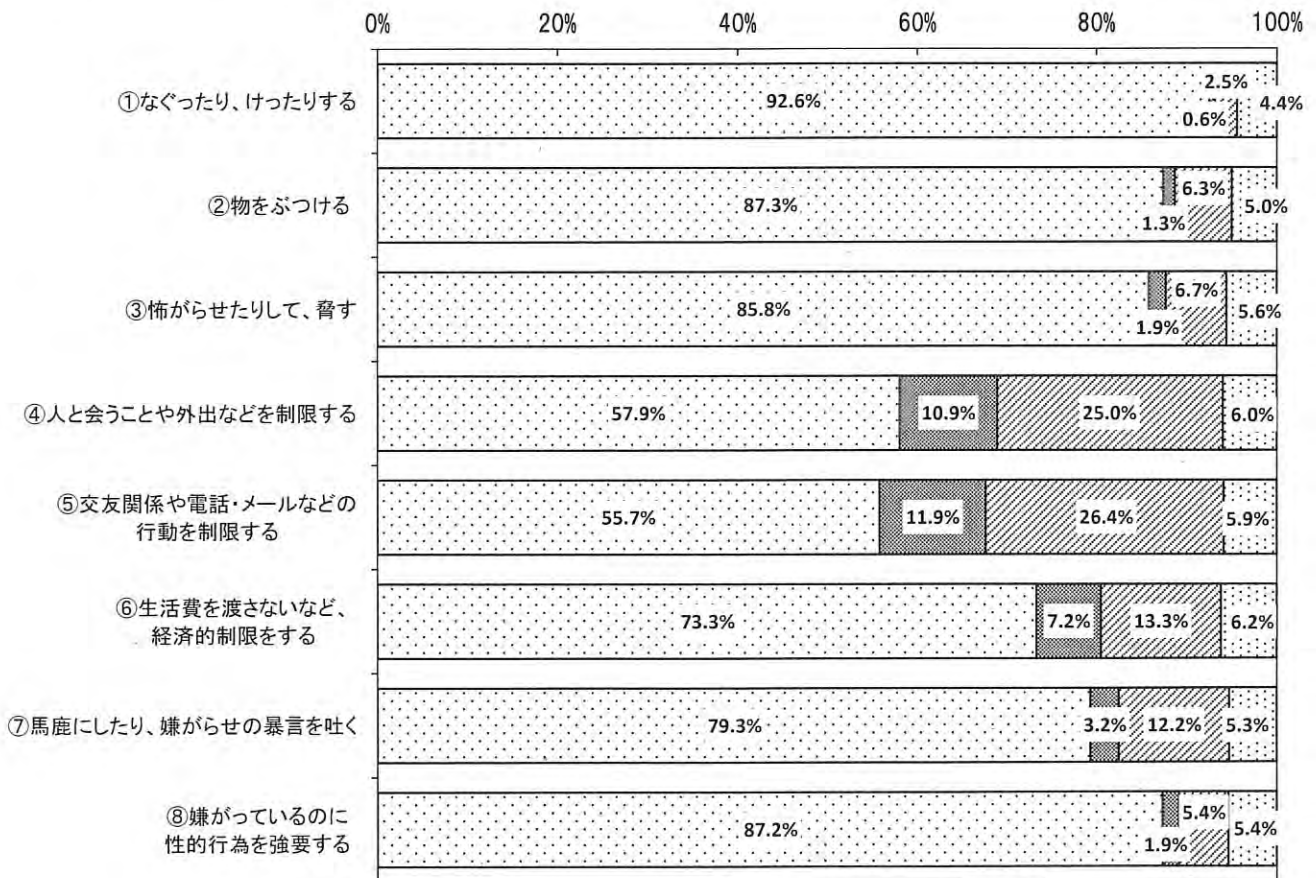
配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことはどのようなことですか。

あなたの考えに近いものをお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ〇印）

- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する

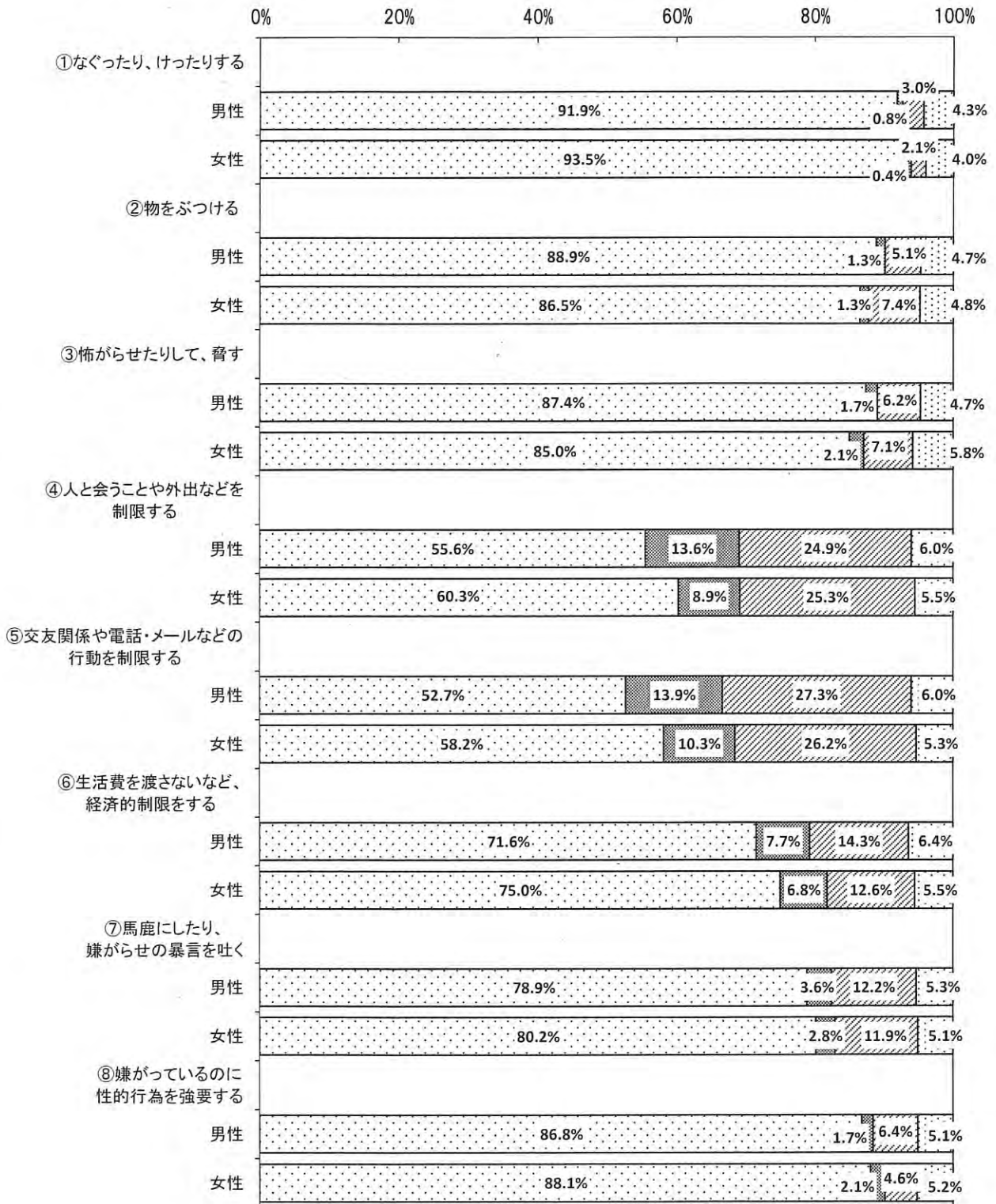
暴力にあたる
 暴力にあたらぬ
 暴力にあたる場合もそうでない場合もある
 無回答



配偶者や交際相手からの暴力行為だと思うことについて、「なぐったり、けったりする」の割合が92.6%と最も高く、次いで「物をぶつける」(87.3%)、「嫌がっているのに性的行為を強要する」(87.2%)の順となっている。「暴力にあたらぬ」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」はともに、「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」の割合が高くなっている。

○性別

暴力にあたる
 暴力にあたらない
 暴力にあたる場合もそうでない場合もある
 無回答



性別にみると、男女ともに「暴力にあたる」と思う割合は「なぐったり、けったりする」が最も高く、「暴力にあたらない」、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」と思う割合は「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」が最も高くなっている。

○性別・年齢別表

			暴力にあたる	暴力にあたらない	暴力にあたる場合 もそうでない場合も ある	無回答
① なぐったり、 けったりする	男性・ 年齢別	20～29歳	95.2	0.0	2.4	2.4
		30～39歳	98.6	0.0	0.0	1.4
		40～49歳	95.7	1.4	1.4	1.4
		50～59歳	95.2	1.2	2.4	1.2
		60～69歳	93.0	0.8	3.1	3.1
		70歳以上	82.1	0.7	6.0	11.2
	女性・ 年齢別	20～29歳	90.0	1.7	6.7	1.7
		30～39歳	96.4	0.0	1.8	1.8
		40～49歳	98.2	0.0	0.9	0.9
		50～59歳	97.6	0.0	0.8	1.6
		60～69歳	92.6	0.7	2.2	4.4
		70歳以上	84.8	0.8	2.4	12.0
② 物をぶつける	男性・ 年齢別	20～29歳	92.9	0.0	4.8	2.4
		30～39歳	95.9	1.4	1.4	1.4
		40～49歳	94.3	1.4	2.9	1.4
		50～59歳	94.0	0.0	4.8	1.2
		60～69歳	90.6	0.8	5.5	3.1
		70歳以上	76.1	3.0	8.2	12.7
	女性・ 年齢別	20～29歳	88.3	3.3	6.7	1.7
		30～39歳	90.0	0.9	7.3	1.8
		40～49歳	94.6	0.0	4.5	0.9
		50～59歳	89.0	1.6	7.1	2.4
		60～69歳	87.5	2.2	5.9	4.4
		70歳以上	71.2	0.8	12.8	15.2
③ 怖がらせたりして、 脅す	男性・ 年齢別	20～29歳	92.9	0.0	4.8	2.4
		30～39歳	94.6	1.4	2.7	1.4
		40～49歳	91.4	1.4	5.7	1.4
		50～59歳	92.8	1.2	4.8	1.2
		60～69歳	92.2	0.8	3.9	3.1
		70歳以上	71.6	3.7	11.9	12.7
	女性・ 年齢別	20～29歳	83.3	6.7	8.3	1.7
		30～39歳	90.9	1.8	4.5	2.7
		40～49歳	93.8	0.0	5.4	0.9
		50～59歳	89.8	1.6	5.5	3.1
		60～69歳	83.8	1.5	9.6	5.1
		70歳以上	68.8	3.2	9.6	18.4
④ 人と会うことや外出などを 制限する	男性・ 年齢別	20～29歳	57.1	16.7	23.8	2.4
		30～39歳	62.2	12.2	24.3	1.4
		40～49歳	65.7	5.7	27.1	1.4
		50～59歳	61.4	7.2	27.7	3.6
		60～69歳	68.0	10.2	16.4	5.5
		70歳以上	30.6	24.6	30.6	14.2
	女性・ 年齢別	20～29歳	61.7	11.7	25.0	1.7
		30～39歳	70.0	9.1	18.2	2.7
		40～49歳	71.4	8.9	18.8	0.9
		50～59歳	70.1	7.1	19.7	3.1
		60～69歳	51.5	8.8	34.6	5.1
		70歳以上	40.8	9.6	32.8	16.8

○性別・年齢別表

			暴力にあたる	暴力にあたらない	暴力にあたる場合 もそうでない場合も ある	無回答
⑤ 交友関係や電話・メールなど行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	57.1	16.7	23.8	2.4
		30～39歳	59.5	13.5	25.7	1.4
		40～49歳	61.4	7.1	30.0	1.4
		50～59歳	56.6	10.8	30.1	2.4
		60～69歳	63.3	10.9	21.1	4.7
		70歳以上	30.6	21.6	32.1	15.7
	女性・年齢別	20～29歳	58.3	15.0	25.0	1.7
		30～39歳	72.7	8.2	16.4	2.7
		40～49歳	65.2	12.5	21.4	0.9
		50～59歳	65.4	9.4	22.8	2.4
		60～69歳	49.3	9.6	36.0	5.1
		70歳以上	41.6	9.6	32.0	16.8
⑥ 経済的制限をする 生活費を渡さないなど、	男性・年齢別	20～29歳	66.7	14.3	16.7	2.4
		30～39歳	81.1	5.4	12.2	1.4
		40～49歳	82.9	2.9	12.9	1.4
		50～59歳	75.9	4.8	15.7	3.6
		60～69歳	78.1	7.0	10.2	4.7
		70歳以上	53.0	11.9	18.7	16.4
	女性・年齢別	20～29歳	73.3	6.7	18.3	1.7
		30～39歳	83.6	6.4	8.2	1.8
		40～49歳	83.9	7.1	8.0	0.9
		50～59歳	76.4	9.4	11.8	2.4
		60～69歳	76.5	5.1	12.5	5.9
		70歳以上	56.8	6.4	19.2	17.6
⑦ 馬鹿にしたり、嫌がらせの 暴言を吐く	男性・年齢別	20～29歳	85.7	0.0	11.9	2.4
		30～39歳	89.2	2.7	6.8	1.4
		40～49歳	87.1	1.4	10.0	1.4
		50～59歳	84.3	6.0	8.4	1.2
		60～69歳	80.5	2.3	13.3	3.9
		70歳以上	61.9	6.0	17.9	14.2
	女性・年齢別	20～29歳	80.0	5.0	13.3	1.7
		30～39歳	86.4	1.8	10.0	1.8
		40～49歳	88.4	0.9	9.8	0.9
		50～59歳	87.4	2.4	7.9	2.4
		60～69歳	75.0	5.1	14.7	5.1
		70歳以上	65.6	2.4	16.0	16.0
⑧ 嫌がっているのに性的行為 を強要する	男性・年齢別	20～29歳	92.9	0.0	4.8	2.4
		30～39歳	93.2	2.7	2.7	1.4
		40～49歳	91.4	1.4	5.7	1.4
		50～59歳	95.2	1.2	1.2	2.4
		60～69歳	90.6	1.6	4.7	3.1
		70歳以上	70.1	2.2	14.2	13.4
	女性・年齢別	20～29歳	91.7	3.3	3.3	1.7
		30～39歳	94.5	0.0	3.6	1.8
		40～49歳	95.5	0.0	3.6	0.9
		50～59歳	91.3	2.4	3.9	2.4
		60～69歳	84.6	4.4	5.9	5.1
		70歳以上	74.4	2.4	6.4	16.8

性別、年齢別にみると「なぐったり、けったりする」が「暴力にあたる」と思う割合は、70歳以上の男女を除き、すべての世代で90%を超えている。「人と会うことや外出などを制限する」が「暴力にあたらない」と思う割合は20歳代の男女で10%を超えている。

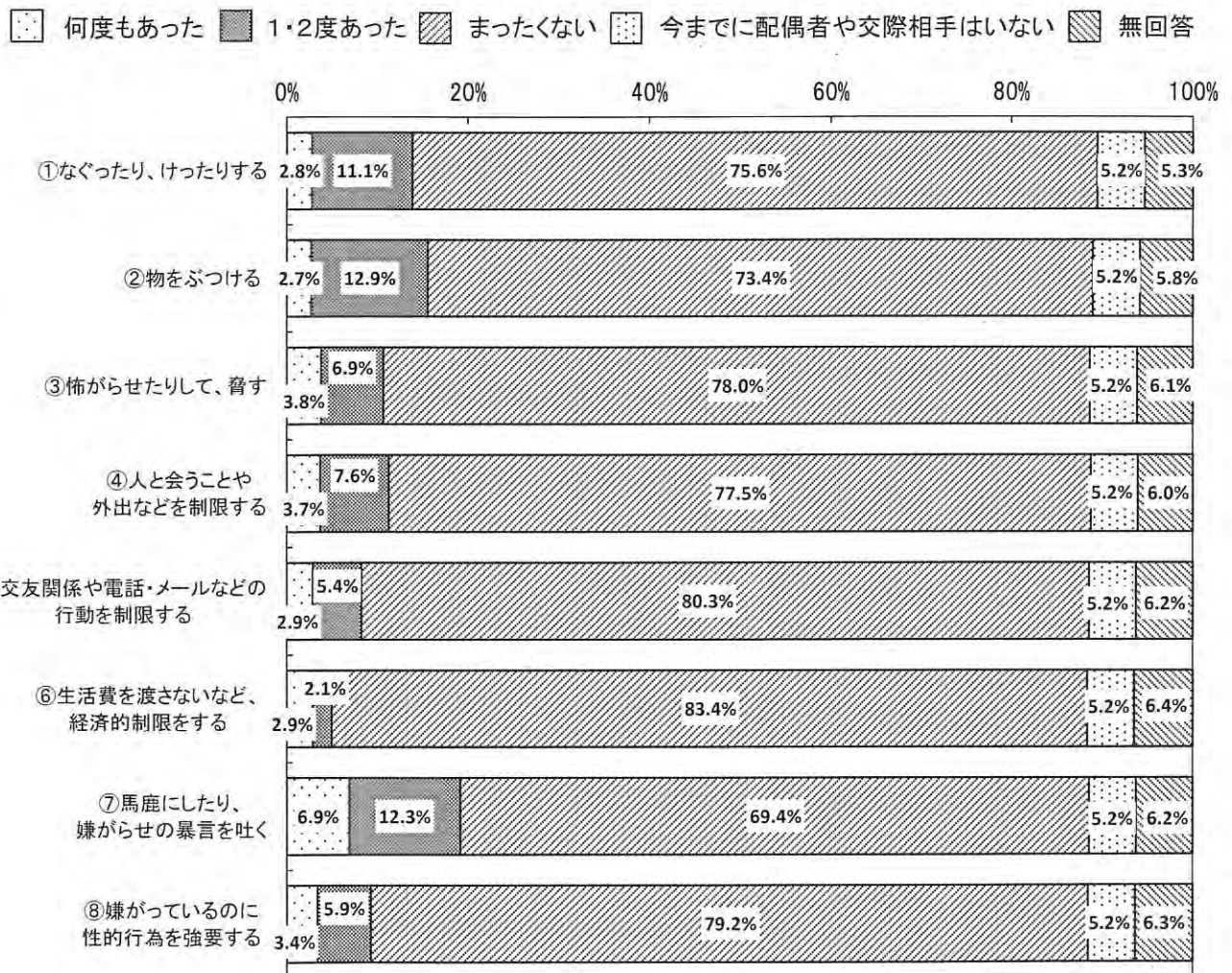
「生活費を渡さないなど、経済的制限をする」が「暴力にあたる」と思う割合は60歳代を除き、男性より女性の割合が高くなっている。

問 25 配偶者等から受けた暴力行為

これまでに配偶者や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

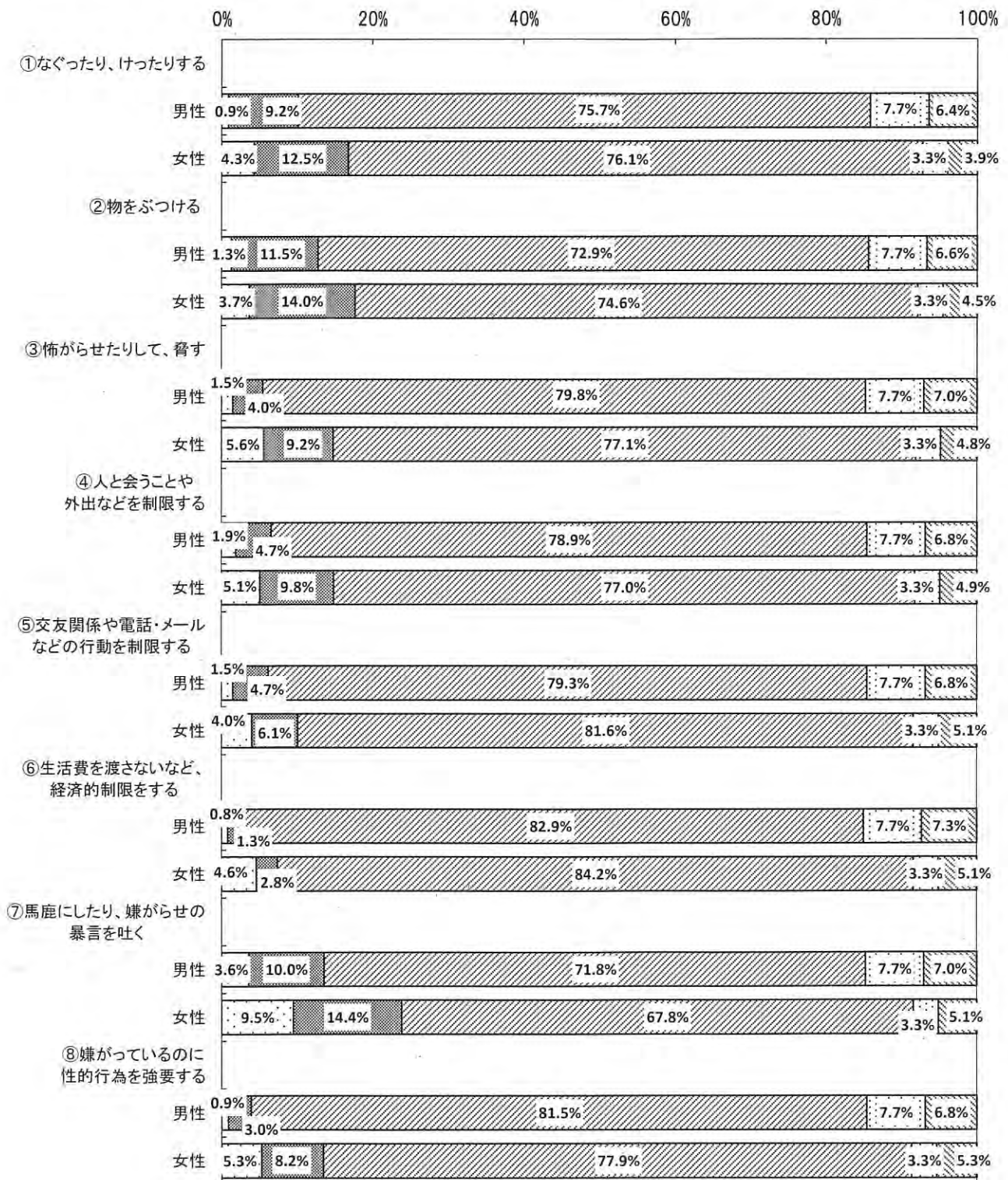
- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する



配偶者や交際相手から受けた暴力について、「暴力行為があった」割合(「何どもあった」と「1・2度あった」の計)は「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が19.2%と最も高く、次いで「物をぶつける」(15.6%)、「なぐったり、けったりする」(13.9%)の順となっている。

○性別

□ 何度もあった □ 1・2度あった □ まったくない □ 今までに配偶者や交際相手はいない □ 無回答



性別にみると、男女ともに「暴力行為があった」割合（「何度もあった」と「1・2度あった」の計）は、「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が最も高くなっている。いずれの項目も「暴力行為があった」割合は、男性より女性が高くなっている。

○性別・年齢別表

			何度もあった	1・2度あった	まったくない	今までに配偶者や交際相手はいない	無回答
① なぐったり、けったりする	男性・年齢別	20～29歳	4.8	2.4	52.4	38.1	2.4
		30～39歳	0.0	5.4	81.1	9.5	4.1
		40～49歳	0.0	5.7	82.9	10.0	1.4
		50～59歳	1.2	19.3	72.3	4.8	2.4
		60～69歳	0.0	8.6	84.4	3.1	3.9
		70歳以上	1.5	9.7	70.1	2.2	16.4
	女性・年齢別	20～29歳	3.3	11.7	71.7	13.3	0.0
		30～39歳	1.8	9.1	81.8	5.5	1.8
		40～49歳	1.8	12.5	82.1	3.6	0.0
		50～59歳	4.7	15.0	77.2	1.6	1.6
		60～69歳	6.6	14.7	72.8	1.5	4.4
		70歳以上	6.4	11.2	69.6	0.0	12.8
② 物をぶつける	男性・年齢別	20～29歳	0.0	2.4	57.1	38.1	2.4
		30～39歳	2.7	6.8	78.4	9.5	2.7
		40～49歳	2.9	11.4	74.3	10.0	1.4
		50～59歳	1.2	16.9	74.7	4.8	2.4
		60～69歳	0.8	13.3	78.9	3.1	3.9
		70歳以上	0.7	11.9	67.2	2.2	17.9
	女性・年齢別	20～29歳	5.0	8.3	73.3	13.3	0.0
		30～39歳	2.7	8.2	81.8	5.5	1.8
		40～49歳	0.0	8.9	87.5	3.6	0.0
		50～59歳	1.6	22.8	72.4	1.6	1.6
		60～69歳	5.9	17.6	69.1	1.5	5.9
		70歳以上	7.2	13.6	64.8	0.0	14.4
③ 怖がらせたりして、脅す	男性・年齢別	20～29歳	2.4	0.0	57.1	38.1	2.4
		30～39歳	1.4	4.1	81.1	9.5	4.1
		40～49歳	4.3	1.4	82.9	10.0	1.4
		50～59歳	1.2	7.2	84.3	4.8	2.4
		60～69歳	0.8	3.1	89.1	3.1	3.9
		70歳以上	0.7	5.2	73.1	2.2	18.7
	女性・年齢別	20～29歳	8.3	6.7	71.7	13.3	0.0
		30～39歳	5.5	9.1	78.2	5.5	1.8
		40～49歳	4.5	9.8	82.1	3.6	0.0
		50～59歳	6.3	9.4	81.1	1.6	1.6
		60～69歳	5.9	11.0	75.7	1.5	5.9
		70歳以上	4.8	8.0	71.2	0.0	16.0
④ 人と会うことや外出などを制限する	男性・年齢別	20～29歳	2.4	4.8	52.4	38.1	2.4
		30～39歳	2.7	4.1	79.7	9.5	4.1
		40～49歳	1.4	7.1	80.0	10.0	1.4
		50～59歳	1.2	7.2	83.1	4.8	3.6
		60～69歳	1.6	1.6	89.8	3.1	3.9
		70歳以上	2.2	5.2	73.1	2.2	17.2
	女性・年齢別	20～29歳	5.0	8.3	73.3	13.3	0.0
		30～39歳	5.5	10.0	77.3	5.5	1.8
		40～49歳	3.6	7.1	85.7	3.6	0.0
		50～59歳	4.7	9.4	82.7	1.6	1.6
		60～69歳	5.1	13.2	73.5	1.5	6.6
		70歳以上	6.4	9.6	68.0	0.0	16.0

○性別・年齢別表

			何度もあった	1・2度あった	まったくない	今までに配偶者や交際相手はいない	無回答
⑤ 交友関係や電話・メールなど行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	2.4	7.1	50.0	38.1	2.4
		30～39歳	2.7	5.4	78.4	9.5	4.1
		40～49歳	1.4	4.3	82.9	10.0	1.4
		50～59歳	2.4	4.8	84.3	4.8	3.6
		60～69歳	0.8	2.3	89.8	3.1	3.9
		70歳以上	0.7	6.0	73.9	2.2	17.2
	女性・年齢別	20～29歳	5.0	10.0	71.7	13.3	0.0
		30～39歳	4.5	8.2	80.0	5.5	1.8
		40～49歳	0.9	8.9	86.6	3.6	0.0
		50～59歳	3.9	3.9	89.0	1.6	1.6
		60～69歳	5.1	5.9	80.9	1.5	6.6
		70歳以上	4.8	2.4	76.0	0.0	16.8
⑥ 生活費を渡さないなど、経済的制限をする	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	59.5	38.1	2.4
		30～39歳	0.0	0.0	85.1	9.5	5.4
		40～49歳	1.4	2.9	82.9	10.0	2.9
		50～59歳	0.0	1.2	90.4	4.8	3.6
		60～69歳	0.0	0.8	92.2	3.1	3.9
		70歳以上	2.2	2.2	75.4	2.2	17.9
	女性・年齢別	20～29歳	3.3	3.3	80.0	13.3	0.0
		30～39歳	3.6	0.9	88.2	5.5	1.8
		40～49歳	5.4	1.8	89.3	3.6	0.0
		50～59歳	2.4	3.9	90.6	1.6	1.6
		60～69歳	8.8	5.1	78.7	1.5	5.9
		70歳以上	3.2	1.6	77.6	0.0	17.6
⑦ 馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く	男性・年齢別	20～29歳	2.4	2.4	54.8	38.1	2.4
		30～39歳	1.4	5.4	79.7	9.5	4.1
		40～49歳	4.3	14.3	70.0	10.0	1.4
		50～59歳	6.0	19.3	66.3	4.8	3.6
		60～69歳	2.3	6.3	83.6	3.1	4.7
		70歳以上	4.5	10.4	65.7	2.2	17.2
	女性・年齢別	20～29歳	10.0	8.3	68.3	13.3	0.0
		30～39歳	10.0	11.8	70.9	5.5	1.8
		40～49歳	7.1	13.4	75.0	3.6	0.9
		50～59歳	11.8	17.3	67.7	1.6	1.6
		60～69歳	13.2	14.0	65.4	1.5	5.9
		70歳以上	4.8	18.4	60.0	0.0	16.8
⑧ 嫌がっているのに性的行為を強要する	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	59.5	38.1	2.4
		30～39歳	0.0	0.0	86.5	9.5	4.1
		40～49歳	0.0	2.9	85.7	10.0	1.4
		50～59歳	0.0	2.4	89.2	4.8	3.6
		60～69歳	0.0	3.1	89.8	3.1	3.9
		70歳以上	3.7	6.0	70.9	2.2	17.2
	女性・年齢別	20～29歳	5.0	1.7	80.0	13.3	0.0
		30～39歳	6.4	5.5	80.9	5.5	1.8
		40～49歳	0.9	8.9	85.7	3.6	0.9
		50～59歳	4.7	10.2	81.1	1.6	2.4
		60～69歳	8.1	14.0	70.6	1.5	5.9
		70歳以上	6.4	4.8	71.2	0.0	17.6

性別、年齢別にみると、「暴力行為があった」割合は、男女とも50歳代で「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が最も高くなっている。

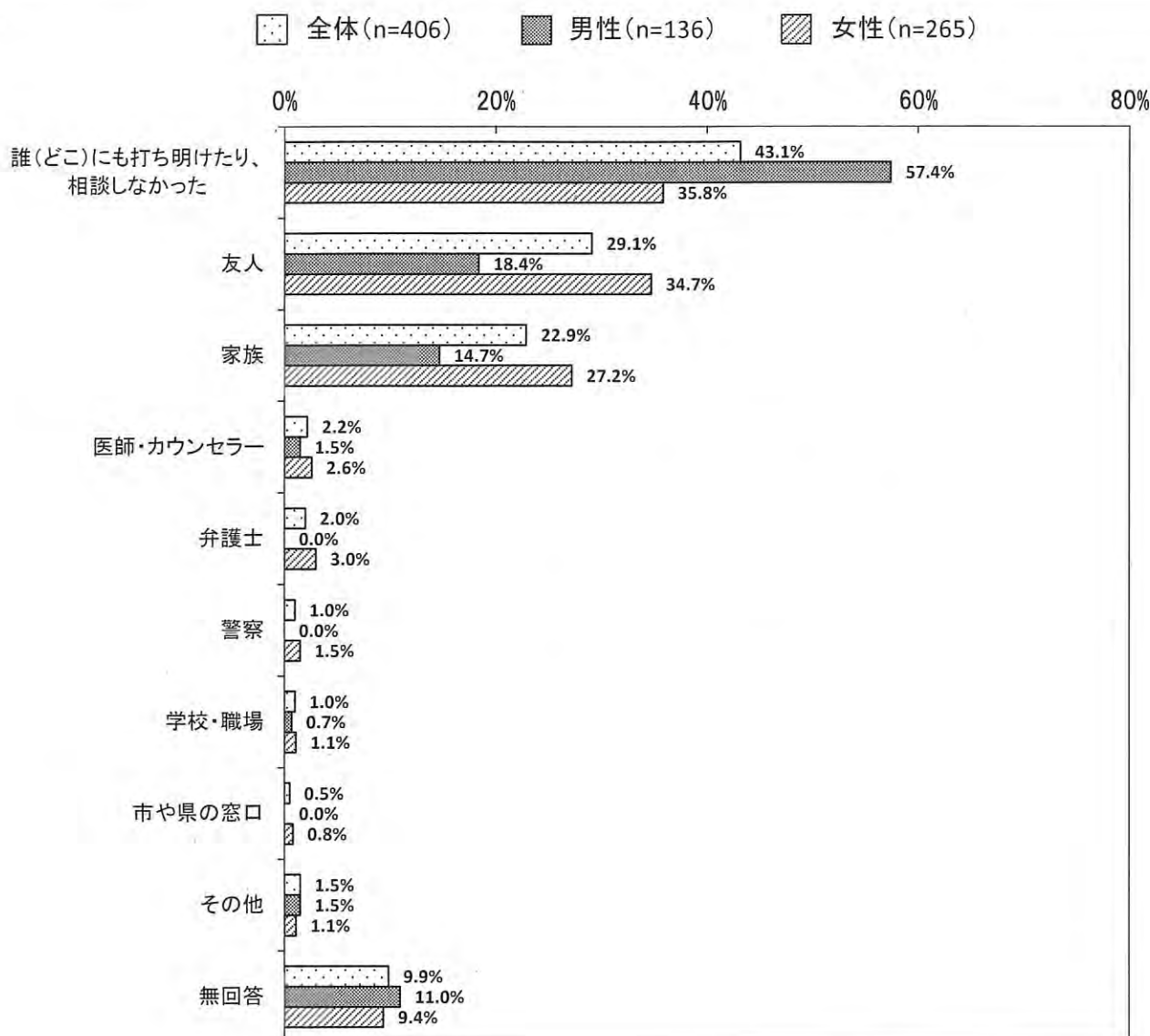
問 25-1 DVを受けたときの相談先

問 25 で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみお答えください。

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-------------------------|-------------|----------|
| 1 家族 | 2 友人 | 3 警察 |
| 4 弁護士 | 5 医師・カウンセラー | 6 市や県の窓口 |
| 7 学校・職場 | 8 その他 () | |
| 9 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった | | |



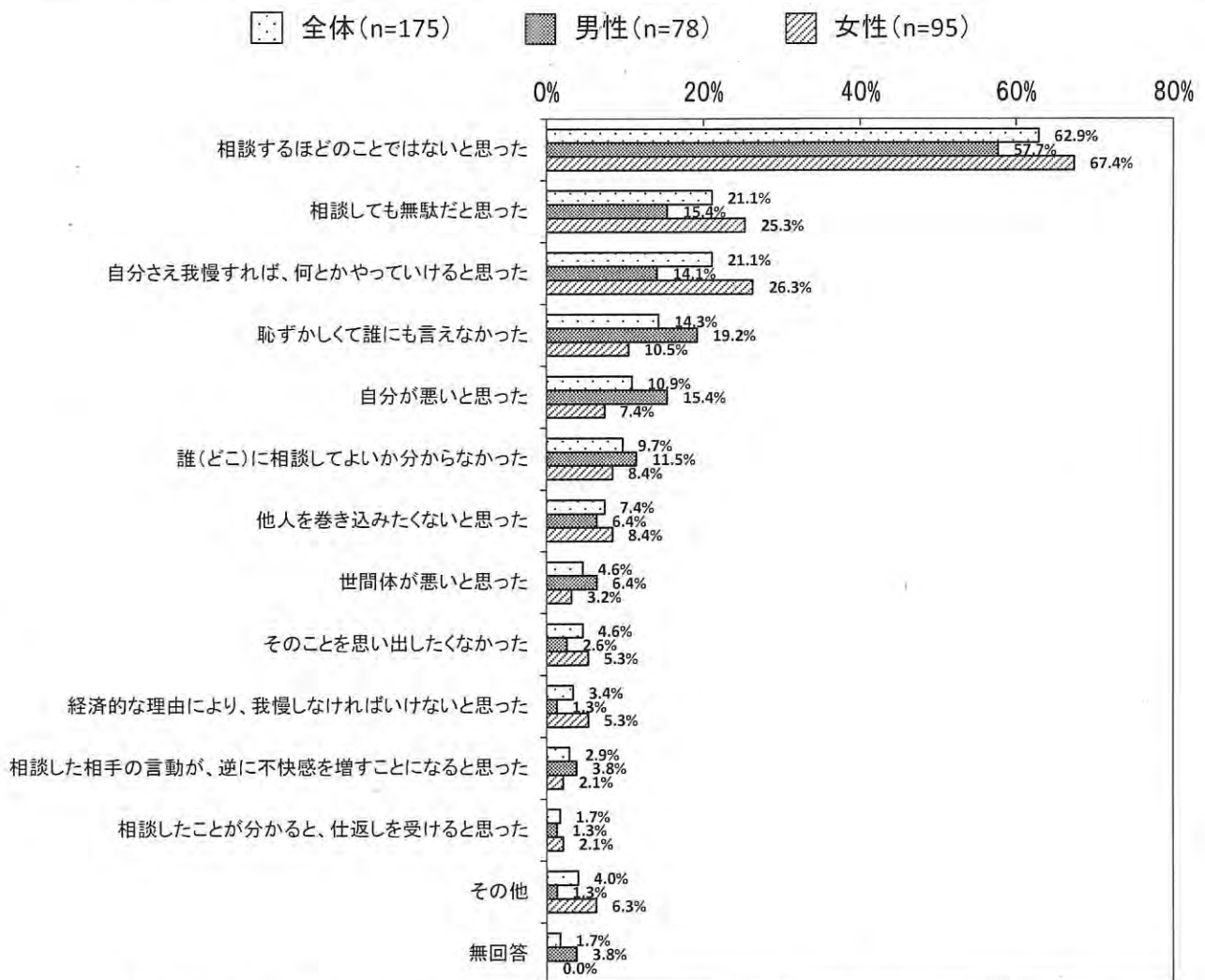
問 25 で「何度もあった」、「1・2度あった」と回答した人の相談先について、「誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「友人」(29.1%)、「家族」(22.9%)の順となっている。

性別にみると、「誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」は女性(35.8%)より男性(57.4%)の割合が 21.6 ポイント高くなっている。

問25-2 DVを受けて相談しなかった理由

問25-1で「7 誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答された方のみお答えください。あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○印）

- 1 誰（どこ）に相談してよいか分からなかった
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3 相談しても無駄だと思った
- 4 相談したことが分かって、仕返しを受けると思った
- 5 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った
- 6 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った
- 7 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
- 8 世間体が悪いと思った
- 9 他人を巻き込みたくないと思った
- 10 自分が悪いと思った
- 11 そのことを思い出したくなかった
- 12 相談するほどのことではないと思った
- 13 その他（ ）



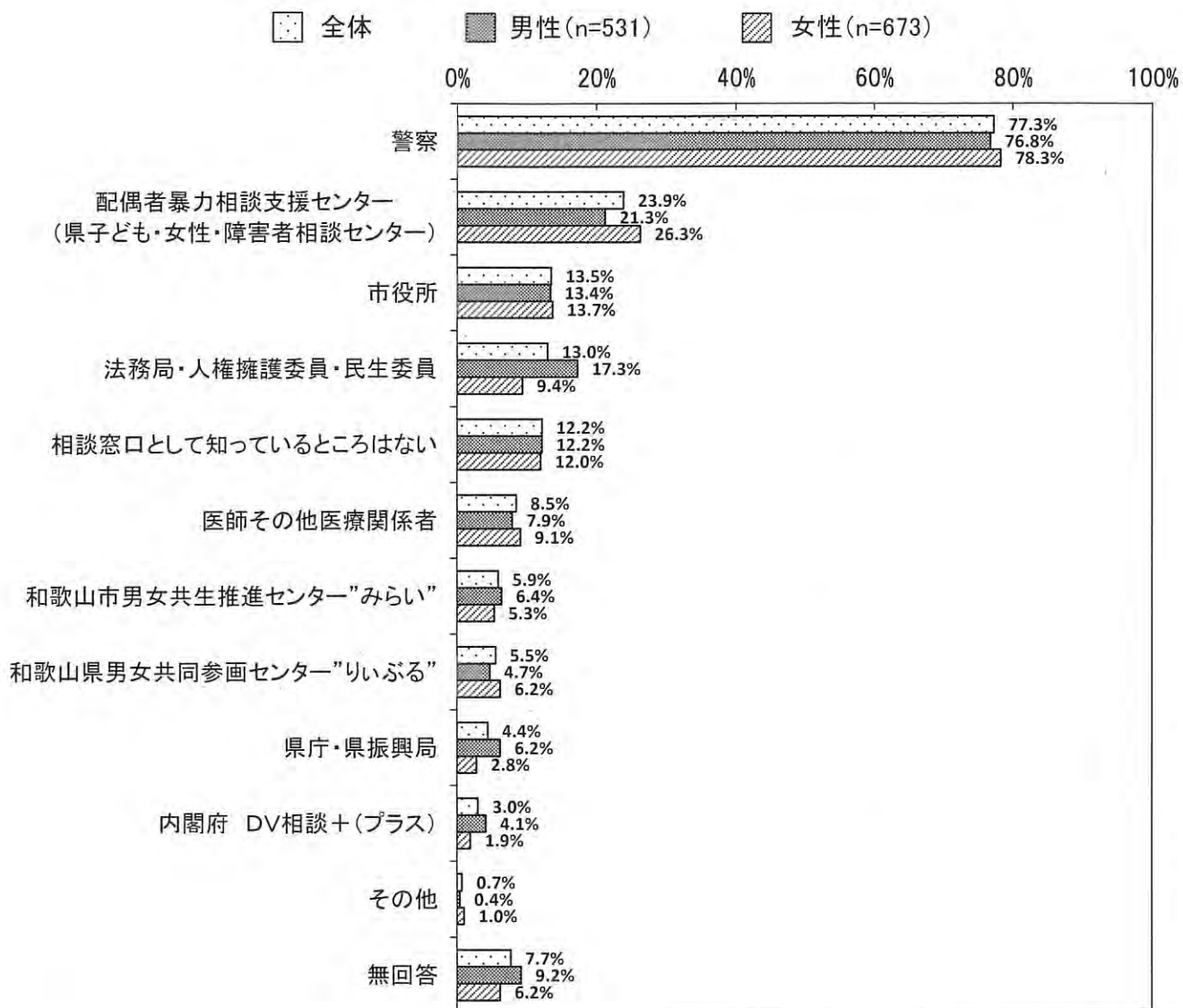
問25-1で「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答した人の理由について、「相談するほどのことではないと思った」の割合が62.9%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が21.1%で同じ割合となっている。

性別にみても、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高くなっている。女性は、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が26.3%と男性（14.1%）よりも12.2ポイント上回っている。

問 26 相談窓口の認知度

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時に相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1 警察 | 2 法務局・人権擁護委員・民生委員 |
| 3 配偶者暴力相談支援センター（県子ども・女性・障害者相談センター） | |
| 4 和歌山市男女共生推進センター“みらい” | 5 市役所 |
| 6 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる” | 7 県庁・県振興局 |
| 8 内閣府 DV相談+（プラス） | 9 医師その他医療関係者 |
| 10 相談窓口として知っているところはない | 11 その他（ ） |

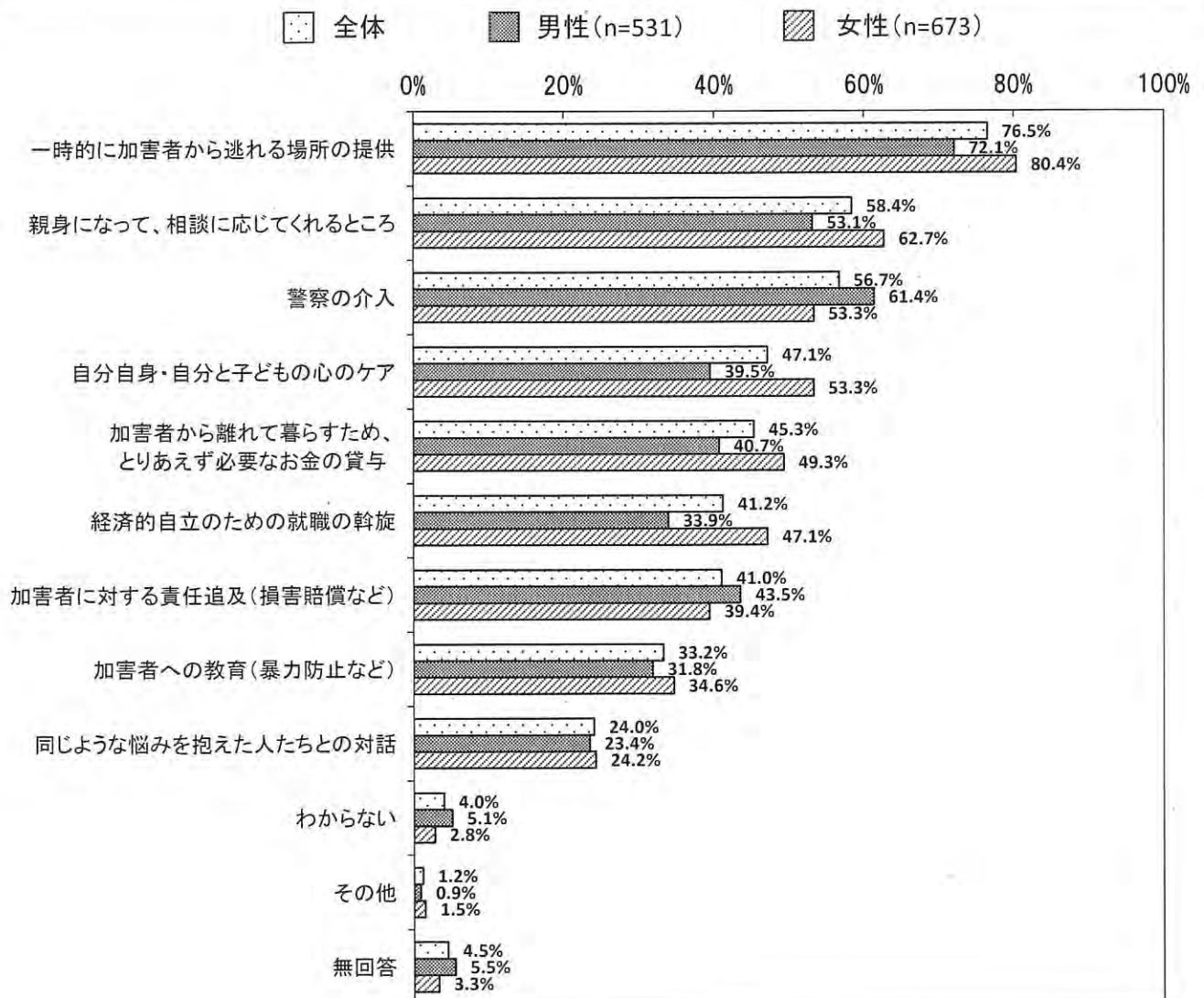


DVを受けた際の相談窓口の認知度は、「警察」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「配偶者暴力相談支援センター」(23.9%)、「市役所」(13.5%)の順となっている。「相談窓口として知っているところはない」は 12.2%となっている。

問 27 DV被害における支援

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時にどのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 一時的に加害者から逃れる場所の提供
- 2 警察の介入
- 3 親身になって、相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与
- 6 自分自身・自分と子どもの心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちとの対話
- 8 加害者に対する責任追及（損害賠償など）
- 9 加害者への教育（暴力防止など）
- 10 わからない
- 11 その他（ ）



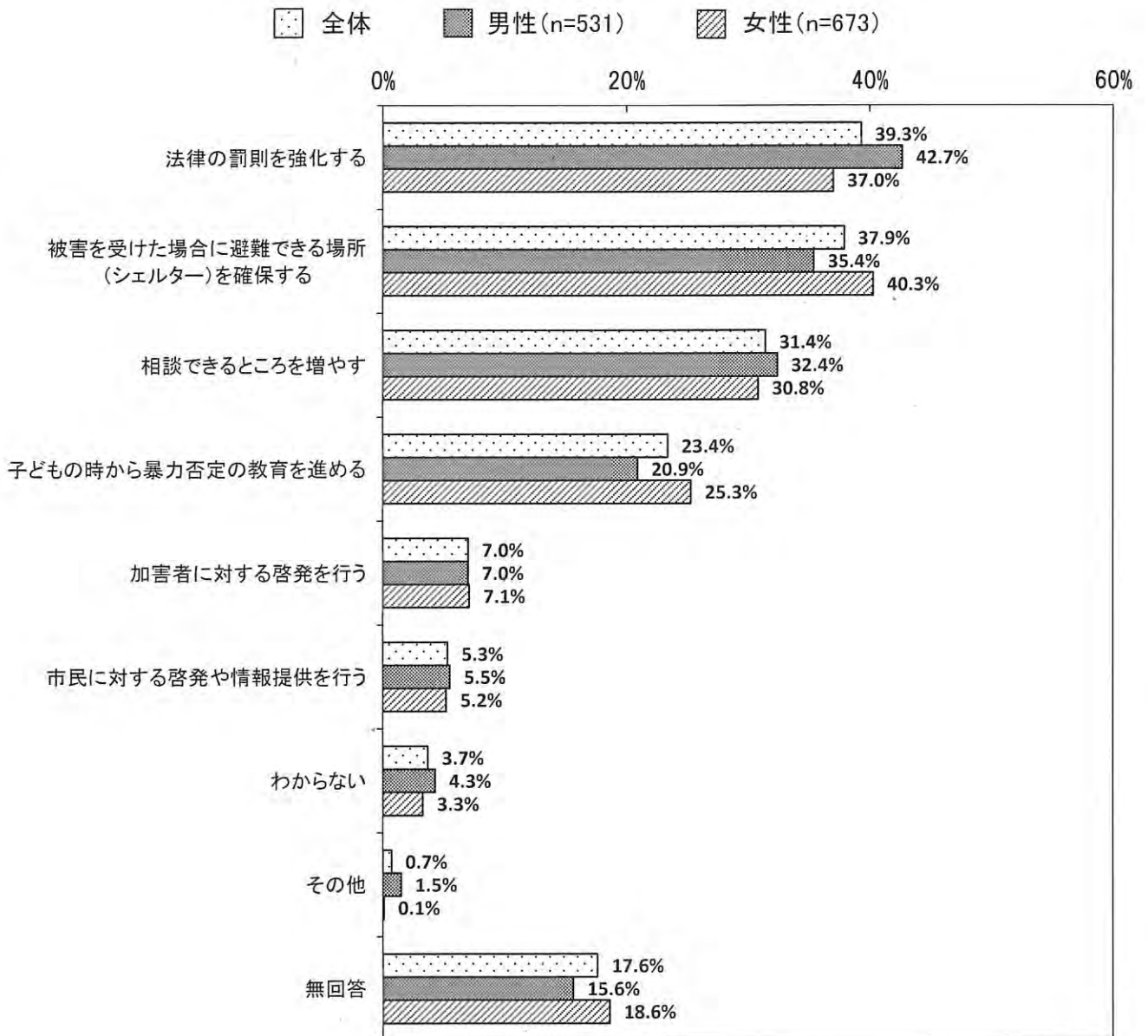
DVを受けた際の支援として、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」の割合が76.5%と最も高く、次いで、「親身になって、相談に応じてくれるところ」(58.4%)、「警察の介入」(56.7%)の順となっている。

性別にみると、「警察の介入」と「加害者に対する責任追及」の割合は女性より男性が高くなっている。

問 28 DV防止のための取組

配偶者や交際相手との間の暴力を防ぐために、もっと取組を進める必要があると思うことは何ですか。(2つまでに○印)

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 1 法律の罰則を強化する | 2 相談できるところを増やす |
| 3 市民に対する啓発や情報提供を行う | 4 加害者に対する啓発を行う |
| 5 被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する | |
| 6 子どもの時から暴力否定の教育を進める | 7 わからない |
| 8 その他() | |



DV防止のために必要な取組として、「法律の罰則を強化する」の割合が39.3%と最も高く、次いで「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」(37.9%)、「相談できるところを増やす」(31.4%)の順となっている。

性別にみると、男性は「法律や罰則を強化する」の割合が42.7%と最も高く、女性は「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」が40.3%と最も高くなっている。

4 用語の認知度と今後について

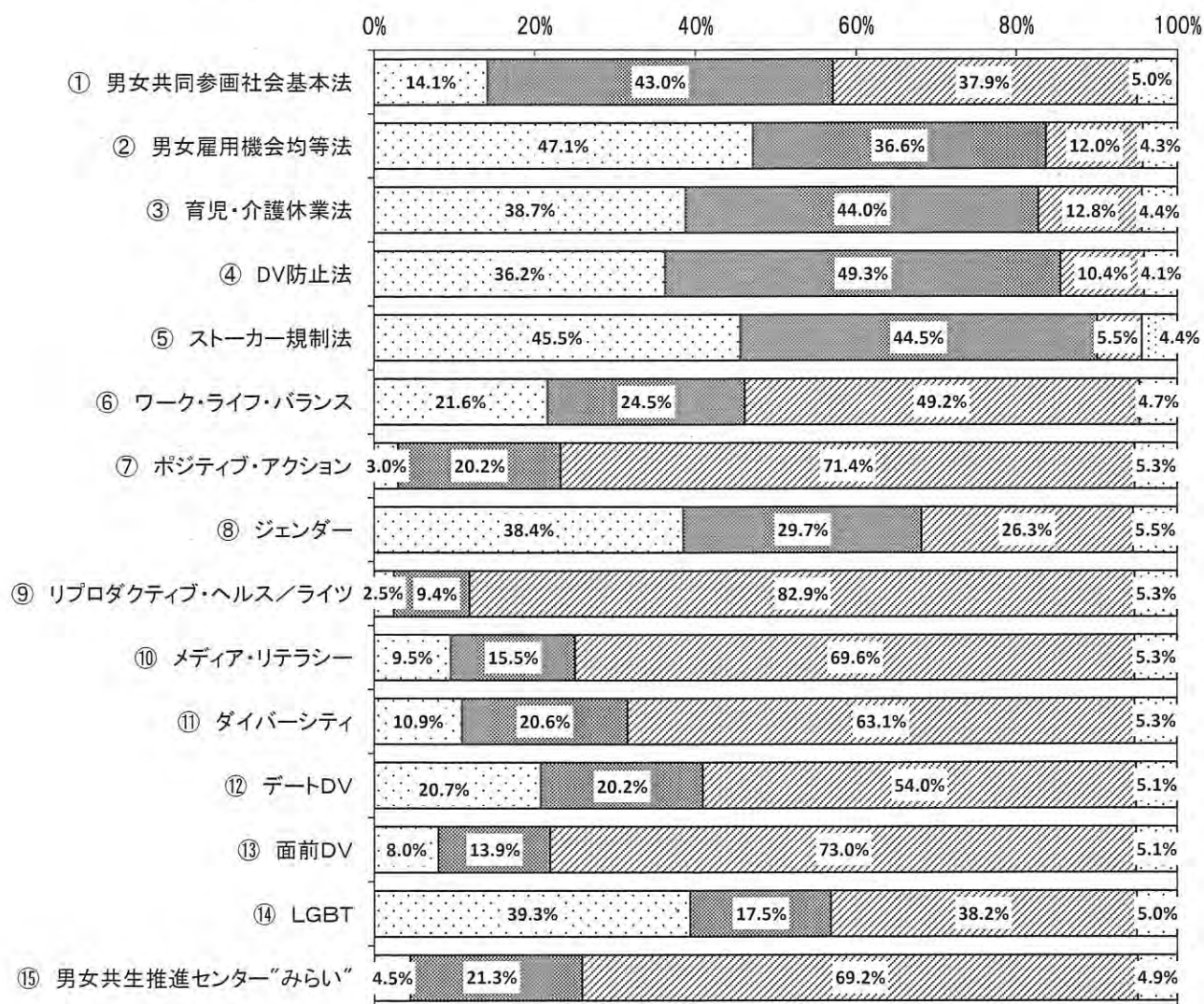
問 29 男女共同参画に関する用語の認知度

あなたは、次の用語を知っていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- | | | |
|-------------------|------------------|---------------|
| ①男女共同参画社会基本法 | ②男女雇用機会均等法 | ③育児・介護休業法 |
| ④DV防止法 | ⑤ストーカー規制法 | ⑥ワーク・ライフ・バランス |
| ⑦ポジティブ・アクション | ⑧ジェンダー | |
| ⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ | ⑩メディア・リテラシー | |
| ⑪ダイバーシティ | ⑫デートDV | ⑬面前DV |
| ⑭LGBT | ⑮男女共生推進センター”みらい” | |

- | | |
|---|--|
|  言葉も内容も知っている |  言葉は知っているが内容は知らない |
|  言葉も内容も知らない |  無回答 |



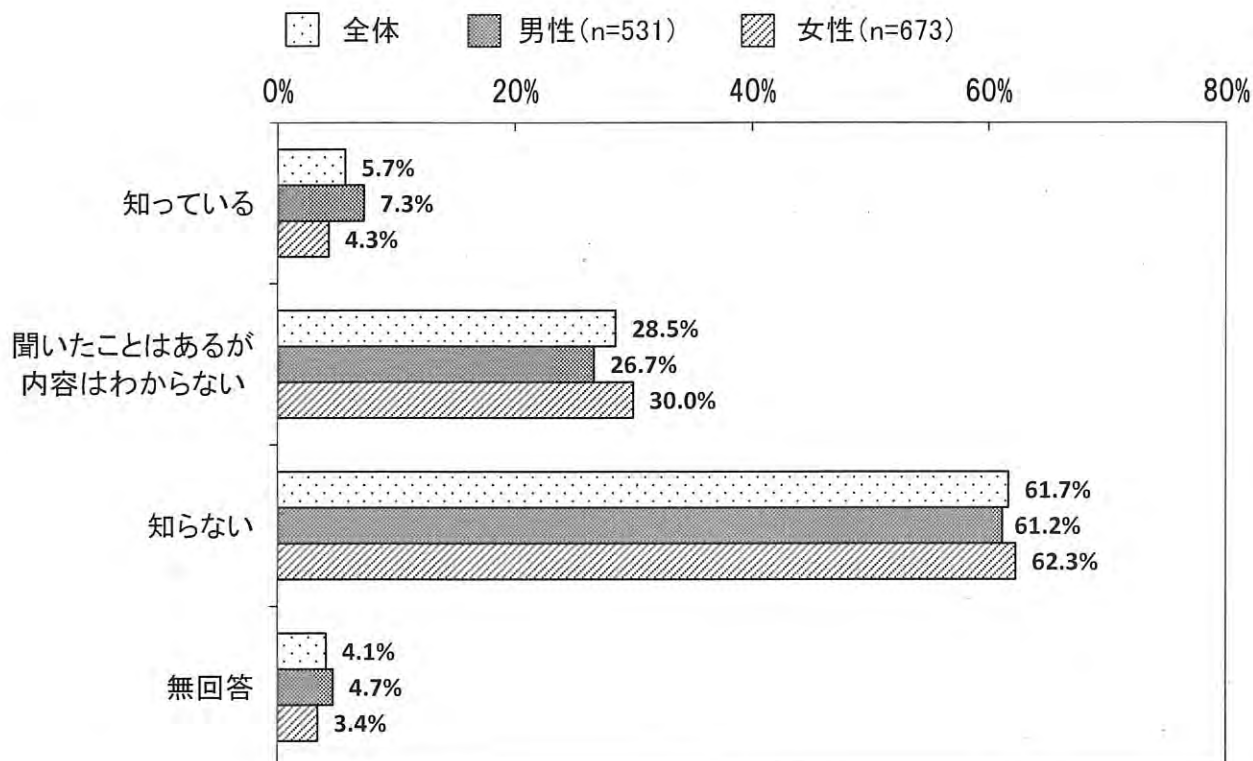
男女共同参画に関する用語の認知度（「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」の計）は、「ストーカー規制法」の割合が90.0%と最も高く、次いで「DV防止法」（85.5%）、「男女雇用機会均等法」（83.7%）の順となっている。

問 30 条例の認知度

和歌山市男女共同参画推進条例について、知っていますか。

(1つだけに○印)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 3 知らない

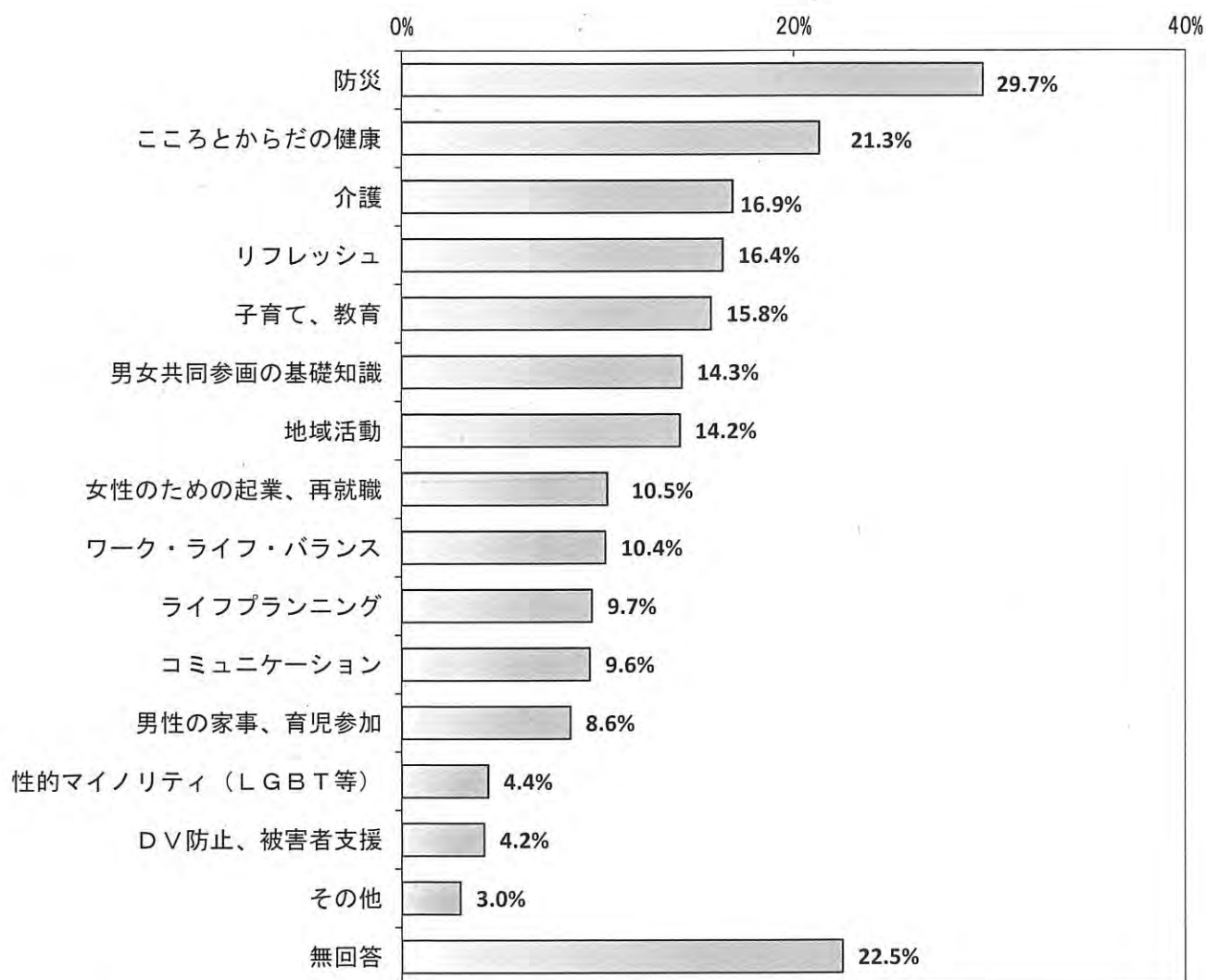


和歌山市男女共同参画推進条例の認知度について、「知らない」の割合が61.7%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容はわからない」(28.5%)、「知っている」(5.7%)の順となっている。

問 31 男女共同参画に関する講座への興味

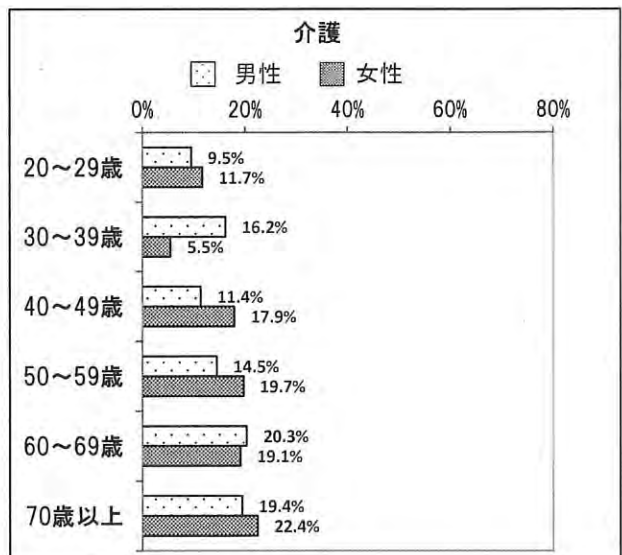
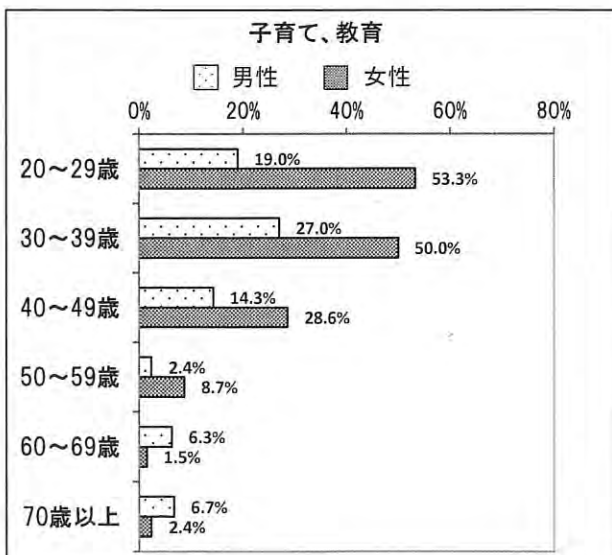
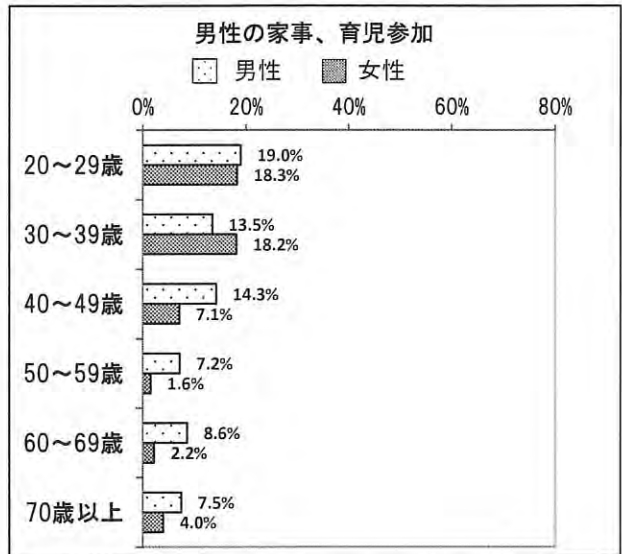
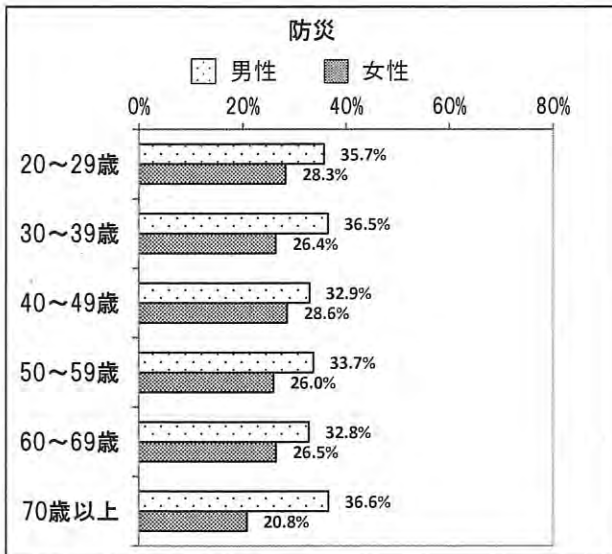
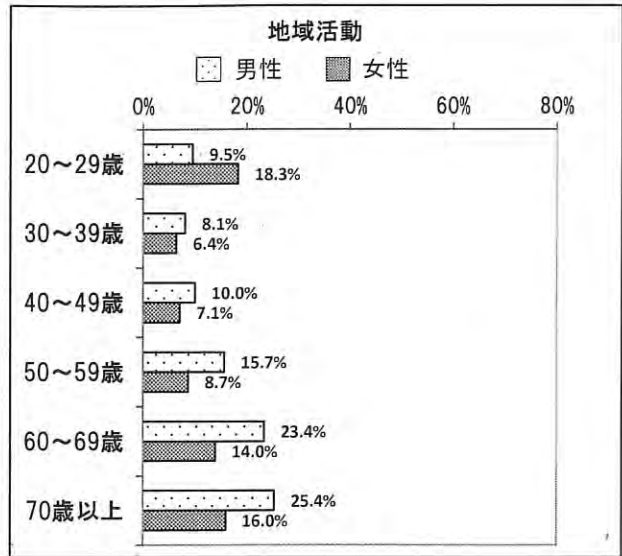
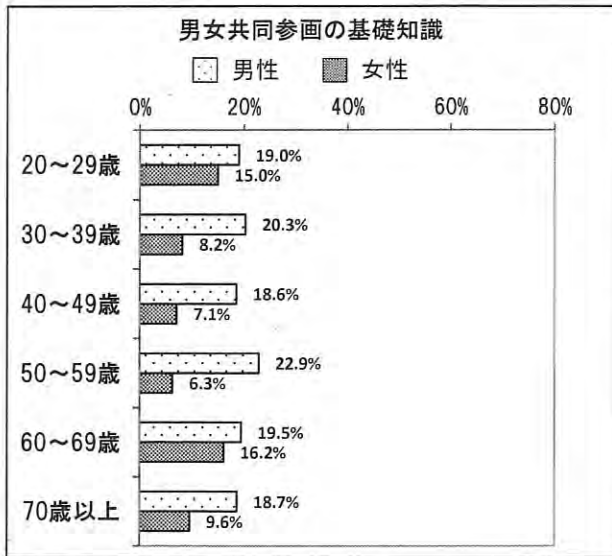
本市では、男女共同参画に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 男女共同参画の基礎知識 | 2 地域活動 |
| 3 防災 | 4 男性の家事、育児参加 |
| 5 子育て、教育 | 6 介護 |
| 7 女性のための起業、再就職 | 8 心とからだの健康 |
| 9 リフレッシュ | 10 DV 防止、被害者支援 |
| 11 コミュニケーション | 12 ライフプランニング |
| 13 性的マイノリティ (LGBT等) | 14 ワーク・ライフ・バランス |
| 15 その他 () | |

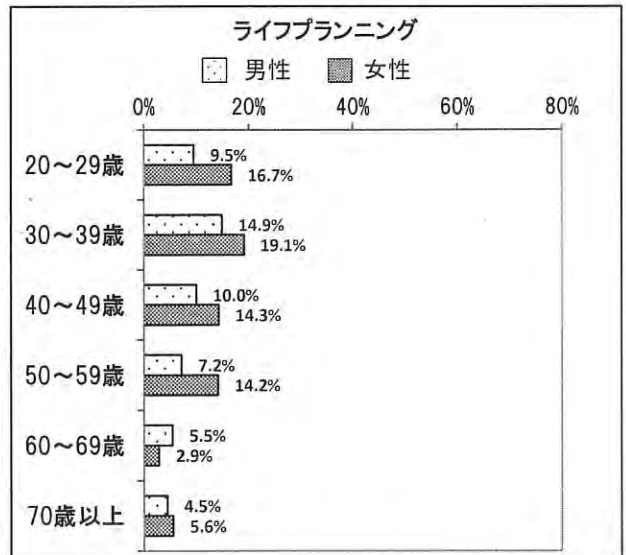
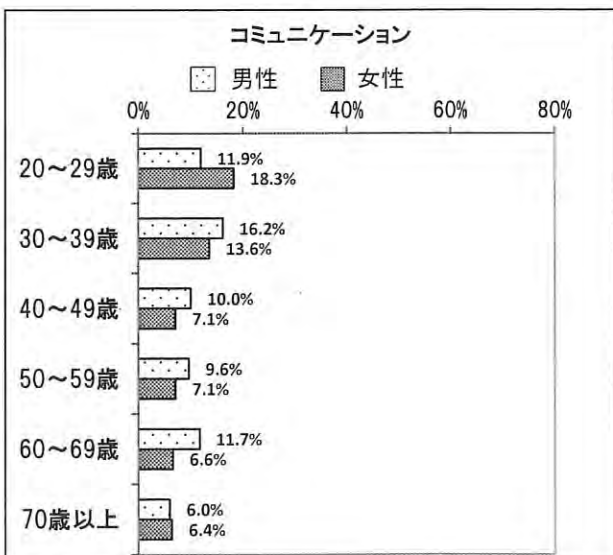
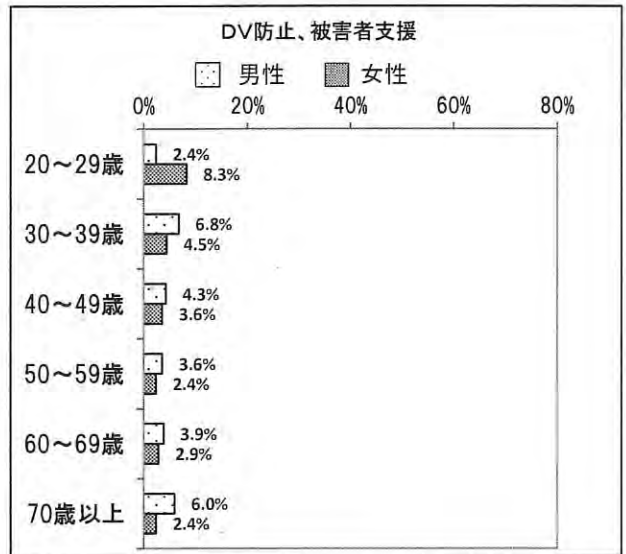
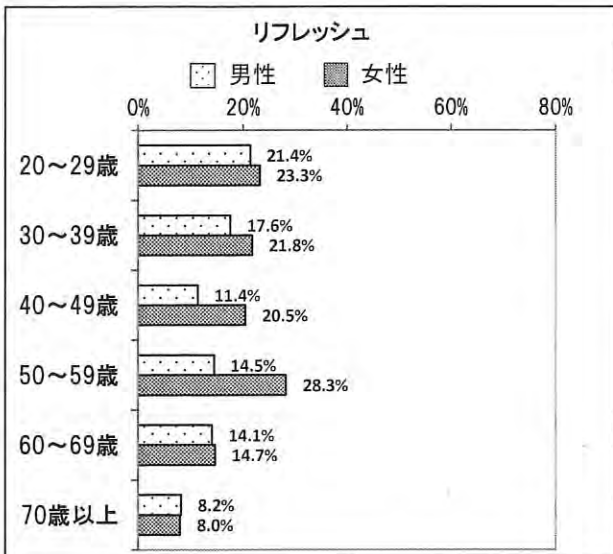
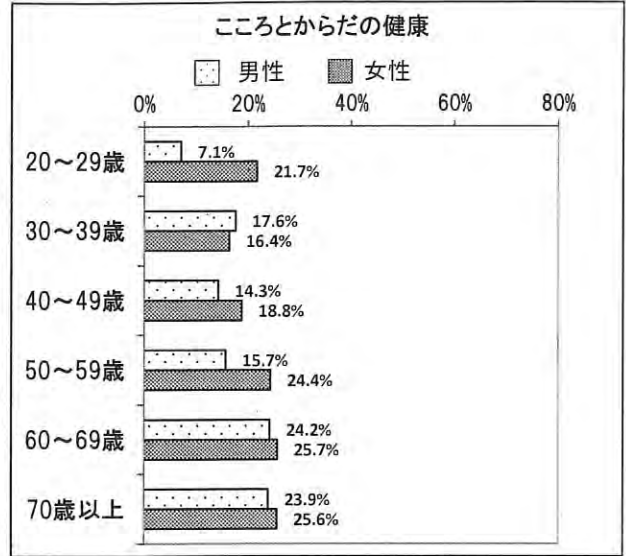
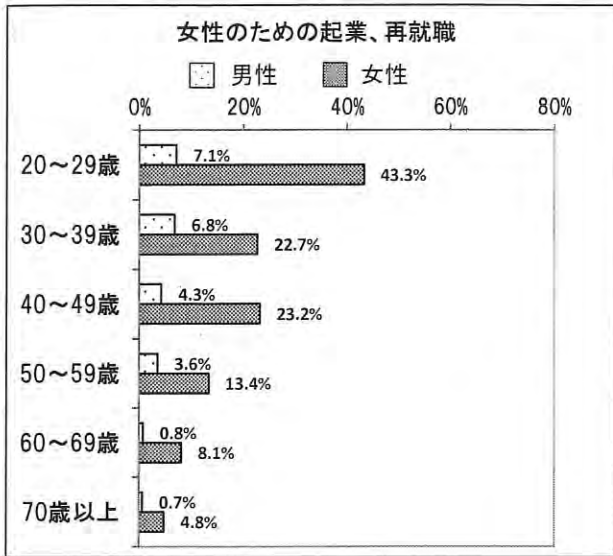


男女共同参画に関する講座のうち興味があるテーマについて、「防災」の割合が29.7%と最も高く、次いで「心とからだの健康」(21.3%)、「介護」(16.9%)の順となっている。

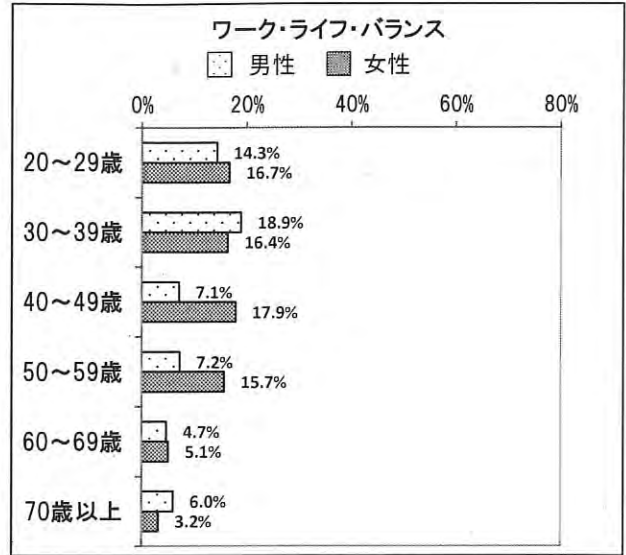
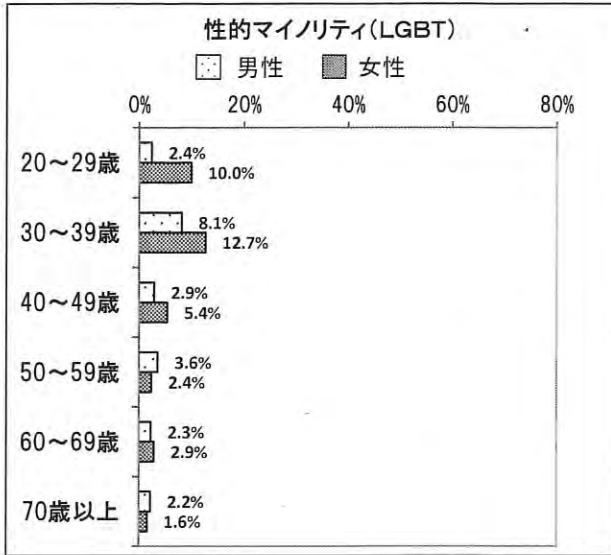
○性別・年齢別



○性別・年齢別



○性別・年齢別

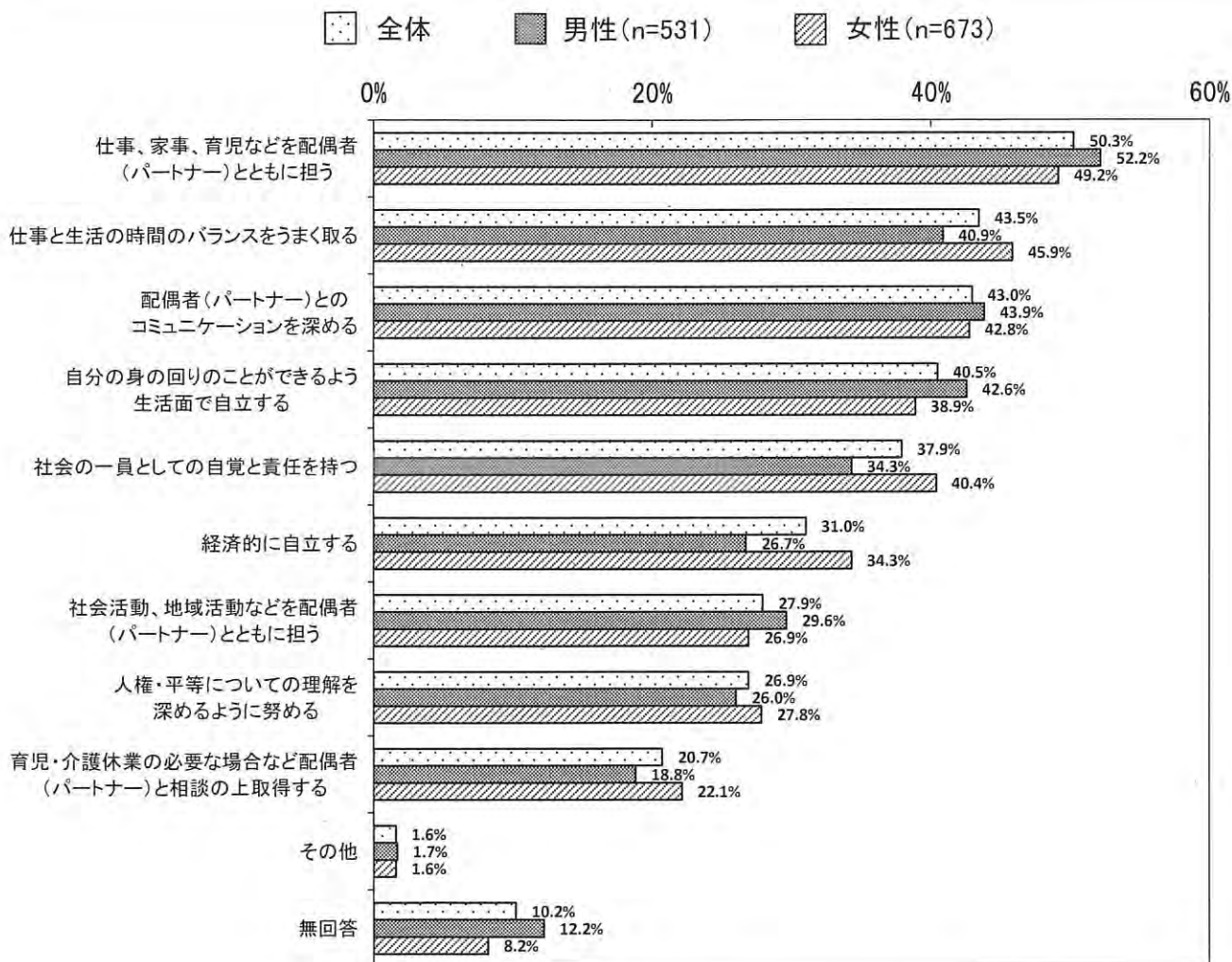


性別、年齢別にみると、男性では、すべての年代で「防災」の割合が最も高くなっている。
 女性では、20歳代から40歳代が「子育て、教育」、50歳代が「リフレッシュ」、60歳代が「防災」、70歳以上が「こころとからだの健康」の割合が最も高くなっている。

問 32 男女共同参画を推進するための個人の取組

男女共同参画を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

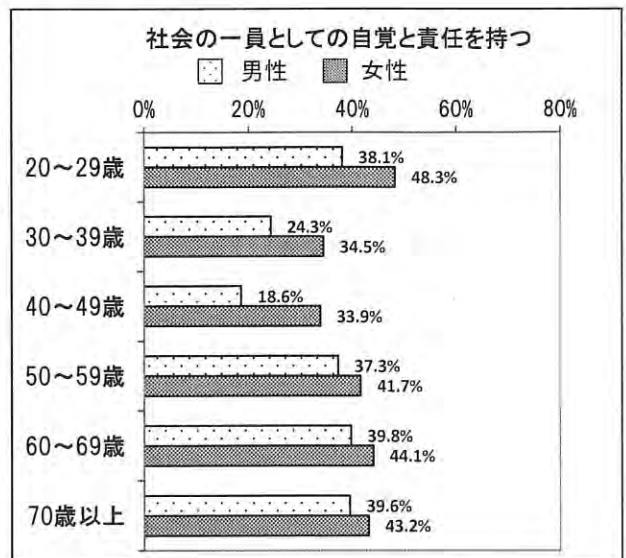
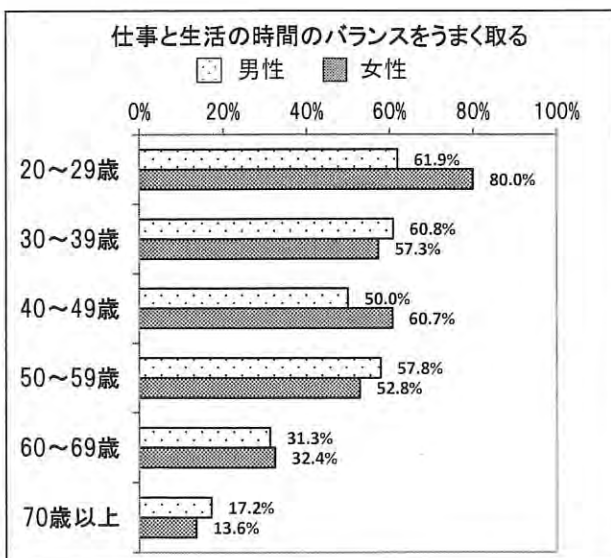
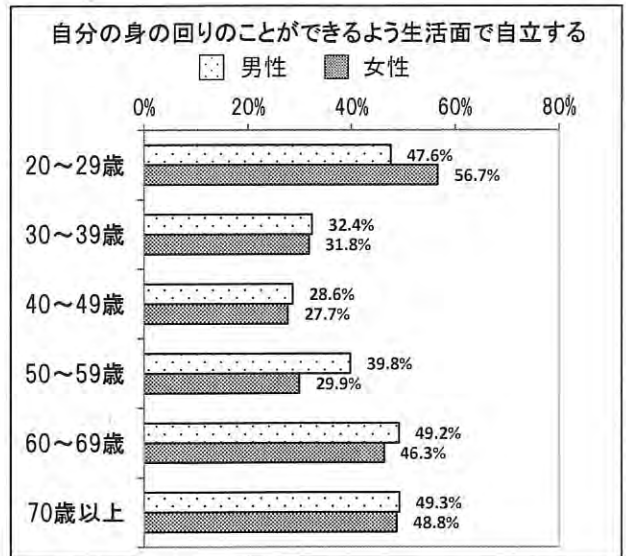
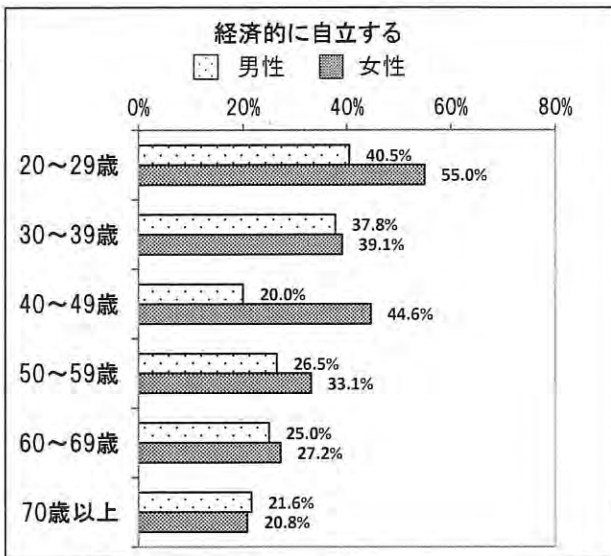
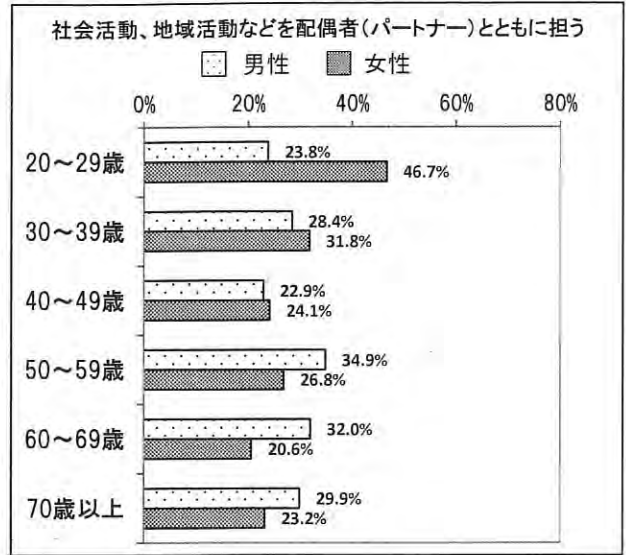
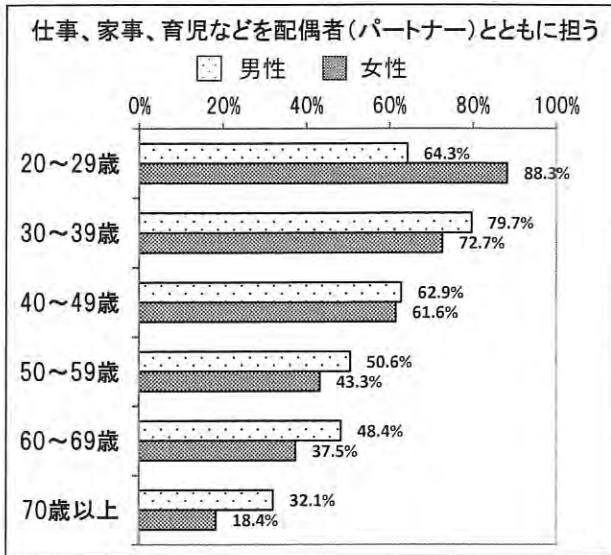
- 1 仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う
- 2 社会活動、地域活動などを配偶者（パートナー）とともに担う
- 3 経済的に自立する
- 4 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
- 5 仕事と生活の時間のバランスをうまく取る
- 6 社会の一員としての自覚と責任を持つ
- 7 育児・介護休業の必要な場合など配偶者（パートナー）と相談の上取得する
- 8 人権・平等についての理解を深めるように努める
- 9 配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める
- 10 その他（)



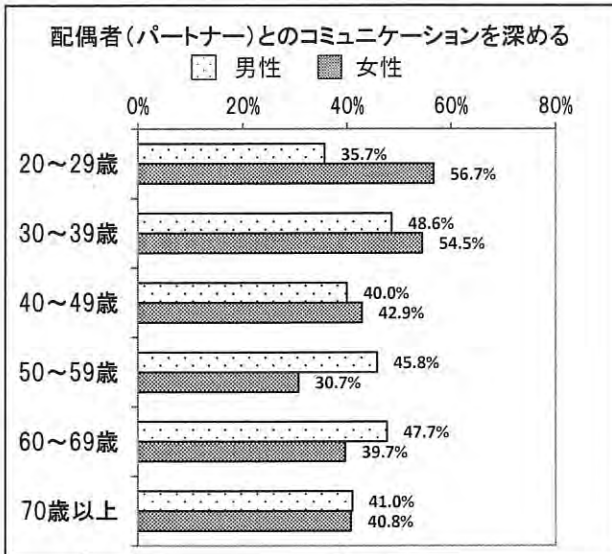
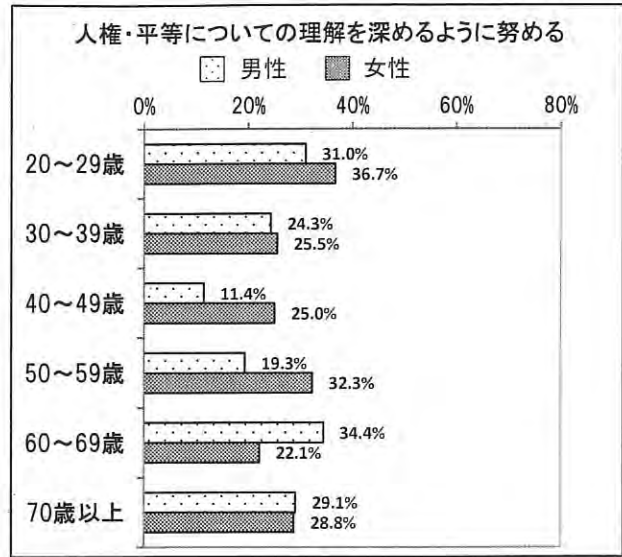
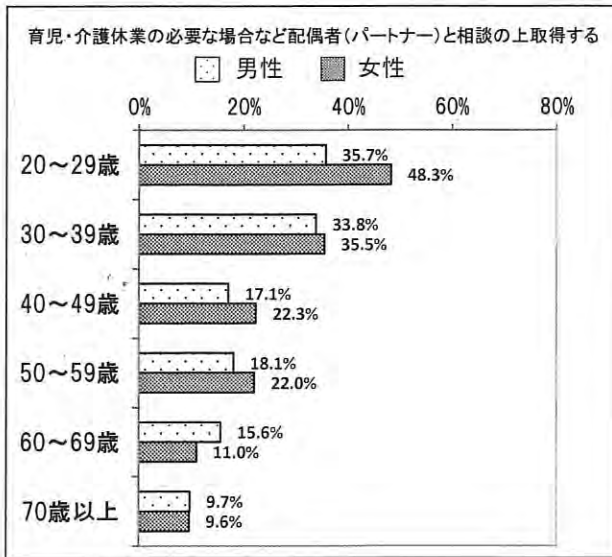
男女共同参画を推進するための個人の取組として、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」の割合が50.3%と最も高く、次いで「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」（43.5%）、「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」（43.0%）の順となっている。

性別にみると、「経済的に自立する」の割合は男性（26.7%）より女性（34.3%）が7.6ポイント上回っている。

○性別・年齢別



○性別・年齢別



性別、年齢別でみると、男女ともに20歳代から40歳代は「仕事、家事、育児など配偶者とともにもつ」が、50歳代は「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」が、60歳代、70歳以上は「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」の割合が最も高くなっている。

「仕事、家事、育児などを配偶者(パートナー)とともに担う」の回答では、30歳代以上で女性より男性の割合が高く、「社会の一員としての自覚と責任を持つ」の回答では、すべての年代で男性より女性の割合が高くなっている。

問 33 男女共同参画を推進するための重点的な取組

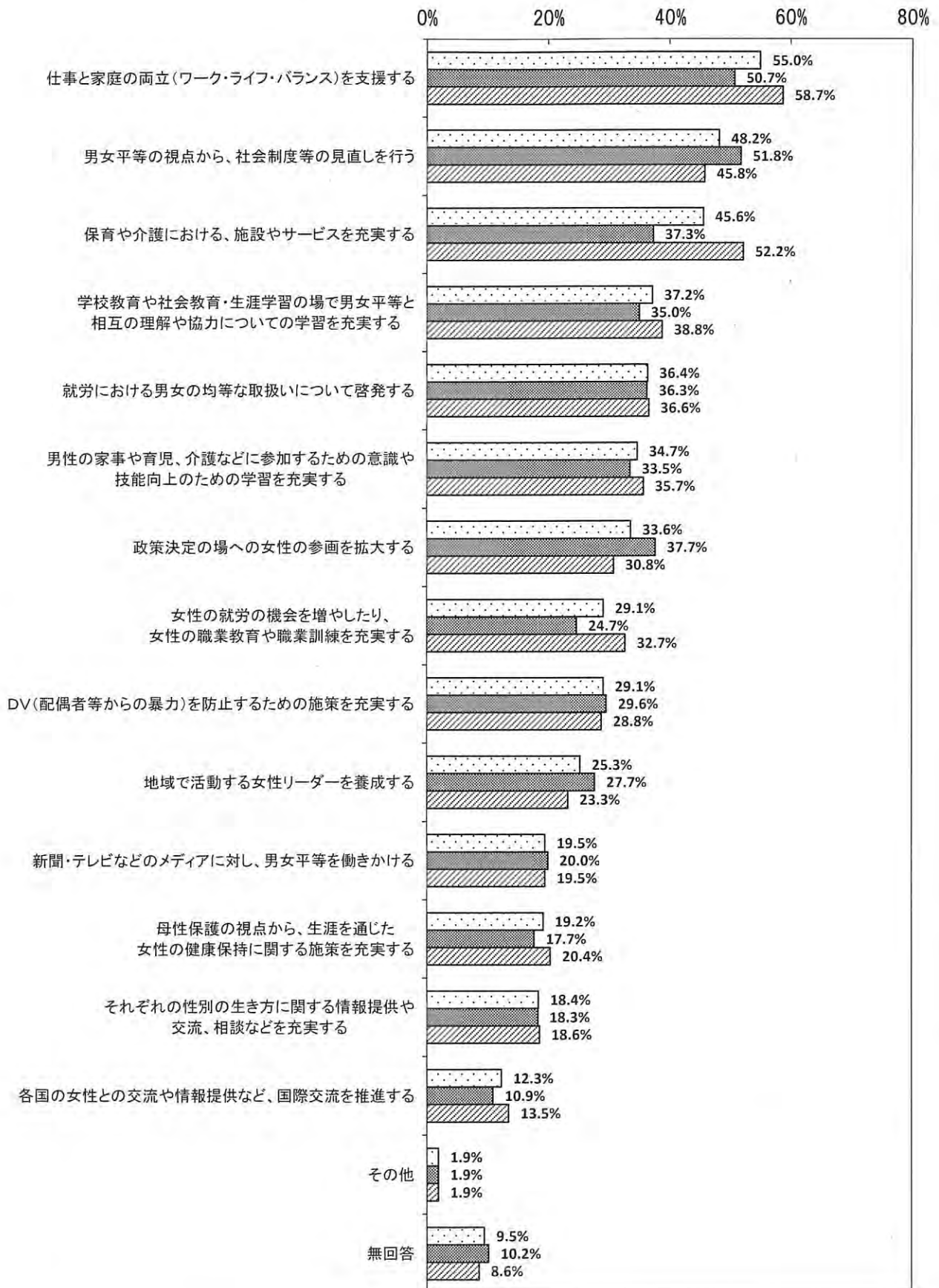
男女共同参画を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 男女平等の視点から、社会制度等の見直しを行う
- 2 政策決定の場への女性の参画を拡大する
- 3 地域で活動する女性リーダーを養成する
- 4 就労における男女の均等な取扱いについて啓発する
- 5 仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する
- 6 母性保護の視点から、生涯を通じた女性の健康保持に関する施策を充実する
- 7 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
- 8 男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する
- 9 保育や介護における、施設やサービスを充実する
- 10 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
- 11 それぞれの性別の生き方に関する情報提供や交流、相談などを充実する
- 12 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
- 13 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女平等を働きかける
- 14 DV(配偶者等からの暴力)を防止するための施策を充実する
- 15 その他()

男女共同参画を推進するための今後の取組として、「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」の割合が55.0%と最も高く、次いで「男女平等の視点から、社会制度等の見直しを行う」(48.2%)、「保育や介護における、施設やサービスを充実する」(45.6%)の順となっている。

性別にみると、「保育や介護における、施設やサービスを充実する」の割合は、男性(37.3%)より女性(52.2%)が14.9ポイント上回っている。「政策決定への女性の参画を拡大する」は女性(30.8%)より男性(37.7%)が6.9ポイント上回っている。

□ 全体 ■ 男性 (n=531) ▨ 女性 (n=673)



5 自由意見

「男女共同参画をさらに推進していくため」の意見や要望（自由記述）

- 1 男女共同参画について
- 2 就労における女性の活躍について
- 3 教育について
- 4 行政への要望について
- 5 アンケートについて

1 男女共同参画について

○個人の能力に応じた働き方、介護、育児が大事だと思う。適していたら男女どちらがやってもいいと思う。

[40代女性 類似意見－50代女性、60代女性]

○子どもの頃から、男の子、女の子関係なく、家事や介護にふれる機会が必要だと思います。

[30代女性 類似意見－70代以上男性]

○女性だから〇〇や男性だから〇〇といった男女における当たり前の考え方をなくしていくべきだと思います。

[20代男性]

○男性も女性もあらゆることに積極的に参加し、リーダーシップがとれるように意識改革が必要。

[60代男性]

○今まで生きてきた中で男女の不平等は日常であり、それが当たり前として過ごしてきました。男女共同参画が叫ばれている今、当たり前ではないことに先ず気づくことが、声を上げる第一歩になると思います。

[30代女性]

○時代は常に変化しています。男女平等といわれてどれだけ進んできたのかと思いますが、職場や政治にはあまり広がっていません。男女共同参画が根付いてほしいです。ただ、私の時代よりは進んでいます。

[50代男性 類似意見－60代男性]

○政治家になる女性を増やす必要がある。そのためには女性にとっても魅力ある職業にしなければならない。現状はそうになっていないので、政治家になりたい女性を育てる後押しする施策が必要だと思う。

[40代男性 類似意見－70代以上女性]

○子どもが幼い頃は両親で育てるのがとても大切な事だと思うので、育休などの取得によって、その機会を確保できる社会であって欲しいと思います。

[50代女性]

2 就労における女性の活躍について

○女性が仕事に安心して就けるように家庭生活や子育てについてサポートがあればいい。女性が社会進出することによって女性の意見が増え、男女のどちらも過ごしやすい社会になるのではないかと。

[30代女性 類似意見-20代女性]

○仕事に対する意識を持った女性が妊娠、出産、育児又は介護によって仕事を中断しなくてもいいように、保育施設や介護施設のきめ細かい充実を図ることが大切だと思います。

[70代以上女性 類似意見-30代女性]

○もっと女性、特に子育て中や介護中の女性が働きやすい環境を作ってほしいと願います。

[30代女性]

○まだまだ男性は育児休暇が取りづらいです。女性が社会に出るには男性の協力が不可欠だと思います。子どものお迎えなど、時短勤務も男女ともに当たり前が取れるようになってほしい。

[30代男性 類似意見-20代女性、30代女性、30代男性]

○妊娠したら働きづらくなりました。妊娠中や出産後でも働きやすい環境をつくってほしい。こども園や幼保園を増やしてほしい。

[20代女性 類似意見-30代女性]

○娘が子どもを園に預けて仕事（フルタイム）をしているが、就労時間等で大変苦勞することも多く、世の中の母親がもう少し柔軟な時間帯で働けるようになれば良いと思います。

[60代女性]

○子育てをしながら在宅で出来る仕事や、技能の習得ができる機会があればいい。

[30代男性]

○女性が子育てしながらも働ける環境を整えるべきである（託児所を職場に設けるなど）。また、社会全体で男性が育児休暇を取得しやすくする工夫が必要である。

[20代女性]

3 教育について

○年配者やまわりの人の理解、幼少期からの教育、家庭環境は人それぞれだけど幼少期の教育によって、その環境が当たり前ではないと気付くことができれば良いと思う。子どもの頃の環境が男女共同参画に大きくかかわると思います。

[40代女性]

○子どもの教育が大切だと思います。子どもは親を見て育ちます。教育の場はもちろん、家庭環境はもっと大事だと思います。

[60代女性 類似意見-40代女性、70代以上男性]

○小さな子どもから高齢者まで意識改革と社会制度の見直しが必要だと思います。

[60代女性]

○人間らしくお互い助け合う気持ちをもつことを、学校教育の場や家庭教育の場で学習出来たら良いと思います。

[50代女性 類似意見-40代女性、70代以上女性]

4 行政への要望

○男女平等の意識がまだまだ低い。啓発活動を充実させてほしい。

[60代女性 類似意見-50代女性]

○男女共同参画を知らない女性が多い。肝心の女性の声をもっと聞いてほしい。

[60代女性]

○男女の家事、育児、介護に対する意識の底上げ、それに伴い、育児、介護休業の取りやすさにもっと力を入れてほしい。あとは女性の職場復帰を高める意識を全員にもってほしい。

[30代女性]

○小学生や中学生などの若いうちから男女共同参画についてより具体的に、より深く知ることのできる講座やイベントがあればいいなと思います。

[20代女性]

○和歌山はまだまだ都会に比べて男性の育児休暇の取得やテレワーク等が実行されていないのではないか。もっと行政が企業に向けて積極的に働きかけなければいけないと思う

[50代女性]

5 アンケートについて

○アンケートに回答させていただくことで、男女共同参画や世の中について考えるより良い機会となりました。用語の解説もあり、とても回答しやすかったです。

[40代女性 類似意見-40代女性]

○この調査で男女共同参画社会を知りました。今後、生活していく上で勉強になりました。

[30代女性 類似意見-40代女性、70代以上男性]

○質問項目が多すぎます。もう少し厳選を。

[40代男性 類似意見-30代男性、30代女性、40代男性]

IV 調査票

●あなたご自身についておたずねします

※以下の問いにあてはまるものを1つだけに○印

問1 性別について（※自認する性で構いません）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 年齢について

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 20～29 歳 | 2 30～39 歳 | 3 40～49 歳 | 4 50～59 歳 |
| 5 60～69 歳 | 6 70 歳以上 | | |

問3 現在の職業について

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1 会社員（正社員） | 2 自営業 |
| 3 農林水産業 | 4 公務員（正職員） |
| 5 パート・アルバイト、派遣、契約社員等の非正規雇用 | |
| 6 専業主婦・主夫 | 7 学生 |
| 8 無職 | 9 その他（ ） |

問4 結婚について ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方

- | |
|----------------------|
| 1 結婚している又は※パートナーがいる |
| 2 配偶者又はパートナーと離別・死別した |
| 3 結婚していない又はパートナーがいない |

→ 問4-1 問4で「1」と回答された方のみお答えください。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 共働きである | 2 自分のみ働いている |
| 3 配偶者・パートナーのみ働いている | 4 どちらも働いていない |

問5 現在共に生活している家族について

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 単身（ひとり暮らし） | 2 1世代（夫婦だけ） |
| 3 2世代（親と子） | 4 3世代（親と子と孫） |
| 5 その他（ ） | |

●男女共同参画についておたずねします

問6 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問7 「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②社会的に、離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5
③社会的に、離婚すると男性の方が不利である	1	2	3	4	5
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
⑤女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである	1	2	3	4	5
⑥男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである	1	2	3	4	5

問8 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先したいこと、優先していることはどれですか。

（①、②の項目について、あてはまる数字に 1つだけ ○印）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	わからない
①優先したいこと (1つだけに○印) →	1	2	3	4	5	6	7	8
②優先していること (1つだけに○印) →	1	2	3	4	5	6	7	8

問9 一般的に「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」のバランスをとるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

（**2つ**まで ○印）

1 残業を減らす
2 休暇をしっかり取る
3 家族と過ごす時間を大切にする
4 自己啓発を進める
5 自分の趣味の時間を取る
6 地域活動、ボランティア活動に参加する
7 必要と思わない
8 その他 ()

問10 あなたは次のことについてどの程度していますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	いつもする	するわりとよく	するとき	ほとんどしない	まったくしない	該当しない
①食事の支度	1	2	3	4	5	
②食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	
③食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	
④洗濯物を干す	1	2	3	4	5	
⑤洗濯物の取り入れや収納	1	2	3	4	5	
⑥部屋の掃除	1	2	3	4	5	
⑦トイレの掃除	1	2	3	4	5	
⑧風呂の掃除	1	2	3	4	5	
⑨ごみ出し	1	2	3	4	5	
⑩育児や子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
⑪高齢者や障害者の介護・看護	1	2	3	4	5	6

問11 子どもの育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2	3	4	5
②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい	1	2	3	4	5
⑦子どもが小さいうちは母親が子育てに専念した方がよい	1	2	3	4	5
⑧親が仕事をするために、子育て支援サービス(保育所・ベビーシッターなど)を活用してもよい	1	2	3	4	5
⑨子どもの世話の大部分は父親にもできる	1	2	3	4	5

問12 社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	現在、参加 している	今後は参加 したい	参加したく ない	以前、参加 したことが ある
①自治会・町内会の活動	1	2	3	4
②PTA・子ども会の活動	1	2	3	4
③青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動	1	2	3	4
④消費者団体等の活動	1	2	3	4
⑤趣味・スポーツ・教育等のグループ活動	1	2	3	4
⑥国際交流に関する活動	1	2	3	4
⑦自然環境保護に関する活動	1	2	3	4
⑧まちづくり等の市民活動	1	2	3	4
⑨社会福祉に関する活動	1	2	3	4
⑩ボランティア活動	1	2	3	4

問13 社会活動、地域活動に参加しようとする上で、どのようなことが問題になると思いますか。

(2つまで○印)

1 時間がない(仕事・家事・育児・介護で忙しい) 2 育児・介護を頼める所がない 3 健康や体力に自信がない 4 家族の理解がない 5 職場の上司や同僚などの理解がない 6 身近なところに活動する場所がない 7 自分に合った活動がない 8 どんな活動があるのか分からない 9 かかわりをもつと煩わしい 10 その他 ()
--

問14 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事・地域活動などへの参加に対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性による家事・地域活動などへの参加に対する評価を高める
- 6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 男性の家事・地域活動などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う
- 8 研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める
- 9 男性が家事・地域活動などを行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめる
- 10 男性が、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題を相談しやすい窓口を設ける
- 11 特に必要なことはない
- 12 その他 ()

問15 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思いますか。

(1つだけ○印)

- 1 取得したほうがよい
- 2 どちらかといえば取得したほうがよい
- 3 どちらかといえば取得しないほうがよい
- 4 取得しないほうがよい

育児・介護休業法(※)に基づき、一定の要件のもと、男性も女性も育児休業、介護休業を取得することができ、時短勤務制度を利用することができます。

※「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」

→ 問15-1 問15で「3」、または「4」と回答された方のみお答えください。

「取得しないほうがよい」と思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 経済的に苦しくなる
- 2 職場の理解が得られない
- 3 仕事の評価や配置に影響する
- 4 育児や介護は女性がすべきである
- 5 男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい
- 6 男性は育児や介護になれていない
- 7 周囲に取得した男性がいない
- 8 その他 ()

問 1 6 これまでに参加したことがある防災活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|--------------------------|
| 1 防災訓練 |
| 2 防災関係の講座や研修会 |
| 3 地域における防災活動（消防団、防火クラブ等） |
| 4 市民防災大学 |
| 5 参加したことがない |
| 6 その他（) |

問 1 7 避難所や防災・災害対策において、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|--------------------------------|
| 1 避難所の運営に、男女の責任者の配置 |
| 2 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置 |
| 3 性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品等）の備え |
| 4 備蓄品（下着・生理用品等）の配布時に配慮した担当者の配置 |
| 5 性別に配慮した交流の場の設置 |
| 6 男女のニーズに配慮した相談体制 |
| 7 女性や子どもへの暴力を防止するための防犯対策 |
| 8 その他（) |

防災について・・・

近年、防災に対する意識が非常に高くなってきています。

予防（平時）、応急、復旧・復興等のあらゆる局面において、男女のニーズの違いや多様性に配慮し取組を進めるためには、防災・復興に係る意思決定の場への女性の参画を拡大し、男女共同参画の視点を取り入れた防災・復興体制を確立する必要があります。

●女性の活躍についておたずねします

問18 女性活躍推進法について、知っていますか。

(1つだけ ○印)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 3 知らない

「女性活躍推進法」とは

平成27年8月、女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が制定されました。令和元年5月にはその一部を改正する法律が成立しています。

問19 次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の職業のもち方について、あなたはどの考えに近いですか。※未婚の方は結婚したと仮定した上で、お答えください。

(1) 理想の(理想としていた)職業のもち方(1つだけに○印)

- 1 結婚や出産にかかわらず、職業をもつ
- 2 結婚までは職業をもつが、結婚後はもたない
- 3 出産までは職業をもつが、出産後はもたない
- 4 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ
- 5 結婚または出産後、初めて職業をもつ
- 6 生涯職業をもたない
- 7 わからない
- 8 その他 ()

(2) 実際になりそうな(現実そうなっている)職業のもち方(1つだけに○印)

- 1 結婚や出産にかかわらず、職業をもつ
- 2 結婚までは職業をもつが、結婚後はもたない
- 3 出産までは職業をもつが、出産後はもたない
- 4 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業をもつ
- 5 結婚または出産後、初めて職業をもつ
- 6 生涯職業をもたない
- 7 わからない
- 8 その他 ()

問20 女性が働き続けていく上で、どのようなことが問題になると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
①職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある	1	2	3	4	5
②家事や育児・介護との両立は難しい	1	2	3	4	5
③育児・介護休業などの休暇制度が社会に浸透していない	1	2	3	4	5
④配偶者や家族の理解や協力が無い	1	2	3	4	5
⑤職場が責任ある仕事を女性に任せない	1	2	3	4	5
⑥子育てや介護のための施設や支援が不十分である	1	2	3	4	5
⑦女性自身の職業に対する自覚が不足している	1	2	3	4	5
⑧テレワークやフレックスタイム制など柔軟な働き方が社会に浸透していない	1	2	3	4	5

問21 就労について、性別による差があると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①募集・採用	1	2	3	4	5	6
②賃金	1	2	3	4	5	6
③仕事の内容	1	2	3	4	5	6
④昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
⑤管理職への登用	1	2	3	4	5	6
⑥人事評価(業績評価・能力評価など)	1	2	3	4	5	6
⑦会議などの意思決定の場への参加	1	2	3	4	5	6
⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい	1	2	3	4	5	6

問2 2 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1 | 女性の雇用機会を拡大する |
| 2 | 賃金、昇給の男女の格差をなくす |
| 3 | 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める |
| 4 | 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う |
| 5 | 男女ともに、教育・研修の機会を充実する |
| 6 | 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる |
| 7 | テレワークやフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度を導入する |
| 8 | 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする |
| 9 | 職場における様々なハラスメントをなくす |
| 10 | 職場において男女が対等であるという意識を普及させる |
| 11 | 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める |
| 12 | その他 () |

問2 3 役職、公職において今後女性が増えるほうがよいと思うものはどれですか。

(あてはまるもの3つまでに○印)

- | | |
|----|-----------------|
| 1 | 知事や市町村長 |
| 2 | 国会議員、地方議会議員 |
| 3 | 国家公務員・地方公務員の管理職 |
| 4 | 裁判官、検察官、弁護士 |
| 5 | 大学教授 |
| 6 | 企業の管理職 |
| 7 | 企業家・経営者 |
| 8 | 自治会長、町内会長等 |
| 9 | わからない |
| 10 | その他 () |

●DV（配偶者等からの暴力）についておたずねします

※配偶者には婚姻の届け出をしていない事実婚や別居中も含まれます。

問 2 4 配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことはどのようなことですか。

あなたの考えに近いものをお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印）

	暴力にあたる	ない暴力にあたら	るない場合もある
①なぐったり、けったりする	1	2	3
②物をぶつける	1	2	3
③怖がらせたりして、脅す	1	2	3
④人と会うことや外出などを制限する	1	2	3
⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する	1	2	3
⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする	1	2	3
⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く	1	2	3
⑧嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3

問 2 5 これまでに配偶者や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印）

	何度もあった	1・2度あった	まったくない	ない
①なぐったり、けったりする	1	2	3	今までに配偶者や交際相手はい
②物をぶつける	1	2	3	
③怖がらせたりして、脅す	1	2	3	
④人と会うことや外出などを制限する	1	2	3	
⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する	1	2	3	
⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする	1	2	3	
⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く	1	2	3	
⑧嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	

問25-1 問25で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみお答えください。

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-------------------------|-------------|----------|
| 1 家族 | 2 友人 | 3 警察 |
| 4 弁護士 | 5 医師・カウンセラー | 6 市や県の窓口 |
| 7 学校・職場 | 8 その他 () | |
| 9 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった | | |

→問25-2 問25-1で「9 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答された方のみお答えください。

あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|--------------------------------|
| 1 誰(どこ)に相談してよいか分からなかった |
| 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった |
| 3 相談しても無駄だと思った |
| 4 相談したことが分ると、仕返しを受けると思った |
| 5 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った |
| 6 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った |
| 7 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った |
| 8 世間体が悪いと思った |
| 9 他人を巻き込みたくないと思った |
| 10 自分が悪いと思った |
| 11 そのことを思い出したくなかった |
| 12 相談するほどのことではないと思った |
| 13 その他 () |

問26 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1 警察 | 2 法務局・人権擁護委員・民生委員 |
| 3 配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター) | |
| 4 和歌山市男女共生推進センター“みらい” | 5 市役所 |
| 6 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる” | 7 県庁・県振興局 |
| 8 内閣府 DV相談+ (プラス) | 9 医師その他医療関係者 |
| 10 相談窓口として知っているところはない | |
| 11 その他 () | |

問27 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時にどのような支援が必要だと思いませんか。（**あてはまるものすべてに○印**）

- 1 一時的に加害者から逃れる場所の提供
- 2 警察の介入
- 3 親身になって、相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与
- 6 自分自身・自分と子どもの心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちとの対話
- 8 加害者に対する責任追及（損害賠償など）
- 9 加害者への教育（暴力防止など）
- 10 わからない
- 11 その他（)

問28 配偶者や交際相手との間の暴力を防ぐために、取り組みを進める必要があると思うことは何ですか。（**2つまで○印**）

- 1 法律の罰則を強化する
- 2 相談できるところを増やす
- 3 市民に対する啓発や情報提供を行う
- 4 加害者に対する啓発を行う
- 5 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する
- 6 子どもの時から暴力否定の教育を進める
- 7 わからない
- 8 その他（)

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

配偶者等の親しい間でふるわれる暴力のことをいいます。「なぐる」「ける」といったような身体的暴力だけでなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「生活費を渡さない」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

また、配偶者等の間におけるDVは子どもにも大きな影響を与えます。

平成29年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、配偶者からの「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」などの被害を受けた経験について、被害経験が「あった」との回答の割合は、女性が31.3%、男性は19.9%の結果となっています。

● 語句の説明と今後についておたずねします

問 2 9 あなたは、次の用語を知っていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印)

	言葉も内容も 知っている	言葉は知って いるが内容は 知らない	言葉も内容も 知らない
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	1	2	3
③育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）	1	2	3
④DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
⑤ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）	1	2	3
⑥ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑦ポジティブ・アクション（積極的格差改善措置）	1	2	3
⑧ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
⑩メディア・リテラシー	1	2	3
⑪ダイバーシティ	1	2	3
⑫デートDV	1	2	3
⑬面前DV	1	2	3
⑭LGBT	1	2	3
⑮男女共生推進センター“みらい”	1	2	3

この機会に、男女共同参画に関する言葉を少し、、、

ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和、一人ひとりがやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

ポジティブ・アクション：雇用の場における事実上の男女格差の解消を目指して、女性の能力発揮を促進し、その活用をはかる積極的な取り組みのこと。

ジェンダー：「女らしさ、男らしさ」といった社会的・文化的側面から見た性別のこと。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖において、人間が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保することをめざそうという概念のこと。

メディア・リテラシー：メディアの内容を読み解き・活用し、メディアを使って表現する能力のこと。

ダイバーシティ：「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。

デートDV：主に恋人間でおこるDVのこと。

面前DV：子どもの前で行われるDVのこと。

LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（自分の思っている性と体が一致しない人）の頭文字。

また、LGBT以外にも様々な性の在り方が認識されています。

性暴力：同意がなく、対等でない、また強要された、本人の意思に反する性的な行為のこと。

問30 和歌山市男女共同参画推進条例について、知っていますか。

(1つだけ ○印)

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 3 知らない

「和歌山市男女共同参画推進条例とは」

本市における男女共同参画社会の実現を総合的かつ計画的に推進していくため、平成30年6月に施行されました。条文の中では基本理念を定め、市や事業者及び市民の皆様方の役割を明らかにし、男女共同参画の推進に関する施策について基本的な事項が定められています。

問31 本市では、男女共同参画に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 男女共同参画の基礎知識 | 2 地域活動 |
| 3 防災 | 4 男性の家事、育児参加 |
| 5 子育て、教育 | 6 介護 |
| 7 女性のための起業、再就職 | 8 こころとからだの健康 |
| 9 リフレッシュ | 10 DV防止、被害者支援 |
| 11 コミュニケーション | 12 ライフプランニング |
| 13 性的マイノリティ（LGBT等） | 14 ワーク・ライフ・バランス |
| 15 その他（ | ） |

問32 男女共同参画を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う
 - 2 社会活動、地域活動などを配偶者（パートナー）とともに担う
 - 3 経済的に自立する
 - 4 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
 - 5 仕事と生活の時間のバランスをうまく取る
 - 6 社会の一員としての自覚と責任を持つ
 - 7 育児・介護休業の必要な場合など配偶者（パートナー）と相談の上取得する
 - 8 人権・平等についての理解を深めるように努める
 - 9 配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める
 - 10 その他（
- ）

問33 男女共同参画を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 男女平等の視点から、社会制度等の見直しを行う
- 2 政策決定の場への女性の参画を拡大する
- 3 地域で活動する女性リーダーを養成する
- 4 就労における男女の均等な取扱いについて啓発する
- 5 仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する
- 6 母性保護の視点から、生涯を通じた女性の健康保持に関する施策を充実する
- 7 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
- 8 男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する
- 9 保育や介護における、施設やサービスを充実する
- 10 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
- 11 それぞれの性別の生き方に関する情報提供や交流、相談などを充実する
- 12 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
- 13 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女平等を働きかける
- 14 DV(配偶者等からの暴力)を防止するための施策を充実する
- 15 その他()

●男女共同参画をさらに推進していくためのご意見をお聞かせください

※※ ご協力ありがとうございました ※※

